

巻末資料 2

地震災害に関する県民意識調査結果

目 次

第Ⅰ部 調査の概要	1
第Ⅱ部 回答者の属性	3
第Ⅲ部 調査結果の詳細	5
1 東日本大震災について	5
(1) 東日本大震災で困ったこと	5
(2) 震災発生後1ヶ月間でほしかった情報	7
2 大地震への不安について	9
(1) 居住地域での大地震への不安	9
(2) 大地震が発生した場合の心配な被害	10
(3) 大地震が発生した後の心配事	12
3 日ごろの防災対策について	14
(1) 地震および地震火災に対する日ごろの備え	14
(2) 災害時における連絡方法	16
(3) 食料の備蓄	18
(4) 飲料水の備蓄	19
(5) 地震保険等の加入状況	20
(6) 防災に関する知識・経験等	21
4 住宅の地震対策について	23
(1) 住居の建築時期	23
(2) 住居の構造	24
(3) 住居の形態	25
(4) 耐震診断の受診状況	26
(5) 耐震補強の実施状況	29
(6) 耐震補強の実施予定	31
(7) 耐震補強の費用	32
(8) リフォーム実施状況	33
5 家具類の固定について	35
(1) 家具・家電等の固定状況	35
(2) 個々の家具・家電等の固定状況	36
(3) 家具の固定を行わない理由	38

6	ブロック塀等の対策について	39
	(1) ブロック塀等の設置状況および対策	39
7	地域との関わり合いや協力について	41
	(1) 近隣との付き合いの状況	41
	(2) 自主防災組織の認知度	43
	(3) 防災訓練への参加状況	44
	(4) 大地震発生時の助け合いや協力等の見通し	46
8	大地震が起きたときの行動について	48
	(1) 緊急地震速報の受信設定	48
	(2) 緊急地震速報を見聞きした際の行動	49
	(3) 大地震発生直後の避難の基準	50
	(4) 大地震発生直後の避難場所	53
	(5) 避難所で充実してほしいこと	56
	(6) 通勤・通学・買物等の交通手段	57
	(7) 帰宅困難時にほしい情報	59
9	これからの地震対策の取り組みについて	60
	(1) 地震対策の実施主体	60
	(2) 自治体の取り組みに必要なこと	61
	(3) 行政が実施する地震対策に関する意見（自由記述）	62
参考資料 1	調査画面	64
参考資料 2	アンケート調査の活用に関する留意点	81

第Ⅰ部 調査の概要

1 調査目的

群馬県地震被害想定調査の一環として、群馬県民を対象に、大規模地震に対する事前の備えや発生時における行動等について、アンケート調査を実施した。

このアンケート調査結果については、今後県が実施する地震防災対策に活用するための資料とする。

2 調査項目

- (1) 東日本大震災について
- (2) 大地震への不安について
- (3) 日ごろの防災対策について
- (4) 住宅の地震対策について
- (5) 家具類の固定について
- (6) ブロック塀等の対策について
- (7) 地域との関わり合いや協力について
- (8) 大地震が起きたときの行動について
- (9) これからの地震対策の取り組みについて

3 調査概要

【調査方法】

一般消費者モニターに対してインターネットを通じて質問（調査票）を送付し、回答を回収した。

【調査対象】

群馬県に在住する男女（15歳以上80歳未満）

【対象者数】

3037件

【調査期間】

2012年2月17日（金）～2月23日（木）

4 報告書の見方

- (1) 集計は、小数点第2位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- (2) 基数となるべき実数（n）は、設問に対する回答者数である。
- (3) 回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基数として算出している。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している。
- (5) 掲載しているクロス集計表では、全体に対して10ポイント以上高いものをピンクで、10ポイント以上低いものを水色で着色している。

5 集計方法

本報告書では、インターネットを通じた調査における回答者の年齢層等の偏りを考慮し、集計結果から県民全体の傾向をとらえるため、地域ごと（中部地域、西部地域、吾妻地域、利根沼田地域、東部地域の5地域区分）の人口の年齢別・男女別構成比に合わせてウェイトバック集計*を行った結果を掲載している。

*ウェイトバック集計：アンケートで回収されたデータを、母集団（ここでは群馬県全体の人口）の実際の構成比に合わせてデータに重み付けして集計すること

具体的な方法としては、まず、総務省統計局による「平成22年国勢調査人口等基本集計」の群馬県の結果を利用し、以下に示す表のように人口の構成比を算出した。

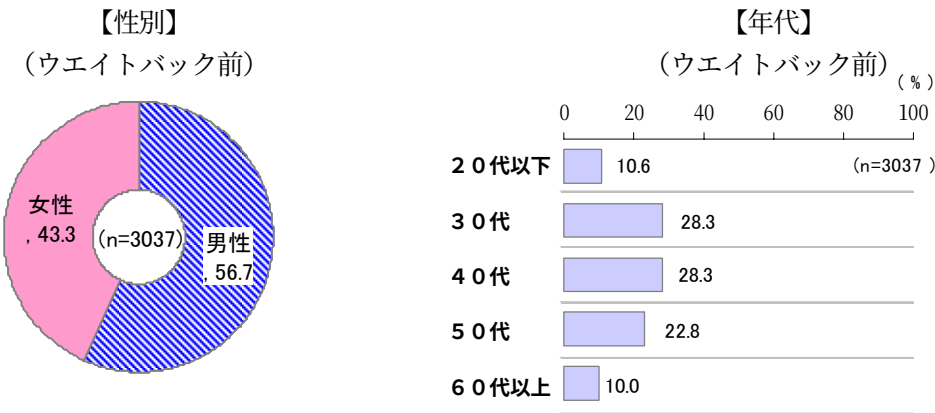
地域名		20代以下	30代	40代	50代	60代以上	小計	計
中部地域	男性	3.30%	3.14%	2.89%	2.91%	5.18%	17.42%	34.93%
	女性	3.22%	2.96%	2.80%	2.85%	5.69%	17.52%	
西部地域	男性	2.63%	2.51%	2.34%	2.40%	4.59%	14.47%	29.13%
	女性	2.54%	2.42%	2.28%	2.40%	5.02%	14.66%	
吾妻地域	男性	0.23%	0.21%	0.23%	0.30%	0.56%	1.53%	3.04%
	女性	0.22%	0.19%	0.22%	0.28%	0.61%	1.51%	
利根沼田地域	男性	0.36%	0.31%	0.33%	0.43%	0.74%	2.17%	4.38%
	女性	0.34%	0.30%	0.33%	0.41%	0.84%	2.22%	
東部地域	男性	2.71%	2.66%	2.37%	2.31%	4.45%	14.49%	28.52%
	女性	2.37%	2.38%	2.14%	2.29%	4.85%	14.02%	
計		17.90%	17.08%	15.91%	16.58%	32.53%	100.00%	

※アンケートの回答者が15歳以上80歳未満のため、その年齢での計算

そのうえで、この構成比にあわせ回答者の重みづけを行い、回収数の3037名になるように集計を行った。

なお、各設問において各選択肢の回答人数を足し上げた場合、ウエイトバックの小数点の計算の関係上、各設問の回答サンプル数と一致しない場合がある。

参考までにウエイトバック前の回答者属性を以下に掲載しておく。



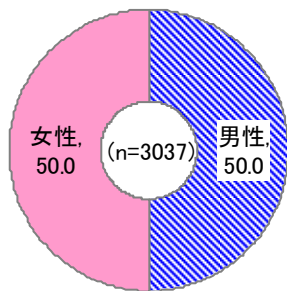
【居住地域】(ウエイトバック前)

	人数		人数		人数		人数
中部地域 計	1026	富岡市	73	嬬恋村	16	東部地域 計	879
前橋市	590	安中市	81	草津町	11	桐生市	203
伊勢崎市	247	上野村	1	高山村	1	太田市	348
渋川市	77	神流町	3	東吾妻町	18	館林市	120
榛東村	15	下仁田町	6	利根沼田地域 計	99	みどり市	65
吉岡町	32	南牧村	3	沼田市	57	板倉町	13
玉村町	65	甘楽町	9	片品村	7	明和町	14
西部地域 計	949	吾妻地域 計	84	川場村	3	千代田町	10
高崎市	680	中之条町	27	昭和村	7	大泉町	66
藤岡市	93	長野原町	11	みなかみ町	25	邑楽町	40
						合計	3037

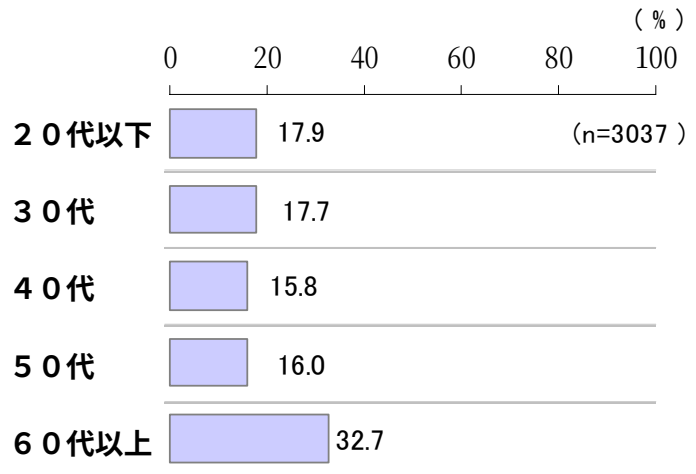
第Ⅱ部 回答者の属性

本調査の回答者の属性（ウエイトバック後）は以下のとおりである。

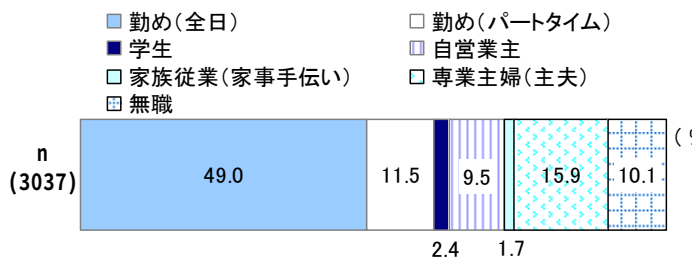
【性別】



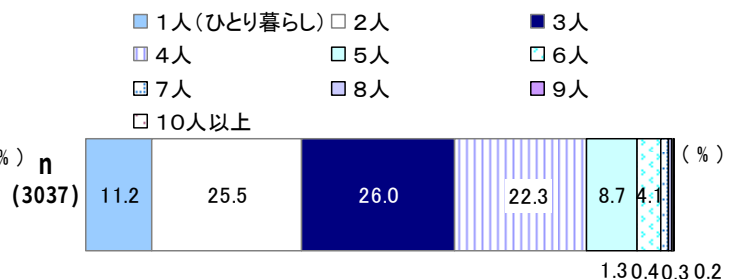
【年代】



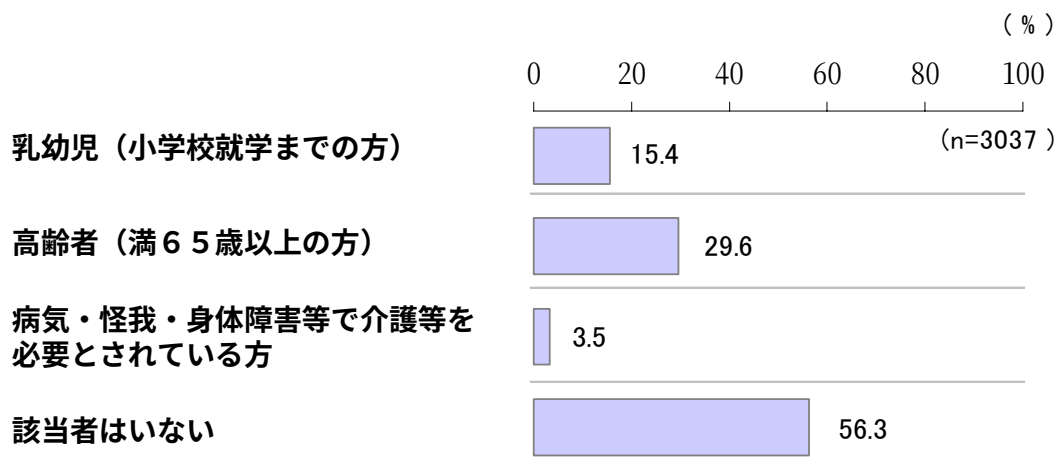
【職業】



【一緒に暮らしている家族の人数】



【家族内の災害時要援護者の有無】



【居住地域】

	人数		人数		人数		人数
中部地域 計	1050	富岡市	76	嬬恋村	13	東部地域 計	866
前橋市	638	安中市	73	草津町	13	桐生市	203
伊勢崎市	223	上野村	1	高山村	2	太田市	345
渋川市	74	神流町	2	東吾妻町	14	館林市	121
榛東村	11	下仁田町	6	利根沼田地域 計	133	みどり市	58
吉岡町	33	南牧村	2	沼田市	75	板倉町	14
玉村町	71	甘楽町	7	片品村	7	明和町	12
西部地域 計	898	吾妻地域 計	90	川場村	2	千代田町	13
高崎市	640	中之条町	33	昭和村	9	大泉町	67
藤岡市	91	長野原町	15	みなかみ町	40	邑楽町	33
						合計	3037

【勤務先または通学先の所在地】

	人数		人数		人数		人数		人数
中部地域 計	657	安中市	36	高山村	3	館林市	58	神奈川県	5
前橋市	402	上野村	8	東吾妻町	16	みどり市	34	栃木県	24
伊勢崎市	140	神流町	1	利根沼田地域 計	49	板倉町	4	茨城県	1
渋川市	66	下仁田町	1	沼田市	33	明和町	8	新潟県	1
榛東村	4	南牧村	1	片品村	3	千代田町	9	長野県	8
吉岡町	10	甘楽町	4	川場村	1	大泉町	37	福島県	2
玉村町	35	吾妻地域 計	53	昭和村	6	邑楽町	17	その他	2
西部地域 計	525	中之条町	21	みなかみ町	6	県外 計	154	合計	1908
高崎市	381	長野原町	6	東部地域 計	468	埼玉県	59		
藤岡市	46	嬬恋村	4	桐生市	83	東京都	51		
富岡市	47	草津町	3	太田市	218	千葉県	1		

第Ⅲ部 調査結果の詳細

1 東日本大震災について

(1) 東日本大震災で困ったこと

困ったことは「ガソリンの不足」が8割強

Q5. 平成23年3月11日に東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)が発生した直後から約1ヶ月の間で、何か困ったことはありましたか。(複数回答)

(n=3037)

ガソリンの不足

84.7

「計画停電」による停電

75.2

余震による不安

51.7

放射線による不安

41.2

食料品・水の調達

34.9

日用品の調達

25.4

各種情報の入手

14.8

バス・鉄道の運行停止

13.5

被災地域への連絡(電話の不通等)

11.6

自宅等の被災に伴う後片付けや手続き・対応

3.5

その他

4.4

特に困ったことはなかった

3.5

東北地方太平洋沖地震が発生した直後から約1ヵ月間の間で困ったことは、「ガソリンの不足」(84.7%)と「計画停電による停電」(75.2%)が、「余震による不安」(51.7%)を大きく上回った。

年代別でみると、20代以下では他の年代に比べて「自宅等の被災に伴う後片付けや手続き・対応」に困ったほか、「放射線による不安」に悩まされた。

地域別でみると、吾妻地域では他の地域と比べて「ガソリンの不足」、「食料品・水の調達」、「余震による不安」、「計画停電による停電」が低い。また「計画停電による停電」は利根沼田地域でも低く、11.0%であった。

<性別・年代別・地域別 結果>

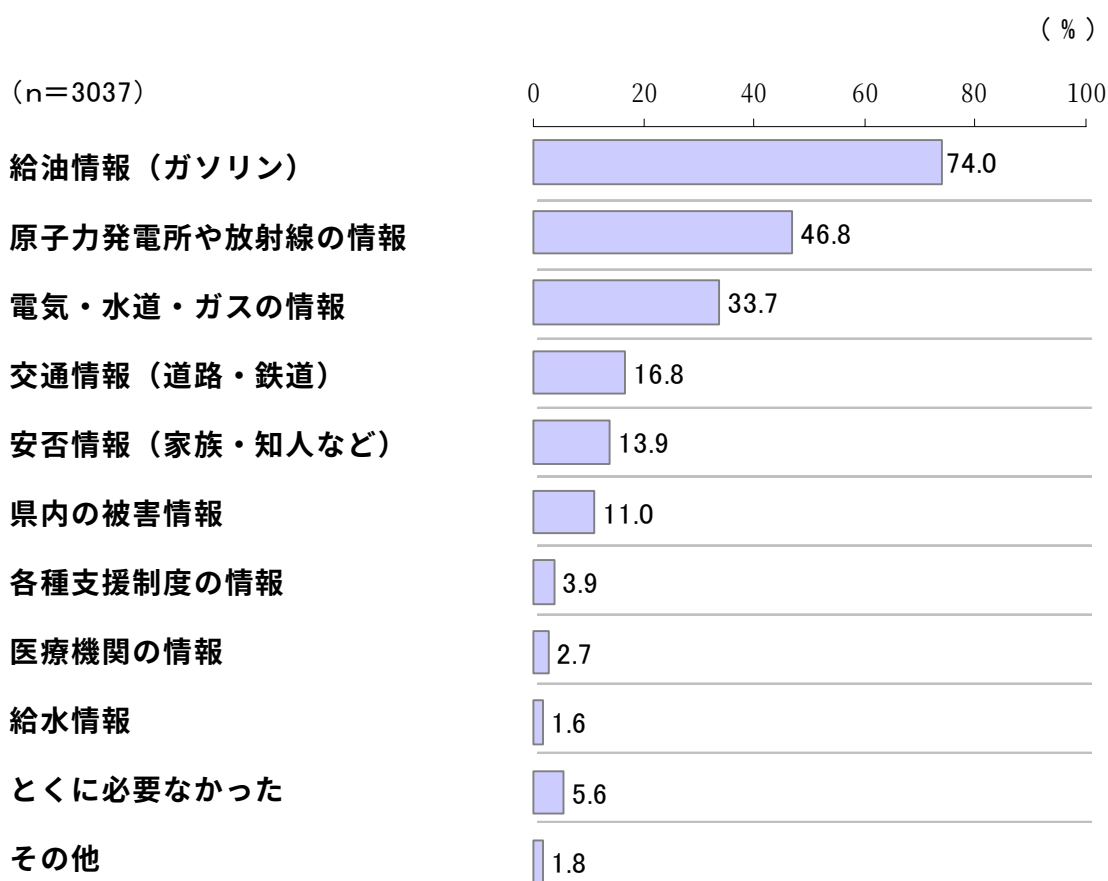
(単位：％)

	n	片 自 付け宅 や等の 手被災 続に き・伴 対う 応後	各 種情 報の 入 手	被 災地 域へ の連 絡（ 電 話の 不通 等）	ガ ソリ ンの 不 足	バ ス・ 鉄道 の運 行停 止	食 料品 ・水 の調 達	日 用品 の調 達	余 震に よる 不 安	放 射線 によ る不 安	電 「計 画停 電」 によ る停	そ の 他	特 に困 った こと はな か つ た
全 体	3037	3.5	14.8	11.6	84.7	13.5	34.9	25.4	51.7	41.2	75.2	4.4	3.5
性別													
男性	1517	4.9	14.9	10.2	83.4	14.2	34.0	24.9	48.8	38.2	74.5	4.7	4.2
女性	1520	2.1	14.8	13.0	86.1	12.9	35.8	26.0	54.5	44.2	75.9	4.0	2.9
年代													
20代以下	543	6.6	17.4	11.7	81.3	13.2	34.0	26.5	51.1	44.4	71.4	6.2	4.1
30代	539	2.9	17.1	10.2	86.0	13.5	40.0	29.8	54.0	43.5	76.0	3.8	3.2
40代	479	3.7	14.3	10.3	86.8	13.3	36.7	26.1	51.3	39.0	77.6	3.9	3.4
50代	485	2.6	12.4	11.4	87.3	13.7	36.6	25.9	51.2	38.7	78.9	4.4	1.9
60代以上	992	2.6	13.6	13.2	83.7	13.7	30.9	21.9	51.0	40.5	73.8	3.9	4.3
居住地域													
中部地域	1050	3.6	12.3	12.8	84.7	13.5	36.4	23.7	50.0	43.7	74.9	4.6	4.6
西部地域	897	2.7	18.0	12.5	84.0	13.9	35.8	29.4	50.9	38.5	82.1	4.7	2.8
吾妻地域	90	0.0	8.2	11.3	67.7	12.9	19.6	16.6	39.4	43.5	50.3	1.9	12.5
利根沼田地域	134	2.9	7.2	6.6	85.9	7.9	28.1	23.3	51.1	40.6	11.0	0.0	1.6
東部地域	865	4.8	16.5	10.1	87.2	14.1	34.9	24.7	55.9	40.9	80.9	4.7	2.4

(2) 震災発生後1ヶ月間でほしかった情報

最もほしかった情報は「給油情報」で7割強

Q6. 東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)の発生直後から約1ヶ月の間に、最もほしかった情報は何ですか。(3つまで選択)



地震発生直後から約1ヶ月間の間で最もほしかった情報は、「給油情報 (ガソリン)」が最も高く74.0%で7割強にのぼる。次いで「原子力発電所や放射線の情報」が46.8%で半数近く。「電気・水道・ガスの情報」が33.7%でつづく。5頁のQ5でも、困ったことのトップとして「ガソリンの不足」(84.7%)があげられており、ガソリンの不足に関する問題が深刻だったことがうかがえる。

年代によるほしかった情報の違いはほとんど見られない。

地域別に見ると、吾妻地域や利根沼田地域では、「電気・水道・ガスの情報」については他の地域と比べてほしかったという比率が極めて低く、ライフラインへの心配が小さかったことがうかがえる。

<性別・年代別・地域別 結果>

(単位：％)

	n	県内の被害情報	家族・知人など(安否情報)	交通情報(道路・鉄道)	給油情報(ガソリン)	給水情報	電気・水道・ガスの情報	医療機関の情報	各種支援制度の情報	放射線・原子力発電所や放射線の情報	とくに必要なかった	その他
全 体	3037	11.0	13.9	16.8	74.0	1.6	33.7	2.7	3.9	46.8	5.6	1.8
性別												
男性	1517	12.0	14.4	17.0	74.8	1.6	33.6	2.5	3.5	44.2	5.8	2.0
女性	1520	10.0	13.4	16.7	73.1	1.5	33.8	2.9	4.2	49.4	5.3	1.6
年代												
20代以下	543	13.6	16.2	18.7	72.7	1.5	35.0	2.7	5.5	44.8	5.1	2.1
30代	539	12.6	12.8	15.1	75.6	2.5	34.7	2.3	3.5	48.1	6.1	1.6
40代	479	12.5	12.2	14.3	74.8	1.6	35.4	2.1	3.1	46.9	5.5	2.2
50代	485	11.6	15.1	14.7	76.4	0.9	34.1	3.5	4.5	46.8	4.5	1.5
60代以上	992	7.6	13.4	19.0	72.2	1.4	31.5	2.7	3.2	47.3	6.1	1.7
居住地域												
中部地域	1050	12.5	11.8	16.0	75.7	1.4	32.6	3.1	3.7	46.1	5.3	2.3
西部地域	897	11.8	16.2	17.8	67.5	1.9	38.1	2.2	3.2	47.0	4.6	1.5
吾妻地域	90	8.6	17.4	17.0	67.5	0.9	14.3	3.1	9.4	44.2	11.7	1.0
利根沼田地域	134	15.1	8.6	12.9	76.3	0.4	16.2	1.3	6.2	47.2	12.1	0.6
東部地域	865	7.9	14.5	17.4	78.9	1.7	35.3	2.8	3.8	47.9	5.3	1.8

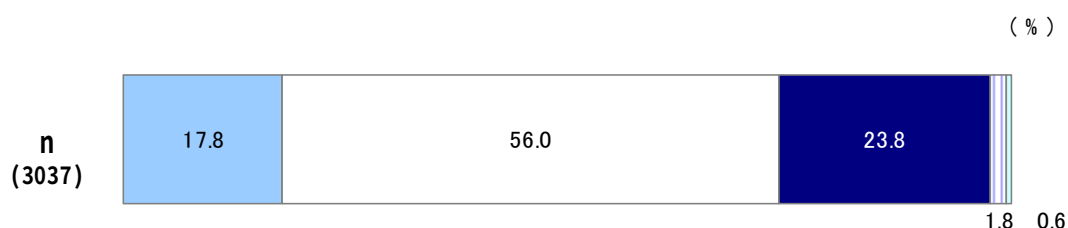
2 大地震への不安について

(1) 居住地域での大地震への不安

4人中3人が大地震にあうかもしれない不安を感じる

Q7. あなたは、お住まいの地域で大地震にあうかもしれないという不安を感じることがありますか。

■ 非常に不安を感じる □ 少し不安を感じる ■ あまり不安を感じない
□ 全く不安を感じない □ わからない



居住している地域で大地震にあうかもしれない不安を感じるかをたずねたところ、「少し不安を感じる」が最も高く56.0%と半数以上を占める。「非常に不安を感じる」(17.8%)と「少し不安を感じる」(56.0%)を合わせた不安を感じる層は73.8%を占め、4人中3人は不安を感じているといえる。

男女や年代による不安感には大きな差はないが、地域別では、東部地域で「非常に不安を感じる」(27.5%)がやや多く、吾妻地域と利根沼田地域で「あまり不安を感じない」がやや多い。

<性別・年代別・地域別 結果> (単位：%)

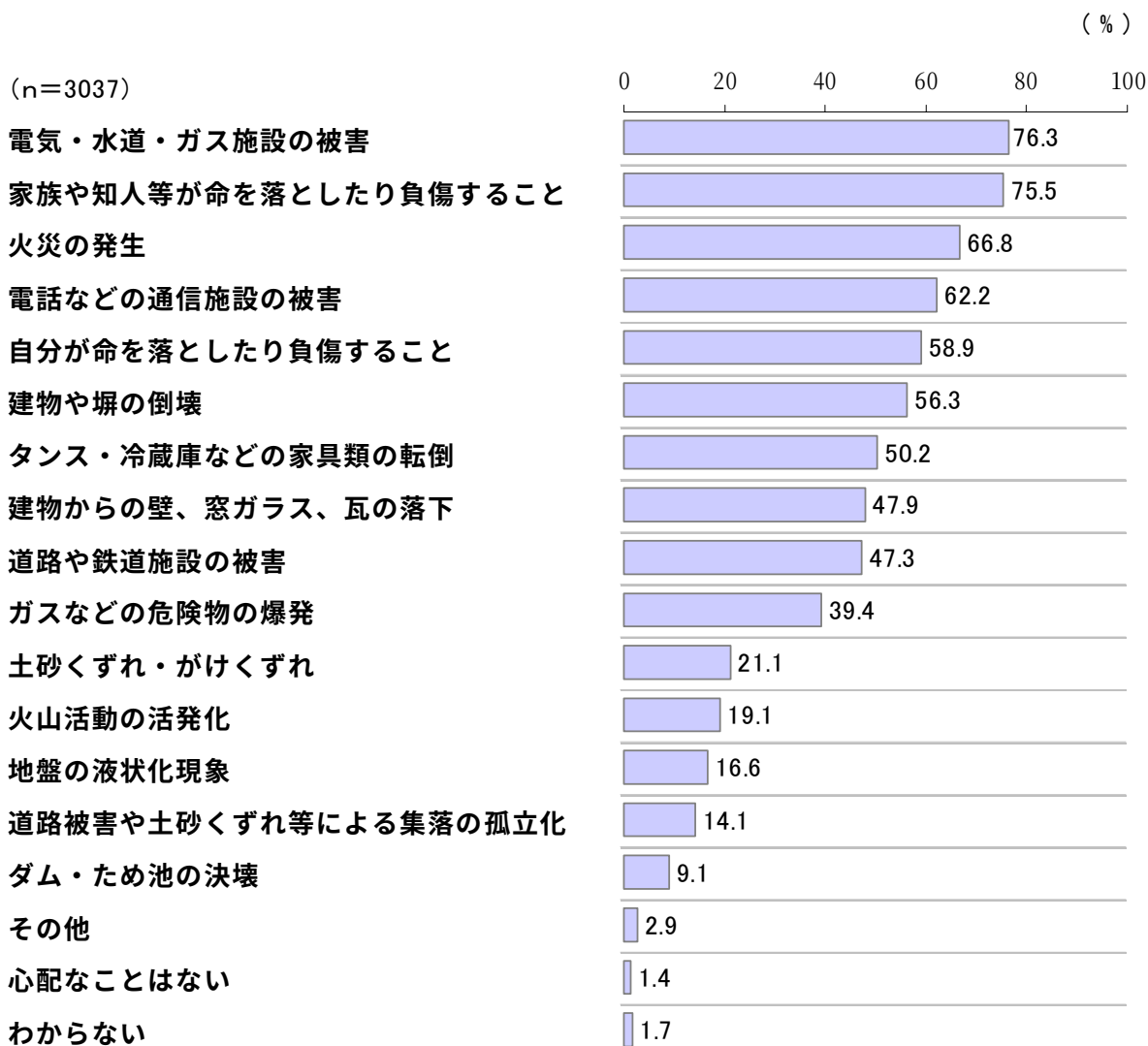
	n	非常に不安を感じる	少し不安を感じる	あまり不安を感じる	全く不安を感じない	わからない
全 体	3037	17.8	56.0	23.8	1.8	0.6
性別						
男性	1517	16.3	56.6	24.9	1.6	0.6
女性	1520	19.3	55.4	22.7	2.1	0.5
年代						
20代以下	543	18.2	54.0	25.5	1.7	0.6
30代	539	18.6	55.6	24.1	1.5	0.3
40代	479	18.0	54.8	24.9	1.8	0.5
50代	485	19.4	55.1	23.8	1.5	0.3
60代以上	992	16.3	58.2	22.2	2.3	0.9
居住地域						
中部地域	1050	14.0	58.6	24.6	2.5	0.3
西部地域	897	14.0	58.1	25.3	1.2	1.4
吾妻地域	90	11.6	50.1	35.5	2.2	0.6
利根沼田地域	134	14.2	51.9	33.6	0.4	0.0
東部地域	865	27.5	51.9	18.5	1.9	0.2

(2) 大地震が発生した場合の心配な被害

「電気・水道・ガス施設」と「家族や知人等の安否」の心配が8割弱

Q8-1.

あなたの住んでいる地域で大地震が発生した場合、発生することが心配な被害は何ですか。
(複数回答)



大地震が発生した場合、発生することが心配な被害は、「電気・水道・ガス施設の被害」が最も高く76.3%である。次いで「家族や知人等が命を落としたり負傷すること」(75.5%)が多く、「自分が命を落としたり負傷すること」(58.9%)と併せ、生命に関する不安が大きい。また、「火災の発生」(66.8%)や「電話などの通信施設の被害」(62.2%)など二次災害やインフラに対する心配が6割を超えて高く、そのほか「タンス・冷蔵庫などの家具類の転倒」(50.2%)も半数を超えている。

地域別でみると、「土砂くずれ・がけくずれ」と「道路被害や土砂くずれ等による集落の孤立化」は吾妻地域と利根沼田地域で他の地域と比べると高い。また「ダム・ため池の決壊」は利根沼田地域で、「火山活動の活発化」は吾妻地域で高くなっており、それぞれの地域の自然条件を反映している。

＜性別・年代別・地域別 結果＞

(単位：％)

	n	自分が命を落としたり負傷すること	家族や知人等が命を落としたり負傷すること	タンス・冷蔵庫などの家具類の転倒	建物からの壁、窓ガラス、瓦の落下	建物や塀の倒壊	火災の発生	ガスなどの危険物の爆発	地盤の液化化現象	土砂くずれ・がけくずれ
全 体	3037	58.9	75.5	50.2	47.9	56.3	66.8	39.4	16.6	21.1
性別										
男性	1517	60.2	75.2	48.6	44.5	53.0	65.1	36.8	16.2	18.9
女性	1520	57.5	75.9	51.8	51.4	59.5	68.5	41.9	17.0	23.3
年代										
20代以下	543	66.5	80.6	56.2	48.5	59.1	68.6	43.0	17.5	18.8
30代	539	62.2	79.1	47.5	45.5	55.3	62.1	38.1	15.5	19.9
40代	479	57.2	75.9	50.6	48.3	55.8	65.1	38.9	16.2	20.2
50代	485	54.6	74.1	52.1	48.7	56.2	67.1	38.9	13.8	17.0
60代以上	992	55.8	71.4	47.3	48.3	55.5	69.0	38.6	18.4	25.5
居住地域										
中部地域	1050	61.1	76.8	51.0	46.7	55.0	65.8	40.8	16.0	14.5
西部地域	897	60.9	78.2	50.7	50.3	58.7	68.2	43.3	16.8	26.0
吾妻地域	90	55.3	74.1	34.7	33.6	41.4	60.3	22.6	3.5	52.0
利根沼田地域	134	49.9	71.3	46.9	40.1	59.4	62.2	32.7	9.9	47.5
東部地域	865	55.8	72.1	50.8	49.6	56.4	67.9	36.4	19.7	16.8

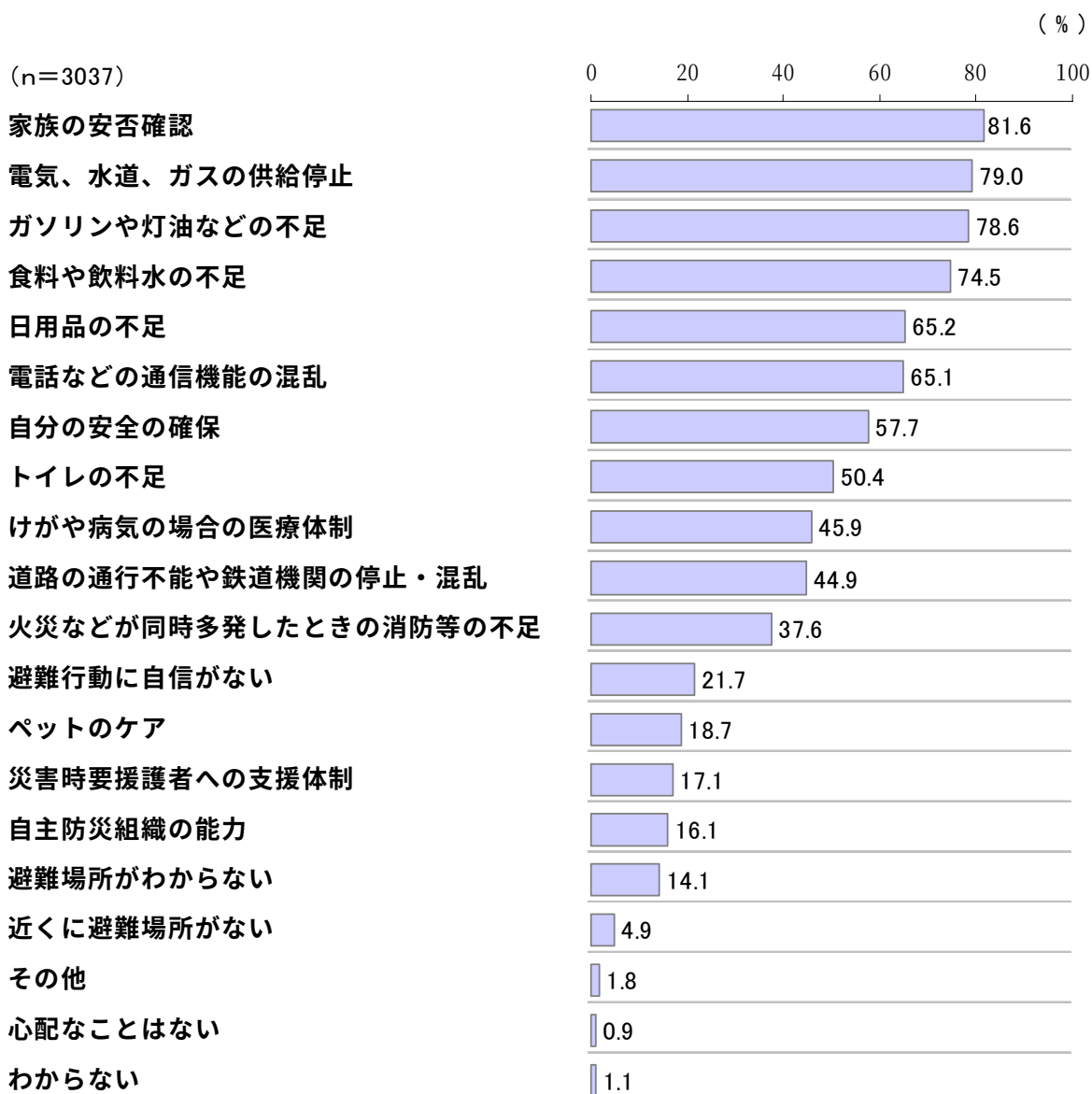
	ダム・ため池の決壊	道路被害や土砂くずれ等による集落の孤立化	火山活動の活発化	道路や鉄道施設の被害	電話などの通信施設の被害	電気・水道・ガス施設の被害	その他	心配なことはない	わからない
全 体	9.1	14.1	19.1	47.3	62.2	76.3	2.9	1.4	1.7
性別									
男性	8.0	13.3	18.6	46.4	58.2	72.9	3.3	1.4	1.4
女性	10.1	15.0	19.7	48.3	66.2	79.7	2.6	1.5	1.9
年代									
20代以下	9.0	12.9	19.5	49.8	59.0	71.8	3.5	1.1	1.2
30代	8.6	12.7	21.2	45.3	58.0	75.0	2.6	1.5	0.8
40代	8.4	16.6	20.3	47.5	61.1	77.0	3.7	1.0	1.4
50代	9.5	14.5	19.7	47.1	59.1	76.6	3.1	1.3	1.4
60代以上	9.5	14.2	17.0	47.1	68.3	79.0	2.3	1.9	2.6
居住地域									
中部地域	6.6	10.8	19.3	45.9	64.2	78.0	3.6	1.9	0.2
西部地域	9.8	15.5	24.8	48.4	63.1	77.4	3.0	0.7	1.6
吾妻地域	9.7	46.1	52.2	45.4	45.6	65.2	4.2	1.7	1.1
利根沼田地域	33.5	33.7	19.6	43.4	47.7	71.0	1.3	0.0	10.3
東部地域	7.4	10.4	9.5	48.8	62.8	75.1	2.1	1.9	2.2

(3) 大地震が発生した後の心配事

「家族の安否確認」、「電気、水道、ガス」、「ガソリンや灯油」が心配

Q8-2.

あなたの住んでいる地域で大地震が発生した場合、大地震発生後の行動や生活における心配事は何ですか。(複数回答)



大地震が発生した場合、大地震発生後の行動や生活における心配事は、「家族の安否確認」が最も高く81.6%。次いで「電気、水道、ガスの供給停止」(79.0%)、「ガソリンや灯油などの不足」(78.6%)、食料や飲料水の不足(74.5%)が高く、それぞれ7割を超える人が心配している。

地域別でみると、吾妻地域では「道路の通行不能や鉄道機関の停止・混乱」、「電話などの通信機能の混乱」や「電気、水道、ガスの供給停止」などといったインフラに関する項目や、「食料や飲料水の不足」といった物資の供給に関する項目が、他の地域と比べて低い。

<性別・年代別・地域別 結果>

(単位：％)

	n	自分の安全の確保	家族の安否確認	近くに避難場所がない	避難場所がわからない	避難行動に自信がない	けがや病気の 場合の医療体制	火災などが同時多発したときの消防等の不足	自主防災組織の能力	災害時要援護者への支援体制	道路の通行不能や鉄道の停止・混乱
全 体	3037	57.7	81.6	4.9	14.1	21.7	45.9	37.6	16.1	17.1	44.9
性別											
男性	1517	58.6	81.9	4.4	13.4	19.3	44.1	34.8	14.5	16.5	45.0
女性	1520	56.8	81.3	5.4	14.9	24.1	47.6	40.5	17.8	17.7	44.9
年代											
20代以下	543	64.1	85.8	3.7	14.9	28.6	51.6	35.0	17.3	17.1	46.5
30代	539	58.7	84.0	5.3	18.4	22.6	42.0	32.8	15.5	17.4	43.3
40代	479	56.2	83.8	5.4	16.3	20.4	46.8	35.4	16.3	16.7	44.4
50代	485	55.4	81.5	3.2	13.3	22.6	43.9	32.1	13.8	15.9	41.3
60代以上	992	55.5	77.1	6.0	10.8	17.6	45.4	45.5	16.9	17.6	47.0
居住地域											
中部地域	1050	58.1	82.7	4.1	13.6	22.1	45.6	36.4	15.0	16.4	46.0
西部地域	897	56.4	79.7	4.6	15.3	22.6	44.6	41.8	21.2	19.7	46.0
吾妻地域	90	52.3	84.2	7.4	6.7	11.6	39.4	27.2	10.8	14.0	30.4
利根沼田地域	134	50.3	85.9	5.6	9.8	23.5	54.3	26.5	13.1	21.0	35.3
東部地域	865	60.3	81.3	5.9	15.0	21.0	47.0	37.6	13.3	14.8	45.5

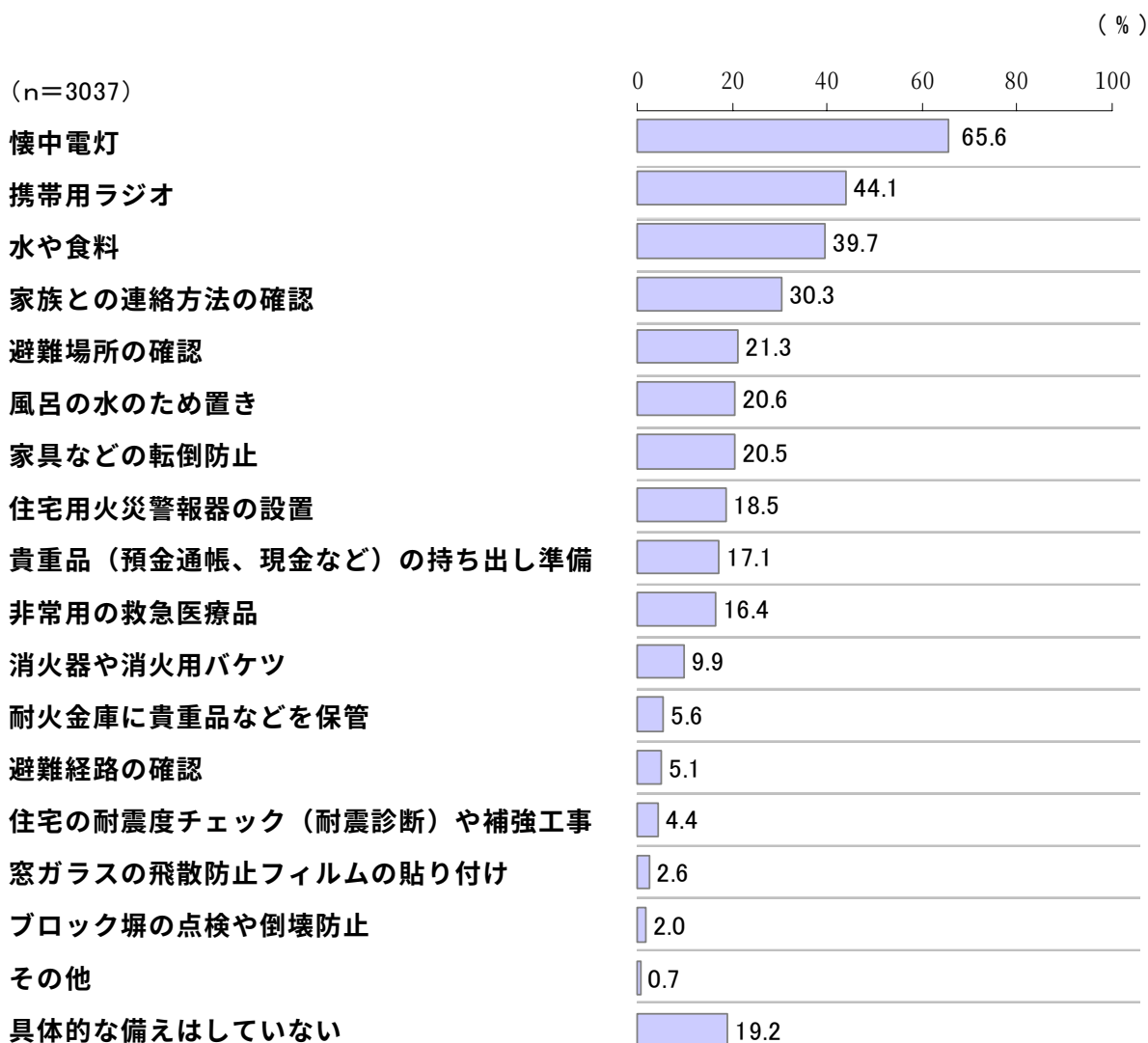
	混乱 電話などの通信機能の	電気、水道、ガスの供給停止	日用品の不足	食料や飲料水の不足	ガソリンや灯油などの不足	トイレの不足	ペットのケア	その他	心配なことはない	わからない
全 体	65.1	79.0	65.2	74.5	78.6	50.4	18.7	1.8	0.9	1.1
性別										
男性	62.4	75.8	63.6	73.4	77.2	45.8	14.0	2.2	1.1	1.2
女性	67.9	82.1	66.9	75.6	80.1	54.9	23.4	1.4	0.8	1.0
年代										
20代以下	64.7	74.6	65.5	72.8	74.8	50.7	20.5	2.4	1.1	1.3
30代	61.5	76.4	66.0	73.0	77.6	52.3	16.4	1.7	0.9	0.8
40代	63.5	79.4	65.6	75.8	79.5	53.1	20.3	2.7	0.6	0.8
50代	65.4	78.3	64.3	75.5	79.5	49.6	19.6	1.9	0.7	0.8
60代以上	68.1	82.9	65.0	75.2	80.5	48.2	17.7	1.0	1.1	1.3
居住地域										
中部地域	67.8	79.1	65.1	73.8	77.2	50.0	19.9	1.4	1.2	0.5
西部地域	64.3	79.2	65.8	75.4	78.9	54.5	21.6	1.4	0.6	1.5
吾妻地域	52.5	65.0	61.0	61.0	70.5	36.2	26.8	0.0	1.7	0.6
利根沼田地域	53.8	70.5	69.0	74.2	79.7	31.2	20.5	1.8	0.0	0.0
東部地域	65.8	81.3	64.7	75.9	80.8	50.9	13.0	2.9	1.0	1.6

3 日ごろの防災対策について

(1) 地震および地震火災に対する日ごろの備え

2割の人が「具体的な備えはしていない」

Q9. お宅では、地震や地震による火災が起こったときのために、日ごろから、どのような備えをしていますか。(複数回答)



地震や地震による火災が起こったときのために、日ごろから行っている備えは、「懐中電灯」（65.6%）を除くと全般的に低い率である。「具体的な備えはしていない」と回答した人も19.2%と約2割にのぼる。12頁のQ8-2では「家族の安否確認」を約8割が心配しているのにもかかわらず、「家族との連絡方法の確認」を行っているのは約3割である。同様に、Q8-2では「食料や飲料水の不足」を心配する割合が74.5%と高かったが、「水や食料」を備えていると回答したのは39.7%にとどまっている。

地域別でみると、「家族との連絡方法の確認」は吾妻地域で多い。また、「非常用の救急医療品」が

利根沼田地域で多く、12頁のQ8－2で「けがや病気の場合の医療体制」を心配とする回答が他の地域と比べて多かったことに関係していることが考えられる。

<性別・年代別・地域別 結果>

(単位：%)

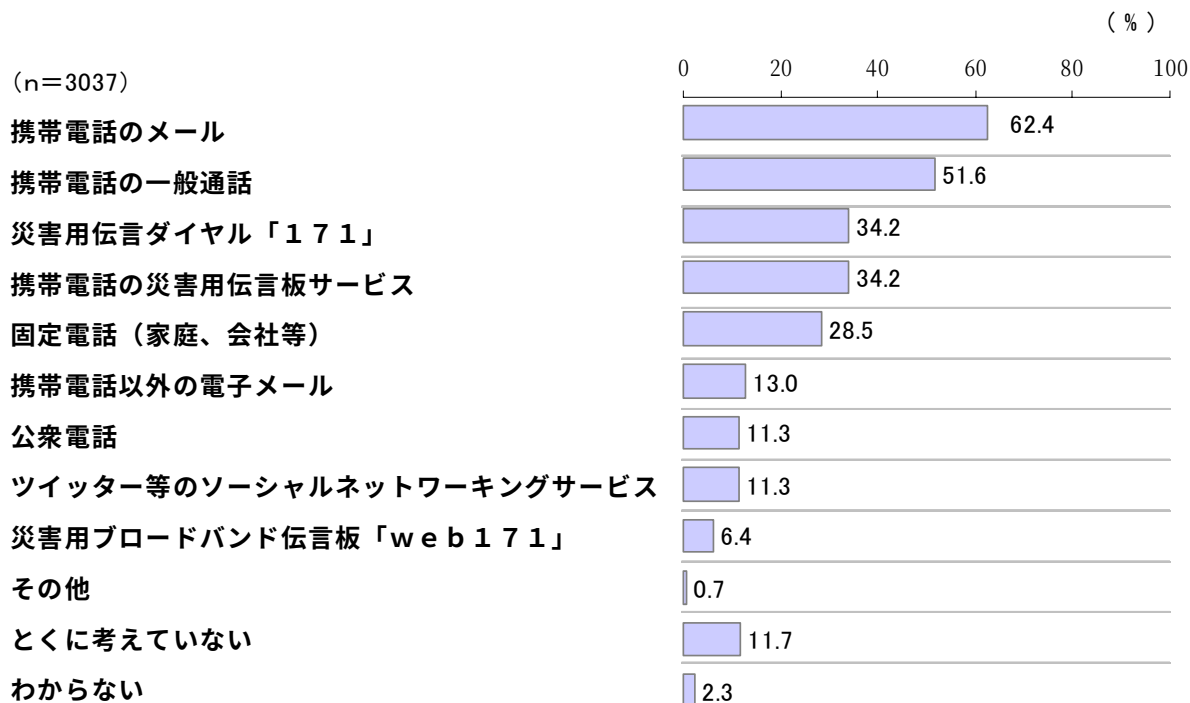
	n	家族との連絡方法の確認	避難場所の確認	水や食料	非常用の救急医療品	携帯用ラジオ	懐中電灯	貴重品（預金通帳、現金など）の持ち出し準備	耐火金庫に貴重品などを保管	住宅用火災警報器の設置
全 体	3037	30.3	21.3	39.7	16.4	44.1	65.6	17.1	5.6	18.5
性別										
男性	1517	27.8	18.3	37.9	15.4	45.2	63.3	17.9	6.1	19.6
女性	1520	32.9	24.3	41.5	17.4	43.1	67.9	16.4	5.1	17.5
年代										
2 0 代以下	543	26.5	19.9	35.2	13.8	38.4	59.6	17.5	6.0	17.8
3 0 代	539	28.2	20.3	38.5	16.0	41.9	64.0	16.3	4.1	15.2
4 0 代	479	30.1	20.6	40.1	16.2	42.3	65.2	17.9	4.2	18.2
5 0 代	485	29.9	22.2	36.6	15.6	44.9	67.3	14.3	6.9	17.4
6 0 代以上	992	34.0	22.5	44.1	18.5	49.0	69.1	18.4	6.2	21.4
居住地域										
中部地域	1050	31.8	22.0	39.7	15.9	45.2	66.6	19.9	6.3	18.7
西部地域	897	28.2	19.7	37.6	14.2	42.5	63.7	14.6	3.6	19.5
吾妻地域	90	43.5	18.0	32.0	16.8	35.4	51.4	18.4	8.7	10.2
利根沼田地域	134	29.9	29.4	33.0	32.5	46.7	70.4	12.5	11.3	26.9
東部地域	865	29.6	21.3	43.7	16.7	45.1	67.1	17.0	5.6	16.7

	消火器や消火用バケツ	風呂の水のため置き	住宅の耐震度チェック（耐震診断）や補強工事	家具などの転倒防止	窓ガラスの飛散防止フィルムの貼り付け	ブロック塀の点検や倒壊防止	避難経路の確認	その他	具体的な備えはしていない
全 体	9.9	20.6	4.4	20.5	2.6	2.0	5.1	0.7	19.2
性別									
男性	10.6	19.7	3.8	20.8	3.3	2.3	3.9	0.6	20.9
女性	9.2	21.5	4.9	20.1	1.9	1.8	6.3	0.8	17.4
年代									
20代以下	8.8	15.9	5.2	17.7	2.5	3.5	3.6	0.6	21.8
30代	9.4	16.4	4.5	20.6	2.6	1.7	5.3	1.7	20.0
40代	11.0	19.1	3.5	20.6	1.9	1.6	3.3	0.8	18.8
50代	10.1	21.7	2.3	19.2	3.1	2.4	5.5	0.6	17.8
60代以上	10.2	25.7	5.4	22.5	2.8	1.4	6.4	0.2	18.1
居住地域									
中部地域	8.9	19.7	3.6	19.0	3.2	1.8	6.5	0.9	18.8
西部地域	8.8	20.7	4.7	20.1	2.6	1.3	5.3	0.8	21.7
吾妻地域	14.9	17.6	1.5	11.8	3.1	0.0	11.3	0.0	17.1
利根沼田地域	14.7	26.1	1.4	26.0	0.0	1.8	1.9	0.0	19.5
東部地域	11.0	21.1	5.8	22.6	2.4	3.2	3.0	0.4	17.2

(2) 災害時における連絡方法

携帯電話のメールが6割強

Q10. 災害時における、家族・親類や知人等との連絡方法として、何を使おうと考えていますか。(複数回答)



家族・親類や知人等との連絡方法として考えているものは、「携帯電話のメール」が最も高く62.4%。次いで「携帯電話の一般通話」(51.6%)、「災害用伝言ダイヤル(171)」(34.2%)、「携帯電話の災害用伝言板サービス」(34.2%)で携帯電話を利用した連絡手段を取ろうと考えている人が多いことがうかがえる。

性別では、女性が「携帯電話の災害用伝言板サービス」(37.0%)がについて男性よりも5.6ポイント高いといった違いはあるが、さほど大きな差は生じていない。

年代別には、「ツイッター等のソーシャルネットワーキングサービス」以外の各連絡手段については、60代以上で使おうと考えている人がやや多い傾向がある。

地域別にみると、吾妻地域では、全体では使う人が多い「携帯電話のメール」と「携帯電話の一般通話」の比率がやや低い。

<性別・年代別・地域別 結果>

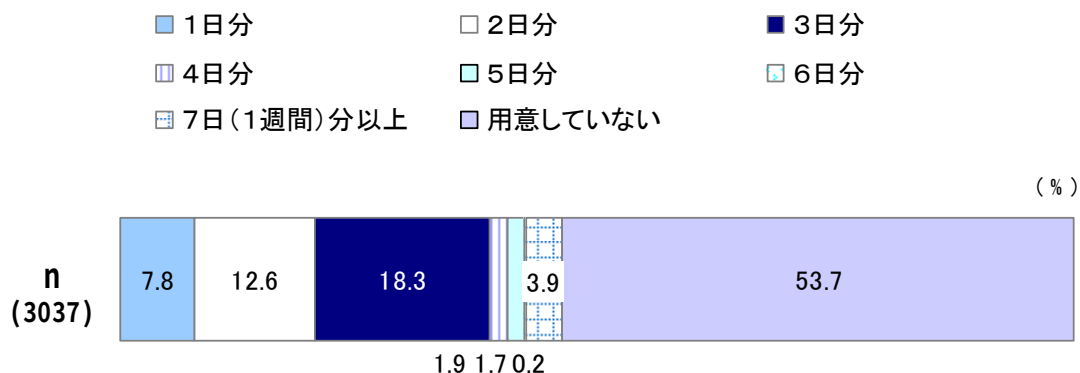
(単位：％)

	n	1 災害 用伝言 ダイヤル 「117」	災害 用ブロード バンド伝言 板「web171」	携帯 電話の 災害用伝言 板 サービス	携 帯 電 話 の 一 般 通 話	携 帯 電 話 の メ ー ル	携 帯 電 話 以 外 の 電 子 メ ー ル	固 定 電 話 (家 庭、 会 社 等)	公 衆 電 話	ツイ ット ワー キン グサ ービ ス	そ の 他	と く に 考 え て い な い	わ か ら な い
全 体	3037	34.2	6.4	34.2	51.6	62.4	13.0	28.5	11.3	11.3	0.7	11.7	2.3
性別													
男性	1517	32.7	6.7	31.4	50.7	59.9	12.8	28.5	12.0	10.4	0.7	12.9	2.7
女性	1520	35.7	6.1	37.0	52.4	64.9	13.1	28.6	10.6	12.3	0.8	10.5	1.9
年代													
20代以下	543	33.6	6.2	34.3	50.9	61.7	13.0	31.7	13.3	15.0	1.1	12.4	2.7
30代	539	33.1	7.3	31.5	49.1	59.0	11.9	24.2	10.0	13.5	1.3	12.2	3.7
40代	479	34.5	6.1	32.8	47.8	58.1	10.9	24.2	11.4	10.3	0.8	12.9	2.8
50代	485	34.6	8.2	34.4	45.7	59.3	11.7	26.4	9.9	11.8	0.8	13.0	3.3
60代以上	992	34.7	5.3	36.2	58.0	68.2	15.2	32.3	11.6	8.4	0.2	9.8	0.6
居住地域													
中部地域	1050	33.8	7.4	38.1	50.5	61.8	14.6	30.8	11.3	10.2	0.6	11.6	2.1
西部地域	897	35.7	6.6	33.0	54.3	61.2	10.5	27.1	11.5	11.2	0.6	12.9	2.6
吾妻地域	90	40.8	3.8	28.7	31.1	54.1	8.5	18.3	6.7	15.4	0.0	16.3	1.0
利根沼田地域	134	34.7	5.6	24.8	41.5	63.9	11.2	26.3	20.7	22.1	0.5	17.1	1.6
東部地域	865	32.2	5.3	32.7	53.8	65.1	14.3	28.8	10.1	10.8	1.2	9.2	2.5

(3) 食料の備蓄

食料を3日分以上備蓄している人は1／4、半数以上は備蓄していない

Q11. あなたのお宅では、非常持ち出し用として(家族を含め)何日分の食料を用意していますか。



非常持ち出し用として備蓄している食料についてたずねたところ、「用意していない」が最も高く53.7%と半数を占める。用意している人の中では「3日分」(18.3%)が最も高い。4日分以上用意している人は7.7%である。

<性別・年代別・地域別 結果>

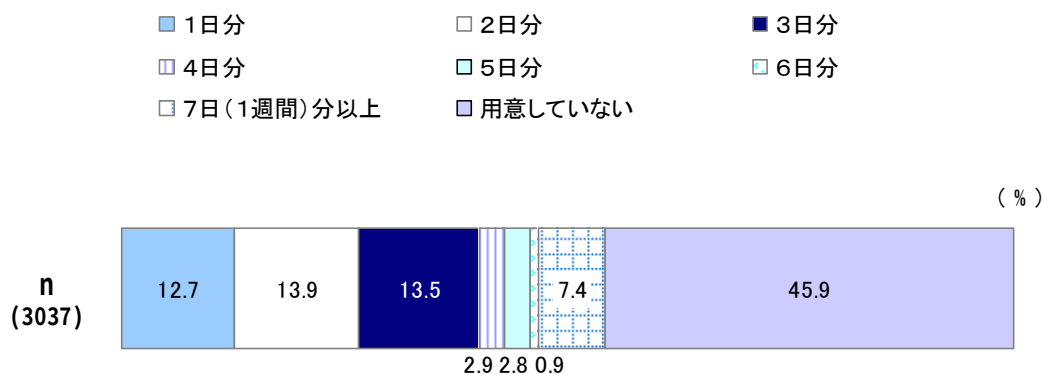
(単位：%)

	n	1日分	2日分	3日分	4日分	5日分	6日分	7日(1週間)分以上	用意していない
全 体	3037	7.8	12.6	18.3	1.9	1.7	0.2	3.9	53.7
性別									
男性	1517	7.5	11.4	18.0	1.5	2.2	0.2	3.6	55.6
女性	1520	8.0	13.7	18.6	2.3	1.3	0.1	4.2	51.8
年代									
20代以下	543	7.5	9.6	19.4	0.9	1.8	0.3	3.6	56.8
30代	539	7.9	13.2	17.2	1.5	2.0	0.4	2.8	55.0
40代	479	7.6	13.1	19.2	0.9	1.8	0.2	4.0	53.0
50代	485	7.2	13.6	18.0	0.6	1.4	0.1	3.8	55.4
60代以上	992	8.2	13.1	17.9	3.8	1.6	0.0	4.6	50.7
居住地域									
中部地域	1050	5.7	11.3	20.2	1.6	2.2	0.4	5.7	53.0
西部地域	897	8.2	12.2	15.2	2.3	1.4	0.1	2.8	57.8
吾妻地域	90	11.1	11.9	13.7	7.3	2.2	0.0	0.9	52.9
利根沼田地域	134	12.2	11.0	12.2	0.4	0.4	0.0	4.3	59.6
東部地域	865	8.8	14.7	20.7	1.5	1.6	0.1	3.1	49.4

(4) 飲料水の備蓄

飲料水を3日以上備蓄しているのは約3割、半数近くは備蓄していない

Q12. あなたのお宅では、何日分の飲料水を備蓄していますか。ご家族ひとり1日あたり3リットルで計算してください。



飲料水の備蓄についてたずねたところ、「用意していない」が最も高く45.9%と半数近くを占める。用意している人の中では「2日分」(13.9%)が最も高い。前頁Q11の食料の備蓄と比べると、4日間以上と比較的長期間の量を備蓄している人(14.0%)も多い。

地域別でみると、吾妻地域と利根沼田地域では、他の地域と比べて「用意していない」人が多い。

<性別・年代別・地域別 結果>

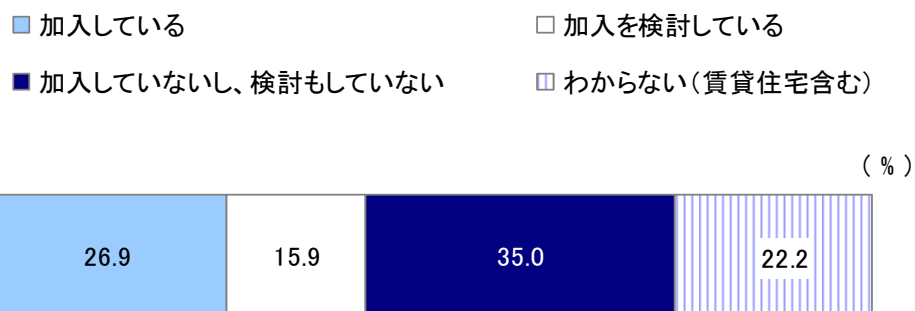
(単位: %)

	n	1日分	2日分	3日分	4日分	5日分	6日分	7日(1週間)分以上	用意していない
全 体	3037	12.7	13.9	13.5	2.9	2.8	0.9	7.4	45.9
性別									
男性	1517	11.0	14.8	13.2	2.4	3.1	0.8	7.4	47.2
女性	1520	14.4	12.9	13.8	3.3	2.5	1.1	7.4	44.6
年代									
20代以下	543	11.2	14.5	12.2	2.1	2.6	0.6	7.3	49.5
30代	539	13.2	13.0	14.9	3.6	2.7	0.5	7.6	44.6
40代	479	13.6	12.8	12.9	2.8	2.1	0.9	7.3	47.6
50代	485	14.0	14.7	13.6	1.3	1.2	0.1	7.8	47.2
60代以上	992	12.3	14.1	13.7	3.7	4.1	1.8	7.2	43.2
居住地域									
中部地域	1050	10.1	14.0	14.5	3.3	3.4	1.2	9.3	44.3
西部地域	897	12.1	13.1	15.1	3.3	1.3	1.4	5.6	48.0
吾妻地域	90	21.9	1.0	7.7	1.1	0.0	0.0	2.3	65.9
利根沼田地域	134	17.3	10.7	8.1	1.3	0.9	0.0	3.1	58.7
東部地域	865	15.0	16.4	12.1	2.4	4.1	0.4	8.1	41.6

(5) 地震保険等の加入状況

加入している人は約4人中1人

Q13. あなたのお宅では、地震による建物の被害を補償する保険又は共済に加入していますか。



地震による建物の被害を補償する保険又は共済に加入しているかをたずねたところ、「加入していないし、検討もしていない」が35.0%と最も高い。対して「加入している」は26.9%で、おおよそ4人に1人が加入と回答している。

地域別でみると、利根沼田地域で「加入を検討している」が他の地域と比べて高い。

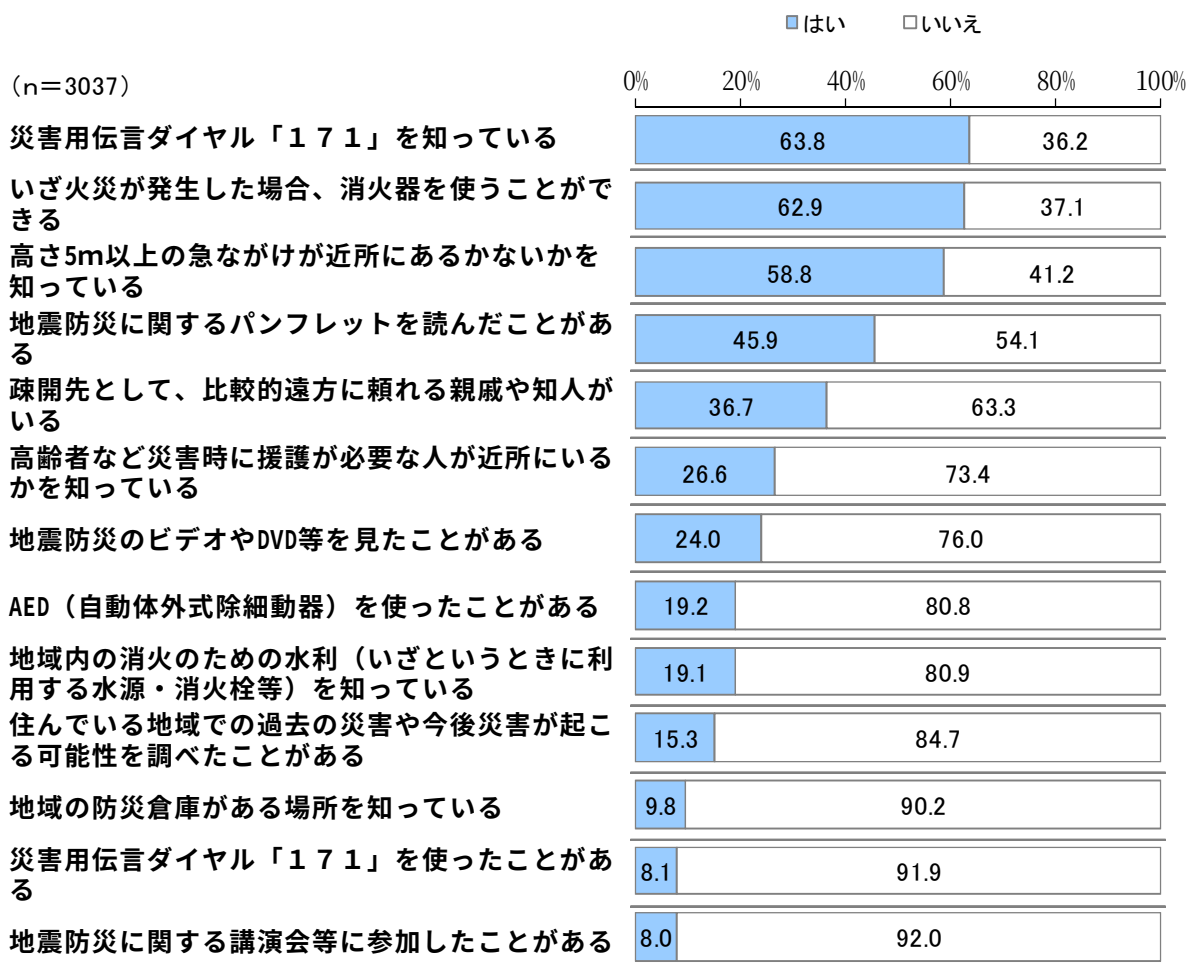
<性別・年代別・地域別 結果> (単位：%)

	n	加入している	加入を検討している	加入していないし、検討もしていない	わからない(賃貸住宅含む)
全 体	3037	26.9	15.9	35.0	22.2
性別					
男性	1517	26.4	16.7	34.5	22.4
女性	1520	27.4	15.0	35.5	22.0
年代					
20代以下	543	23.8	12.9	34.9	28.3
30代	539	27.4	16.7	28.6	27.3
40代	479	27.9	16.4	34.0	21.7
50代	485	27.2	16.7	34.6	21.5
60代以上	992	27.7	16.4	39.2	16.7
居住地域					
中部地域	1050	29.0	14.7	34.8	21.5
西部地域	897	25.5	14.4	35.6	24.5
吾妻地域	90	27.2	10.8	31.3	30.6
利根沼田地域	134	23.3	27.0	34.0	15.7
東部地域	865	26.3	17.6	35.2	20.9

(6) 防災に関する知識・経験等

消火器を使える人は6割強、171(災害用伝言ダイヤル)を知らない人は約4割

Q14. 地震防災、火災、AED等に関する認知及び使用経験等について



防災に関する知識や経験等をたずねたところ、「災害用伝言ダイヤル（171）を知っている」（63.8%）、「いざ火災が発生した場合、消火器を使うことができる」（62.9%）が高く、それぞれ6割を超える。また「高さ5m以上の急ながけが近所にあるかないかを知っている」も58.8%にのぼる。それに対して「地震防災に関する講演会等に参加したことがある」（8.0%）、「災害用伝言ダイヤル（171）を使ったことがある」（8.1%）、「地域の防災倉庫がある場所を知っている」（9.8%）はそれぞれ1割程度以下である。

地域別でみると、吾妻地域と利根沼田地域では、「地域内の消火のための水利を知っている」、「高齢者など災害時に援護が必要な人が近所にいるかを知っている」、「住んでいる地域での過去の災害や今後災害が起こる可能性を調べたことがある」などの項目が他の地域と比べて高く、地域の防災活動や災害特性に対する関心が相対的に高いことがうかがえる。

＜地域別 結果＞

(単位：％)

		n	はい	いいえ
地震防災に関するパンフレットを読んだことがある	全 体	3037	45.9	54.1
	中部地域	1050	45.6	54.4
	西部地域	897	47.9	52.1
	吾妻地域	90	44.4	55.6
	利根沼田地域	134	43.5	56.5
	東部地域	865	44.8	55.2
地震防災のビデオやDVD等を見たことがある	全 体	3037	24.0	76.0
	中部地域	1050	22.3	77.7
	西部地域	897	23.9	76.1
	吾妻地域	90	14.7	85.3
	利根沼田地域	134	18.8	81.2
	東部地域	865	27.8	72.2
地震防災に関する講演会等に参加したことがある	全 体	3037	8.0	92.0
	中部地域	1050	8.4	91.6
	西部地域	897	8.7	91.3
	吾妻地域	90	12.6	87.4
	利根沼田地域	134	3.7	96.3
	東部地域	865	6.9	93.1
いざ火災が発生した場合、消火器を使うことができる	全 体	3037	62.9	37.1
	中部地域	1050	61.8	38.2
	西部地域	897	59.5	40.5
	吾妻地域	90	80.6	19.4
	利根沼田地域	134	69.3	30.7
	東部地域	865	64.9	35.1
AED（自動体外式除細動器）を使ったことがある	全 体	3037	19.2	80.8
	中部地域	1050	18.9	81.1
	西部地域	897	19.3	80.7
	吾妻地域	90	20.5	79.5
	利根沼田地域	134	33.4	66.6
	東部地域	865	17.3	82.7
地域内の消火のための水利を知っている	全 体	3037	19.1	80.9
	中部地域	1050	16.2	83.8
	西部地域	897	17.9	82.1
	吾妻地域	90	39.9	60.1
	利根沼田地域	134	44.6	55.4
	東部地域	865	17.8	82.2

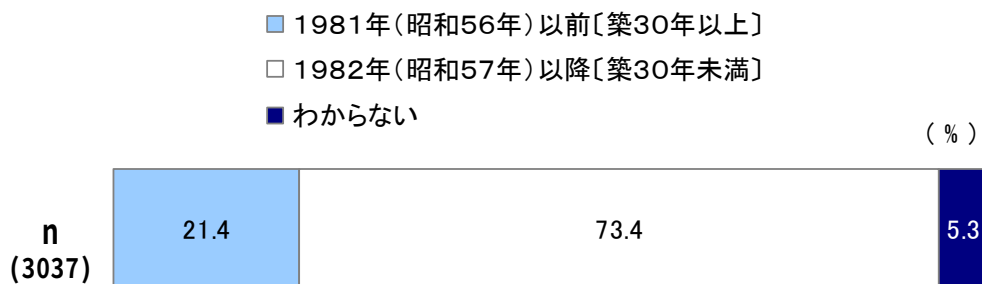
		n	はい	いいえ
高齢者など災害時に援護が必要な人が近所にいるかを知っている	全 体	3037	26.6	73.4
	中部地域	1050	23.3	76.7
	西部地域	897	23.7	76.3
	吾妻地域	90	43.5	56.5
	利根沼田地域	134	51.3	48.7
	東部地域	865	28.1	71.9
高さ5m以上の急ながけが近所にあるかないかを知っている	全 体	3037	58.8	41.2
	中部地域	1050	59.0	41.0
	西部地域	897	53.1	46.9
	吾妻地域	90	61.3	38.7
	利根沼田地域	134	77.1	22.9
	東部地域	865	61.2	38.8
住んでいる地域での過去の災害や今後災害が起こる可能性を調べたことがある	全 体	3037	15.3	84.7
	中部地域	1050	11.3	88.7
	西部地域	897	17.4	82.6
	吾妻地域	90	26.2	73.8
	利根沼田地域	134	26.7	73.3
	東部地域	865	14.9	85.1
災害用伝言ダイヤル「171」を知っている	全 体	3037	63.8	36.2
	中部地域	1050	62.7	37.3
	西部地域	897	61.4	38.6
	吾妻地域	90	72.1	27.9
	利根沼田地域	134	74.6	25.4
	東部地域	865	65.1	34.9
災害用伝言ダイヤル「171」を使ったことがある	全 体	3037	8.1	91.9
	中部地域	1050	7.1	92.9
	西部地域	897	9.3	90.7
	吾妻地域	90	10.6	89.4
	利根沼田地域	134	4.1	95.9
	東部地域	865	8.3	91.7
地域の防災倉庫がある場所を知っている	全 体	3037	9.8	90.2
	中部地域	1050	9.6	90.4
	西部地域	897	8.1	91.9
	吾妻地域	90	8.6	91.4
	利根沼田地域	134	9.3	90.7
	東部地域	865	12.2	87.8
疎開先として、比較的遠方に頼れる親戚や知人がいる	全 体	3037	36.7	63.3
	中部地域	1050	36.9	63.1
	西部地域	897	35.6	64.4
	吾妻地域	90	54.8	45.2
	利根沼田地域	134	31.0	69.0
	東部地域	865	36.4	63.6

4 住宅の地震対策について

(1) 住居の建築時期

2割強の住居が築30年以上

Q15. お住まいの住居は、いつ頃建てられましたか。



住居がいつ頃建てられたかをたずねたところ、築30年以上の旧耐震基準の建物が21.4%で、概ね5人のうち1人である。築30年未満の新耐震基準の建物は73.4%であった。

地域別でみると、利根沼田地域が他の地域と比べて築30年以上の住居が多く、33.9%にのぼる。

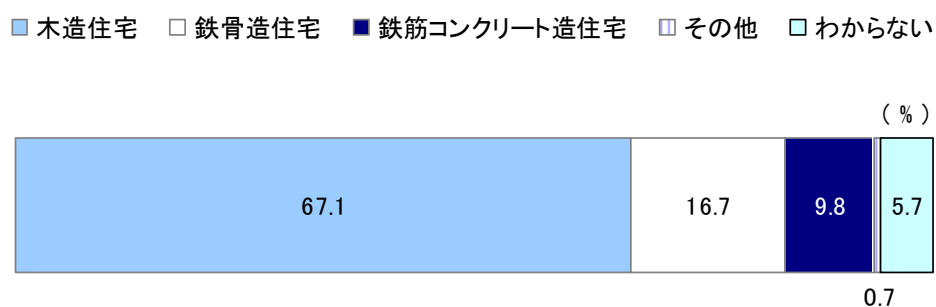
<性別・年代別・地域別 結果> (単位：%)

	n	1981年(昭和56年)以前〔築30年以上〕	1982年(昭和57年)以降〔築30年未満〕	わからない
全 体	3037	21.4	73.4	5.3
性別				
男性	1517	22.0	72.3	5.8
女性	1520	20.8	74.5	4.8
年代				
20代以下	543	18.1	72.6	9.4
30代	539	19.7	73.2	7.1
40代	479	19.3	75.7	5.0
50代	485	23.4	72.2	4.4
60代以上	992	24.1	73.3	2.6
居住地域				
中部地域	1050	20.6	75.0	4.4
西部地域	897	18.0	76.4	5.5
吾妻地域	90	26.4	64.7	8.8
利根沼田地域	134	33.9	62.1	4.0
東部地域	865	23.4	70.8	5.8

(2) 住居の構造

「木造住宅」が7割弱

Q16. あなたのお住まいの構造は、次のどれにあたりますか。



住居の構造は、「木造住宅」が最も高く67.1%を占める。次いで「鉄骨造住宅」が16.7%、「鉄筋コンクリート造住宅」が9.8%を占める。

地域別でみると、利根沼田地域で「木造住宅」が他の地域と比べて多く、80.7%にのぼる。

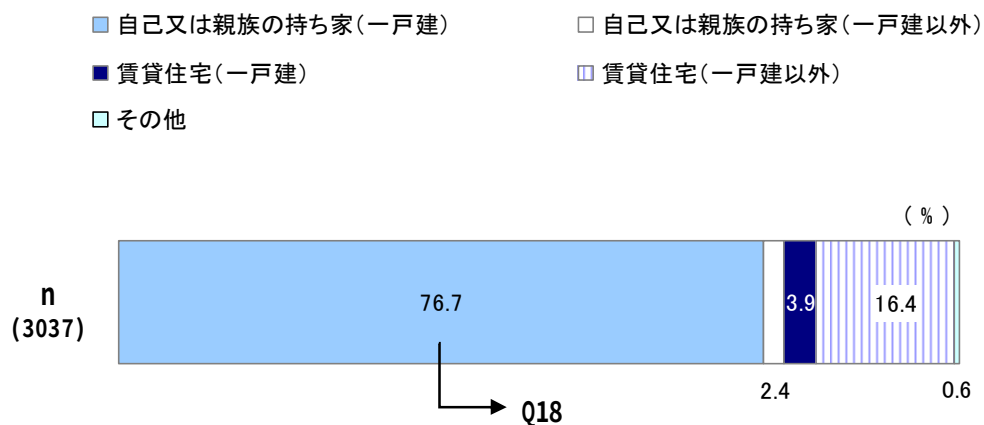
<性別・年代別・地域別 結果> (単位：%)

	n	木造住宅	鉄骨造住宅	鉄筋コンクリート造住宅	その他	わからない
全 体	3037	67.1	16.7	9.8	0.7	5.7
性別						
男性	1517	69.7	14.4	10.4	0.6	4.9
女性	1520	64.6	19.0	9.2	0.8	6.4
年代						
20代以下	543	66.9	14.0	10.8	0.2	8.1
30代	539	68.0	13.2	12.1	0.5	6.2
40代	479	67.7	16.0	11.5	0.5	4.2
50代	485	74.2	10.2	10.0	0.9	4.6
60代以上	992	63.0	23.5	7.1	1.1	5.2
居住地域						
中部地域	1050	66.2	15.7	12.0	0.7	5.4
西部地域	897	63.8	18.1	11.6	0.5	6.0
吾妻地域	90	78.0	4.6	0.4	0.9	16.0
利根沼田地域	134	80.7	11.7	3.2	0.0	4.4
東部地域	865	68.6	18.4	7.2	1.1	4.8

(3) 住居の形態

自己又は親族の持ち家（一戸建）が8割弱

Q17. あなたのお住まいの形態をお答えください。

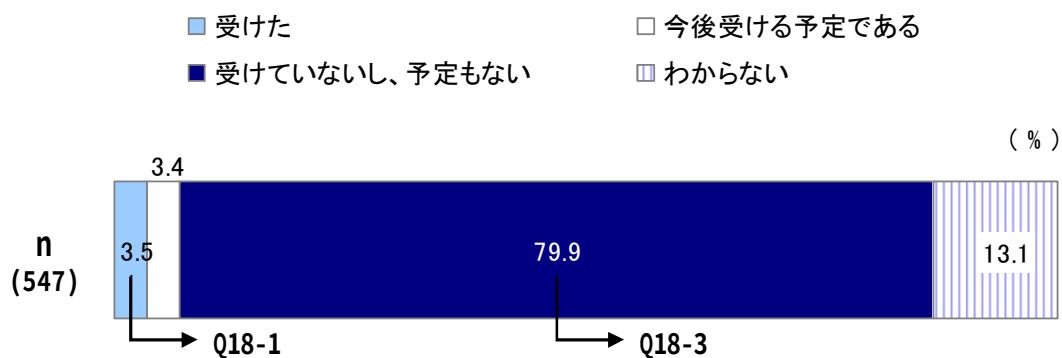


住居の形態は、「自己又は親族の持ち家（一戸建）」が最も高く76.7%と8割弱を占める。
次いで「賃貸住宅（一戸建以外）」が16.4%を占める。

(4) 耐震診断の受診状況

耐震診断の受診については8割が消極的

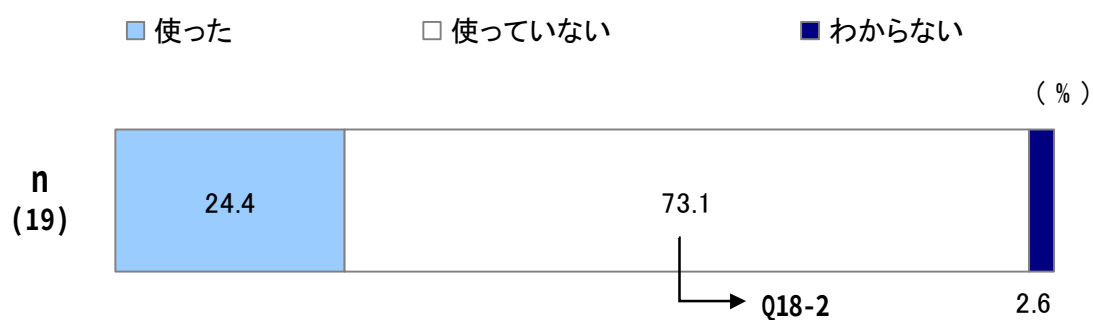
Q18. あなたのお宅は、耐震診断を受けましたか。



築30年以上で自己又は親族の持ち家（一戸建）に居住する人に、耐震診断を受けたかをたずねたところ、「受けていないし、予定もない」が最も高く79.9%で8割弱を占める。「受けた」（3.5%）、「今後受ける予定である」（3.4%）はそれぞれ僅か3%程度にとどまる。

Q18-1.

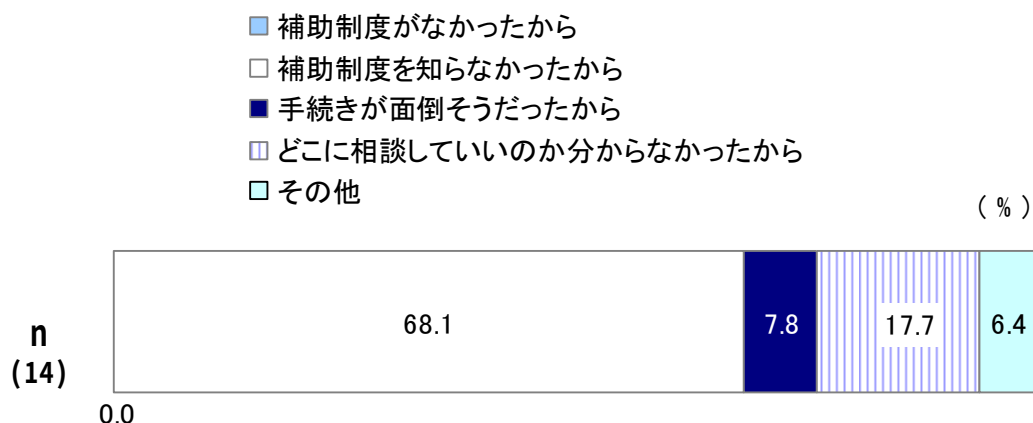
耐震診断を受けたとき、市町村による補助制度を使いましたか。



耐震診断を受けた人は少ないが、市町村による補助制度を使ったかをたずねたところ、「使った」人は4人中1人程度である。

Q18-2.

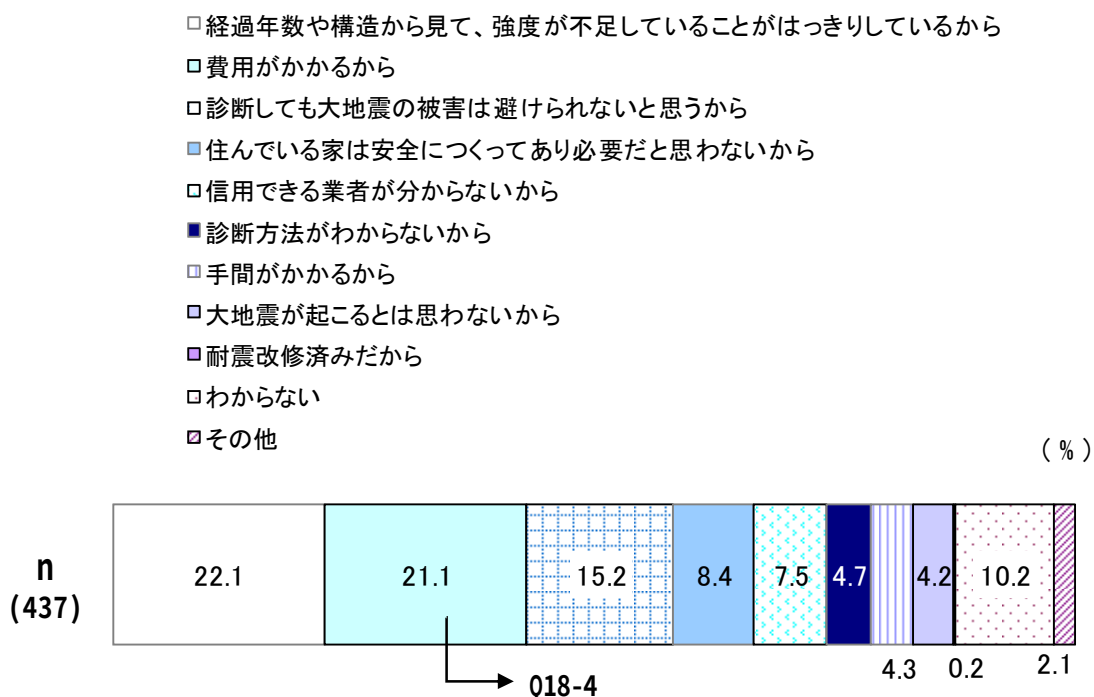
耐震診断に対する補助制度を使っていない主な理由を教えてください。



耐震診断を受けた際に市町村による補助制度を使っていない人に、使っていない理由をたずねたところ、「補助制度を知らなかったから」という人が多く7割を占める。

Q18-3.

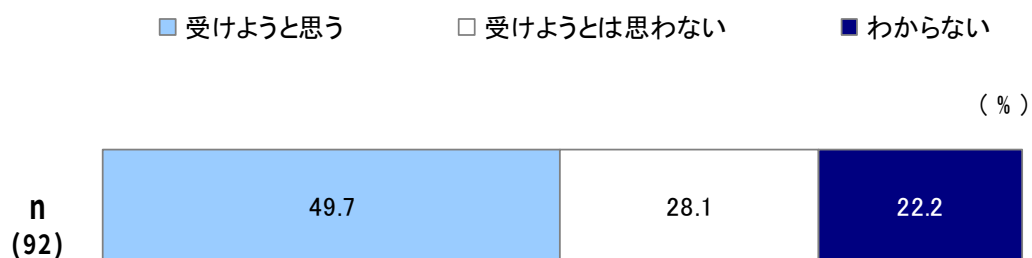
耐震診断を受けない主な理由を教えてください。



耐震診断を受けていないし、予定もない人に、耐震診断を受けない理由をたずねたところ、「経過年数や構造から見て、強度が不足していることがはっきりしているから」が最も高く22.1%である。次いで「費用がかかるから」が21.1%で高い。

Q18-4.

耐震診断を無料(ただし、耐震診断士に支払う交通費が1,000～2,000円程度必要となります)で受けることができるとしたら、あなたは耐震診断を受けようと思いますか。

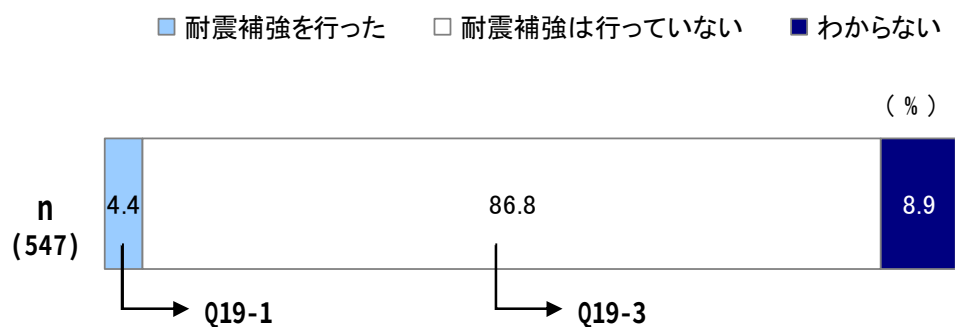


費用がかかるから耐震診断を受けないと回答した人に無料で受けられれば耐震診断を受けるかたずねたところ、「受けようと思う」が49.7%を占める。しかし無料でも「受けようとは思わない」人も28.1%と少なくない。

(5) 耐震補強の実施状況

耐震補強を実施している人は4.4%

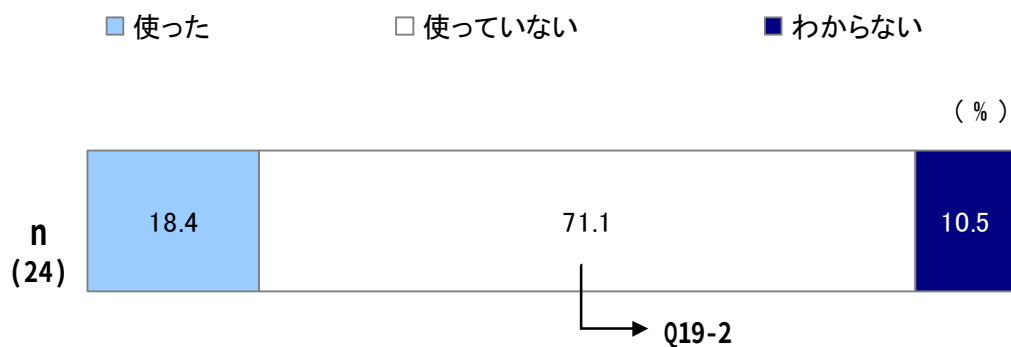
Q19. あなたのお住まいの建物は、耐震補強を行いましたか。



築30年以上の旧耐震基準で自己又は親族の持ち家（一戸建）にお住まいの人に、耐震補強を行ったかをたずねたところ、「耐震補強を行った」人は4.4%にとどまり、「耐震補強は行っていない」人が86.8%と9割弱を占める。

Q19-1.

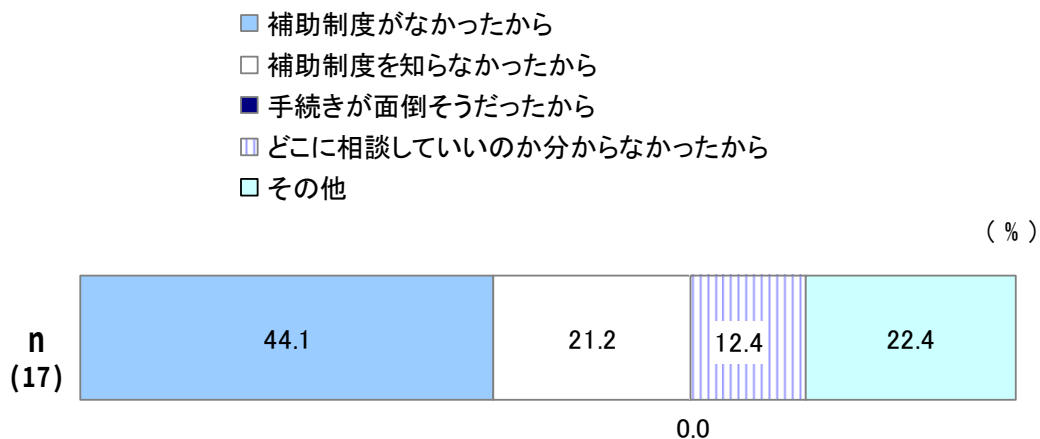
耐震補強を実施したとき、市町村による補助制度を使いましたか。



耐震補強を実施した人は少ないが、市町村による補助制度を使ったかをたずねたところ、「使った」人は2割弱である。

Q19-2.

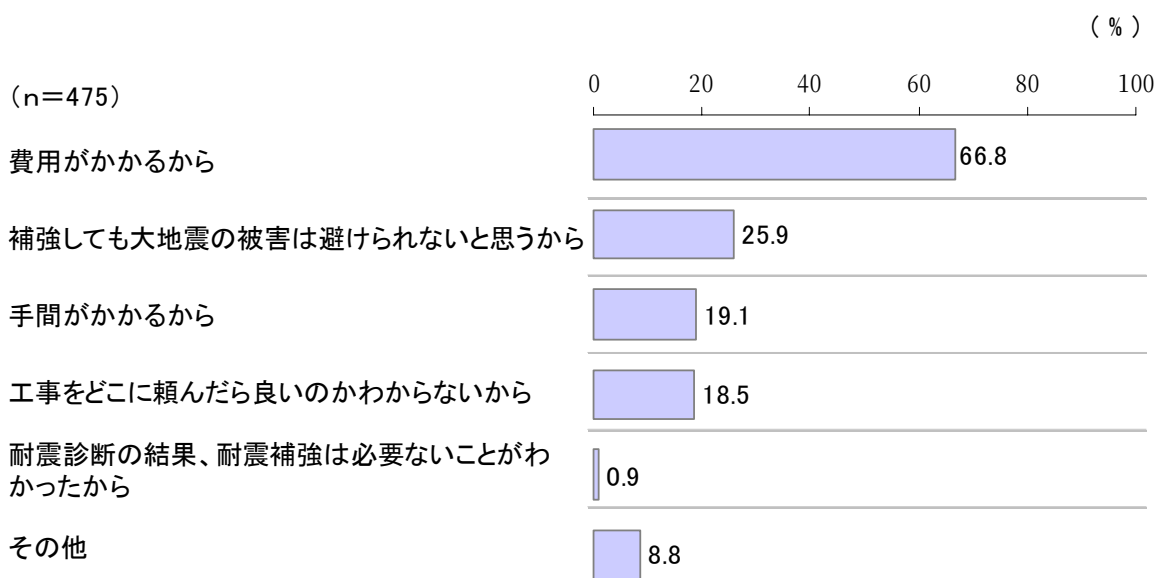
耐震補強に対する補助制度を使っていない主な理由を教えてください。



耐震補強を実施した際に市町村による補助制度を使っていない人に理由をたずねたところ、「補助制度がなかったから」という人が半数近くと多く、「補助制度を知らなかったから」は2割程度である。

Q19-3.

耐震補強を実施しないのはなぜですか。(複数回答)

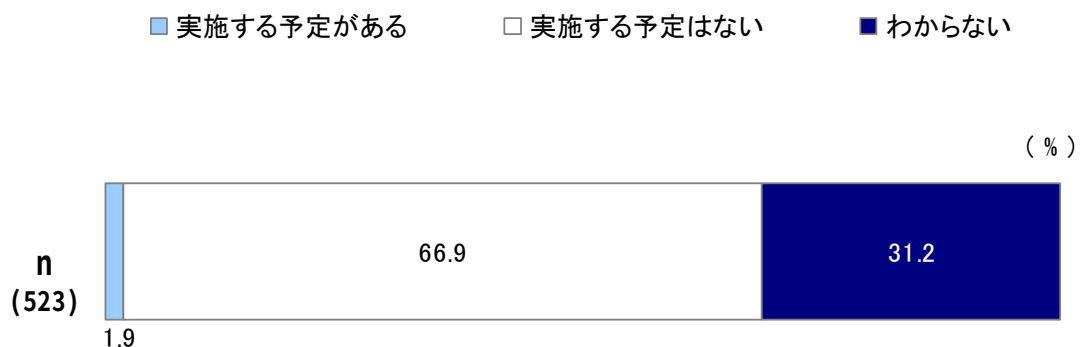


耐震補強を実施していない人に理由をたずねたところ、「費用がかかるから」が最も高く66.8%で7割弱と、他の項目と比べて大きな理由となっている。次いで「補強しても大地震の被害は避けられないと思うから」(25.9%)、「手間がかかるから」(19.1%)が続く。

（６）耐震補強の実施予定

今後５年以内に耐震補強を実施する予定がある人は1.9%

Q20. 今後５年以内に、耐震補強を実施する予定がありますか。

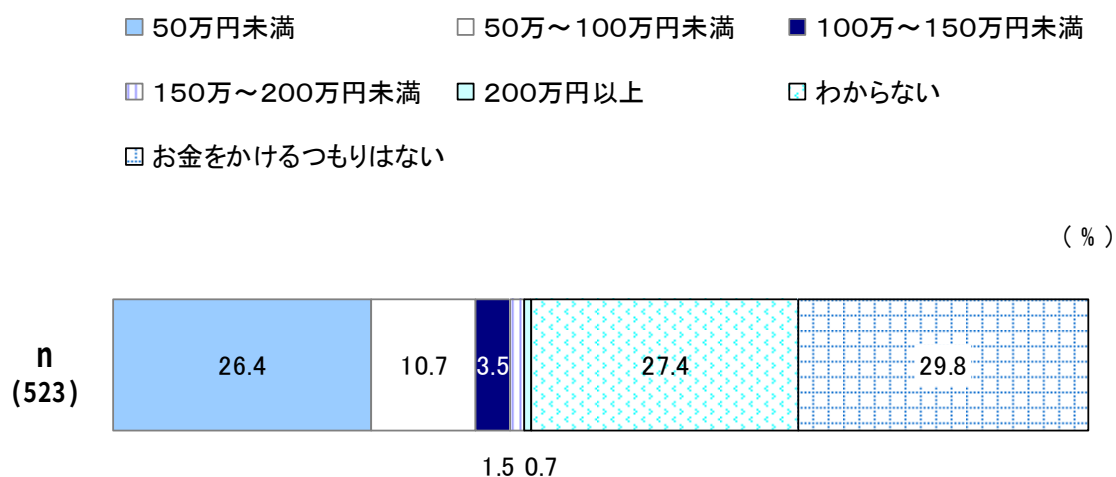


耐震補強を実施していないもしくは実施したかわからない人に、今後５年以内に、耐震補強を実施する予定があるかをたずねたところ、「実施する予定がある」人は1.9%。「実施する予定はない」人が66.9%と7割弱を占める。「わからない」人も31.2%と3割程度を占める。

(7) 耐震補強の費用

耐震補強にお金はかけない、かけても50万円未満が、合わせて半数以上

Q21. 耐震補強の費用(自己負担額)について、どの程度の金額であれば耐震補強を実施しますか。

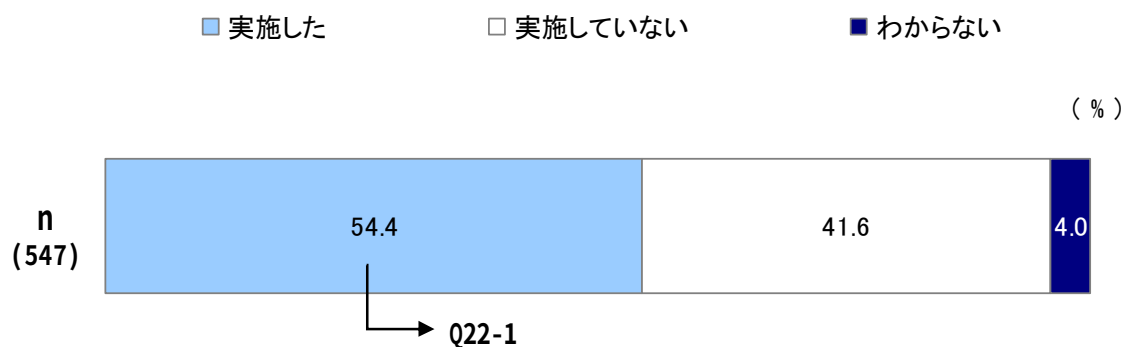


耐震補強を実施していないもしくは実施したかわからない人に、どの程度の金額であれば耐震補強を実施するかをたずねたところ、「お金をかけるつもりはない」が29.8%で最も高い。費用をかけてもよいと考えている人の中でも「50万円未満」が最も高く26.4%。50万円以上かけて耐震補強をしようとする人は16.4%と1割強にとどまる。耐震補強の費用負担を抑えるか、費用以上の効果を実感させることが必要となる。

(8) リフォーム実施状況

リフォームを「実施した」人が半数以上

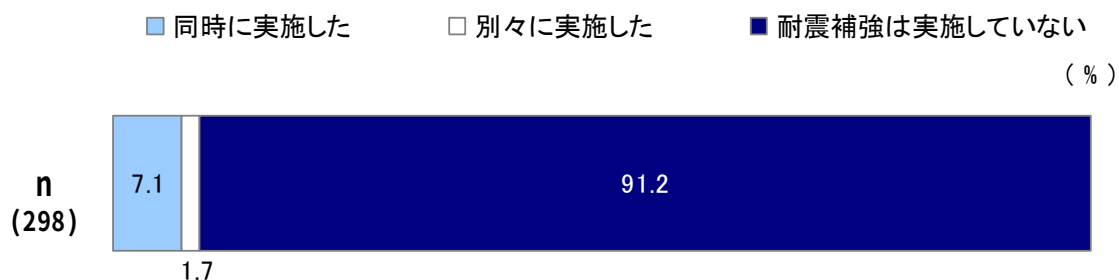
Q22. あなたのお住まいの建物は、過去10年間でリフォームをしましたか。



築30年以上で自己又は親族の持ち家（一戸建）にお住まいの人に、過去10年間でリフォームをしたかをたずねたところ、「実施した」人は54.4%。対して「実施していない」人は41.6%で実施している人の方が多い。

Q22-1.

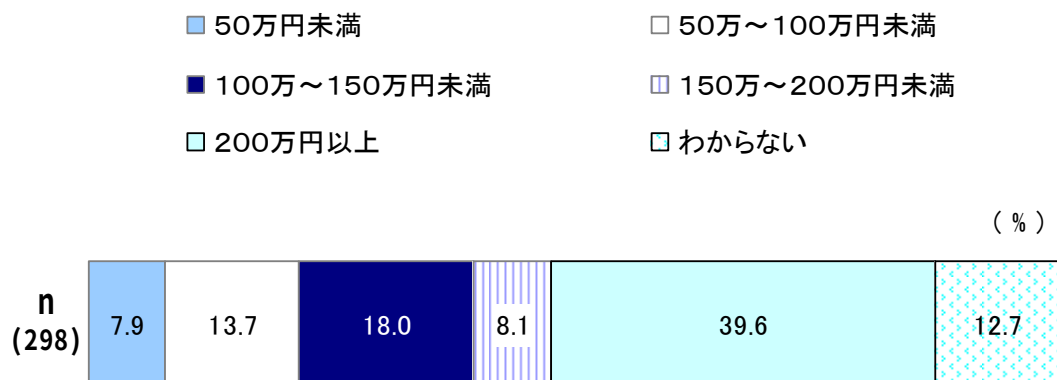
リフォームと同時に耐震補強を実施しましたか。



リフォームを実施した人に、耐震補強も同時に実施したかをたずねたところ、「耐震補強は実施していない」が91.2%と大半を占める。リフォームと「同時に実施した」は7.1%、「別々に実施した」は1.7%である。

Q22-2.

リフォームの工事費を教えてください。



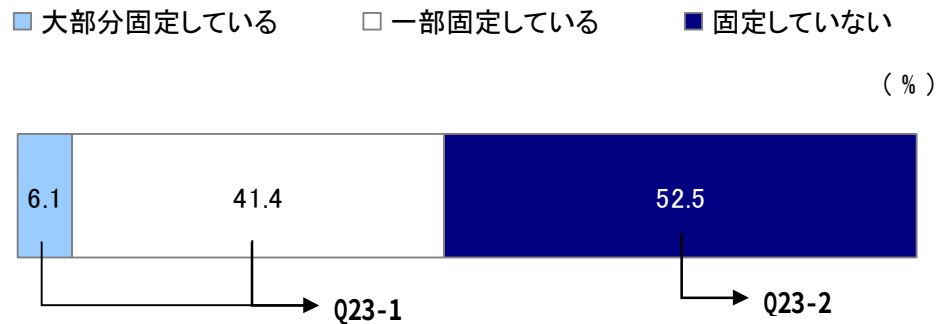
リフォームを実施した人に工事費をたずねたところ、「200万円以上」が最も高く39.6%を占める。次いで「100万～150万円未満」が18.0%、「50万～100万円未満」が13.7%を占める。耐震補強にかけてもよいとする金額が低額であるのに対し、リフォームにはかなりの金額が投じられていることから、リフォームに伴って耐震補強も実施できるとなれば、耐震補強の費用に対する抵抗感が小さくなることも期待され、今後はそのような工事を提案していくことも必要と考えられる。

5 家具類の固定について

(1) 家具・家電等の固定状況

固定している人、していない人が半々

Q23. あなたのお宅では、地震に備えてタンス、本棚、食器棚などの収納家具や、冷蔵庫、テレビなどの家電品、その他の重量物の固定をしていますか。



収納家具や家電品、その他の重量物の固定状況をたずねたところ、「大部分固定している」が6.1%。「一部固定している」が41.4%で、合わせて固定している人は47.5%と約半数を占める。

地域別でみると、利根沼田地域で他の地域と比べて固定している人が多い。

<性別・年代別・地域別 結果> (単位：%)

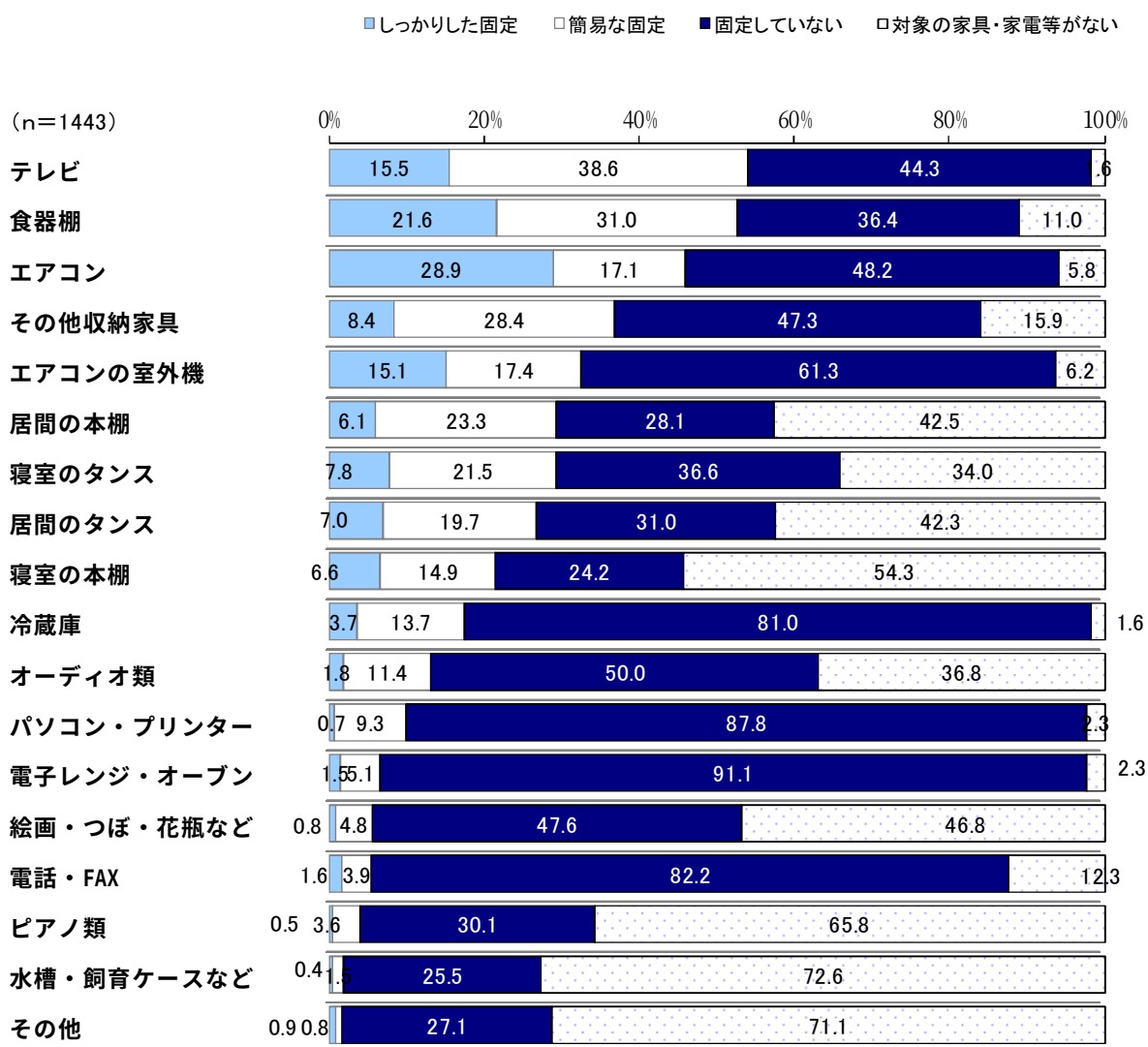
	n	大部分固定している	一部固定している	固定していない
全 体	3037	6.1	41.4	52.5
性別				
男性	1517	6.0	42.9	51.2
女性	1520	6.3	39.9	53.8
年代				
20代以下	543	5.4	41.4	53.2
30代	539	7.8	39.7	52.5
40代	479	6.7	40.1	53.2
50代	485	4.9	42.4	52.8
60代以上	992	5.9	42.5	51.6
居住地域				
中部地域	1050	5.7	38.8	55.5
西部地域	897	5.9	37.2	56.9
吾妻地域	90	7.3	36.8	55.9
利根沼田地域	134	6.5	59.2	34.3
東部地域	865	6.7	46.6	46.7

(2) 個々の家具・家電等の固定状況

固定率が高いのは「食器棚」と「テレビ」

Q23-1

家具・家電等について、それぞれの固定状況を教えてください。
ただし、造り付けの家具は除きます。

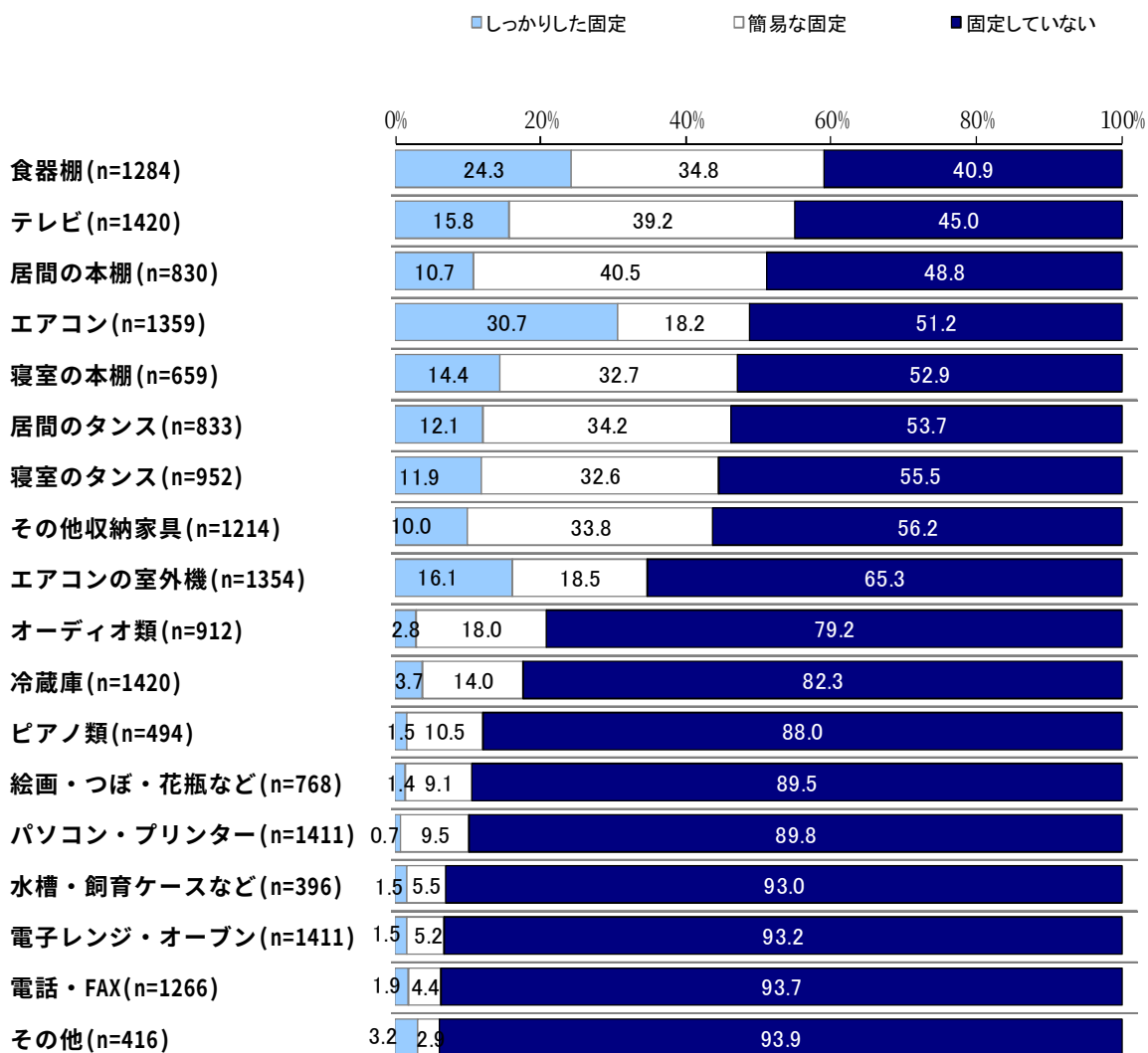


個々の家具・家電等について固定状況をたずねたが、それぞれの所有率に大きな違いがあるため、単純には固定状況を比較できないことから、当該の家具・家電等を所有していない人を除外して集計を行った。その結果を次ページに示す。

Q23-1

家具・家電等について、それぞれの固定状況を教えてください。
ただし、造り付けの家具は除きます。

※該当の家具・家電等を持っている人ベースで集計



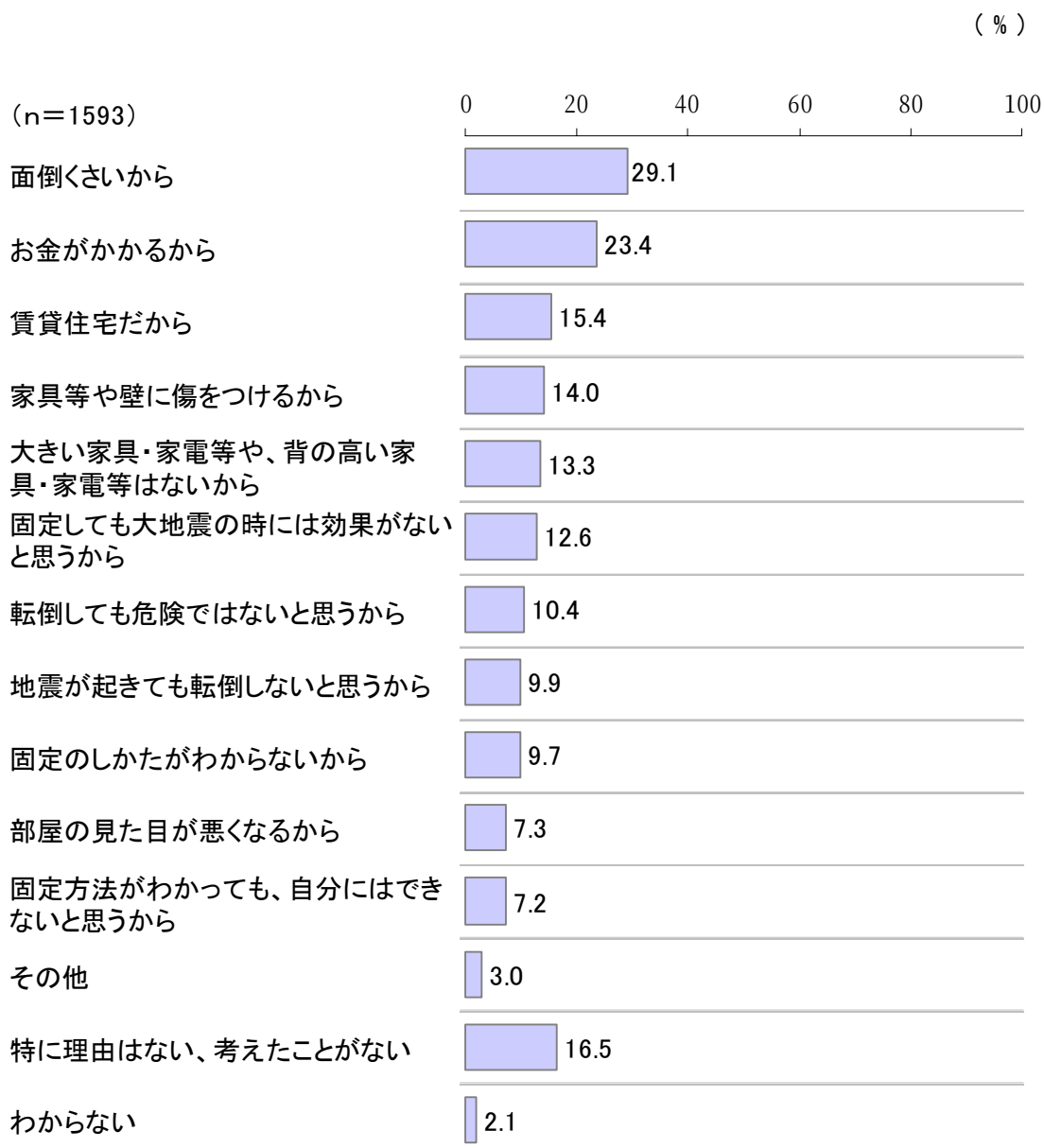
「しっかりした固定」と「簡易な固定」を合わせた固定率の高い家具・家電は「食器棚」で59.1%、次いで「テレビ」が55.0%、「エアコン」が48.9%でつづく。「電話・FAX」(6.3%)、「電子レンジ・オーブン」(6.7%)、「水槽・飼育ケースなど」(7.0%)などの固定率は低く、1割にも及ばない固定率である。

(3) 家具の固定を行わない理由

「面倒だから」が3割弱

Q23-2.

家具の固定を行わない理由を教えてください。(複数回答)



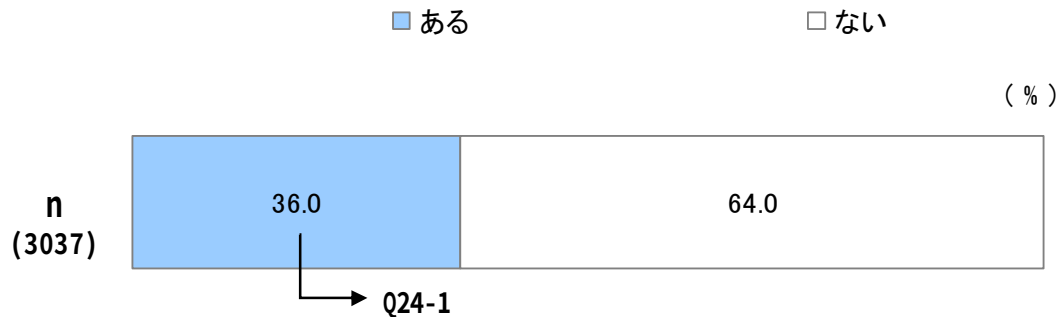
家具の固定を行わない人に理由をたずねたところ、「面倒くさいから」が29.1%で最も高い。次いで「お金がかかるから」が23.4%、「特に理由はない、考えたことがない」が16.5%でつづく。固定の仕方がわからない、できない、見た目が悪くなるといった要因よりも、家具の固定の重要性に対する意識の低さや費用の問題が大きいことがうかがえる。

6 ブロック塀等の対策について

(1) ブロック塀等の設置状況および対策

道路に面している塀等がある人のうち、補強をした又は予定があるのは1割未満

Q24. あなたのお宅には、道路に面している塀等(高さ1m以上)はありますか。



お宅に道路に面している塀等があるかをたずねたところ、「ある」が36.0%、「ない」が64.0%。

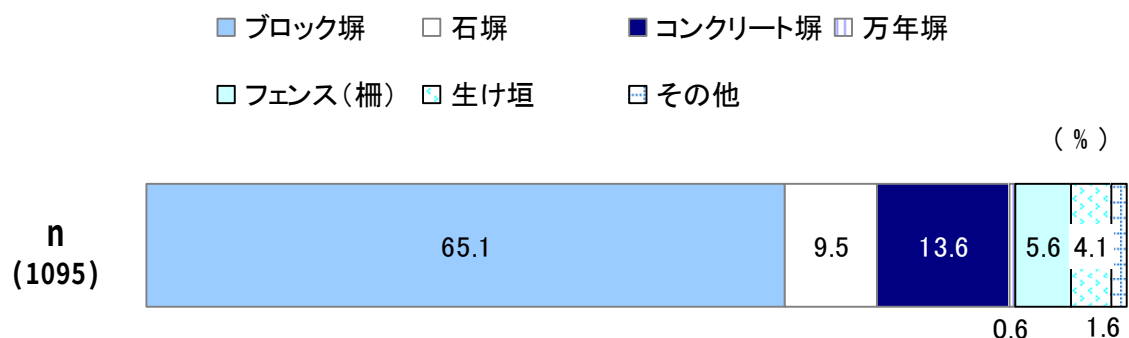
地域別でみると、吾妻地域と利根沼田地域で他の地域と比べて塀等が「ない」人が多い。

<性別・年代別・地域別 結果> (単位：%)

	n	ある	ない
全 体	3037	36.0	64.0
性別			
男性	1517	35.1	64.9
女性	1520	37.0	63.0
年代			
20代以下	543	32.2	67.8
30代	539	31.8	68.2
40代	479	33.8	66.2
50代	485	38.0	62.0
60代以上	992	40.6	59.4
居住地域			
中部地域	1050	39.0	61.0
西部地域	897	31.4	68.6
吾妻地域	90	21.6	78.4
利根沼田地域	134	20.2	79.8
東部地域	865	41.1	58.9

Q24-1.

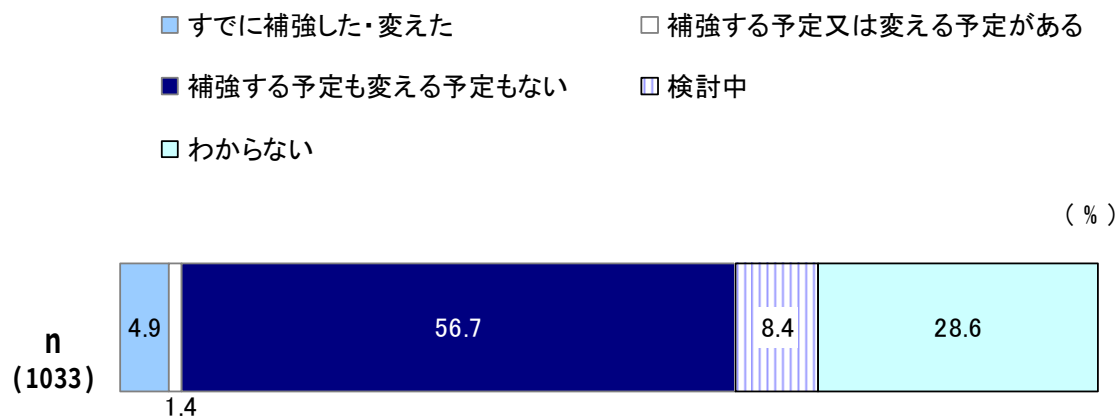
塀の種類を教えてください。



塀がある人にその種類をたずねたところ、「ブロック塀」が65.1%で最も高い。次いで「コンクリート塀」が13.6%、「石塀」が9.5%で続く。

Q24-2.

お宅では、今後ブロック塀や石塀などを補強したり生け垣などに変える予定はありますか。



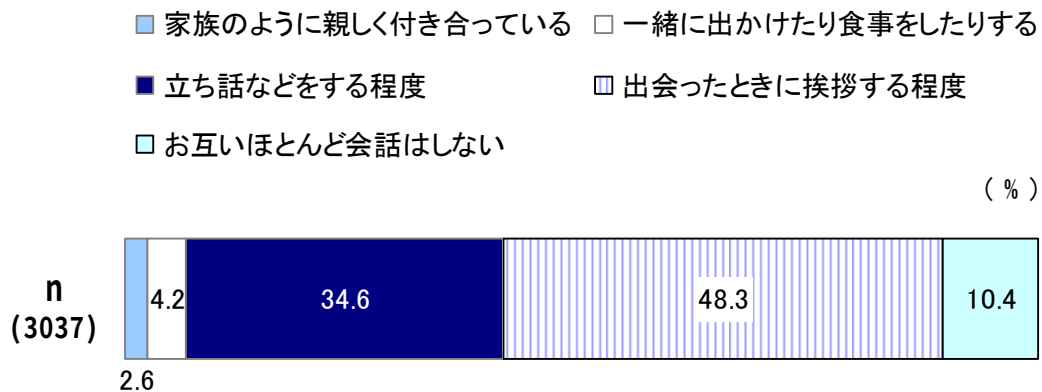
ブロック塀、石塀、コンクリート塀、万年塀、フェンス(柵)の塀がある人に、今後塀を補強したり生け垣などに変える予定があるかをたずねたところ、「補強する予定も変える予定もない」が56.7%で最も高く、6割弱を占める。「すでに補強した・変えた」は4.9%、「補強する予定又は変える予定がある」は1.4%にとどまる。ブロック塀等の危険性についての認識は低いと言える。

7 地域との関わり合いや協力について

(1) 近隣との付き合いの状況

「出会ったときに挨拶する程度」が半数

Q25. あなたと近隣の人とのお付き合いとして、最も近いものは次のどれですか。



近隣の人とのお付き合いの状況をたずねたところ、「出会ったときに挨拶する程度」が48.3%で最も高く、半数近くを占める。次いで「立ち話などをする程度」が34.6%。「お互いほとんど会話はしない」は10.4%で1割程度である。

性別でみると違いはほとんどない。

年代別でもさほど大きな違いはないが、「お互いほとんど会話はしない」は50代および60代以上では8%台半ばであるのに対し、20代以下では14.4%と、若い世代で近隣との付き合いが若干希薄な傾向が垣間見える。

地域別では、吾妻地域と利根沼田地域では、他地域に比べて「出会ったときに挨拶する程度」が少なく、「立ち話などをする程度」が多い。

<性別・年代別・地域別 結果>

(単位：％)

	n	家族のよう に親しく付 き合っている	一緒に出かけ たり食事 をしたりする	立ち話などを する程度	出会ったとき に挨拶する 程度	お互いほとん ど会話は しない
全 体	3037	2.6	4.2	34.6	48.3	10.4
性別						
男性	1517	1.7	3.9	36.1	47.7	10.6
女性	1520	3.5	4.5	33.0	48.9	10.1
年代						
20代以下	543	1.5	1.8	34.3	47.9	14.4
30代	539	2.1	4.1	31.9	51.7	10.2
40代	479	2.4	4.3	33.9	48.2	11.3
50代	485	2.1	3.6	40.5	45.3	8.5
60代以上	992	3.8	5.7	33.5	48.2	8.7
居住地域						
中部地域	1050	2.5	4.3	31.1	52.5	9.5
西部地域	897	2.3	4.1	32.1	48.0	13.5
吾妻地域	90	8.8	2.5	47.7	34.6	6.3
利根沼田地域	134	2.5	3.1	53.2	25.6	15.6
東部地域	865	2.3	4.5	37.0	48.4	7.8

(2) 自主防災組織の認知度

自主防災組織があるかを「知らない」が7割

Q26. あなたのお住まいの地域に自主防災組織はありますか。



お住まいの地域に自主防災組織があるかをたずねたところ、「知らない」が70.5%で、7割の人は自主防災組織があるかないかを知らない。「ある」と回答した人は14.4%、「ない」と回答した人は15.1%である。

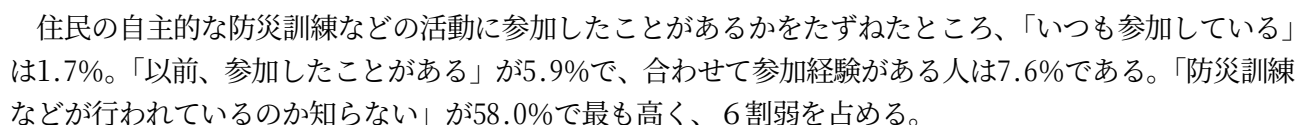
地域別でみると、吾妻地域と利根沼田地域では他の地域と比べて「知らない」と回答した人が少ないが、それでも過半数は「知らない」と答えている。

<性別・年代別・地域別 結果> (単位：%)

	n	ある	ない	知らない
全 体	3037	14.4	15.1	70.5
性別				
男性	1517	12.9	16.4	70.7
女性	1520	15.8	13.9	70.3
年代				
20代以下	543	9.9	17.3	72.8
30代	539	11.8	12.0	76.2
40代	479	16.5	13.3	70.2
50代	485	12.8	14.4	72.8
60代以上	992	17.9	16.9	65.2
居住地域				
中部地域	1050	12.9	14.8	72.3
西部地域	897	13.6	15.7	70.8
吾妻地域	90	21.7	20.4	58.0
利根沼田地域	134	27.0	18.4	54.6
東部地域	865	14.2	14.0	71.8

参加経験がある人は7.6%

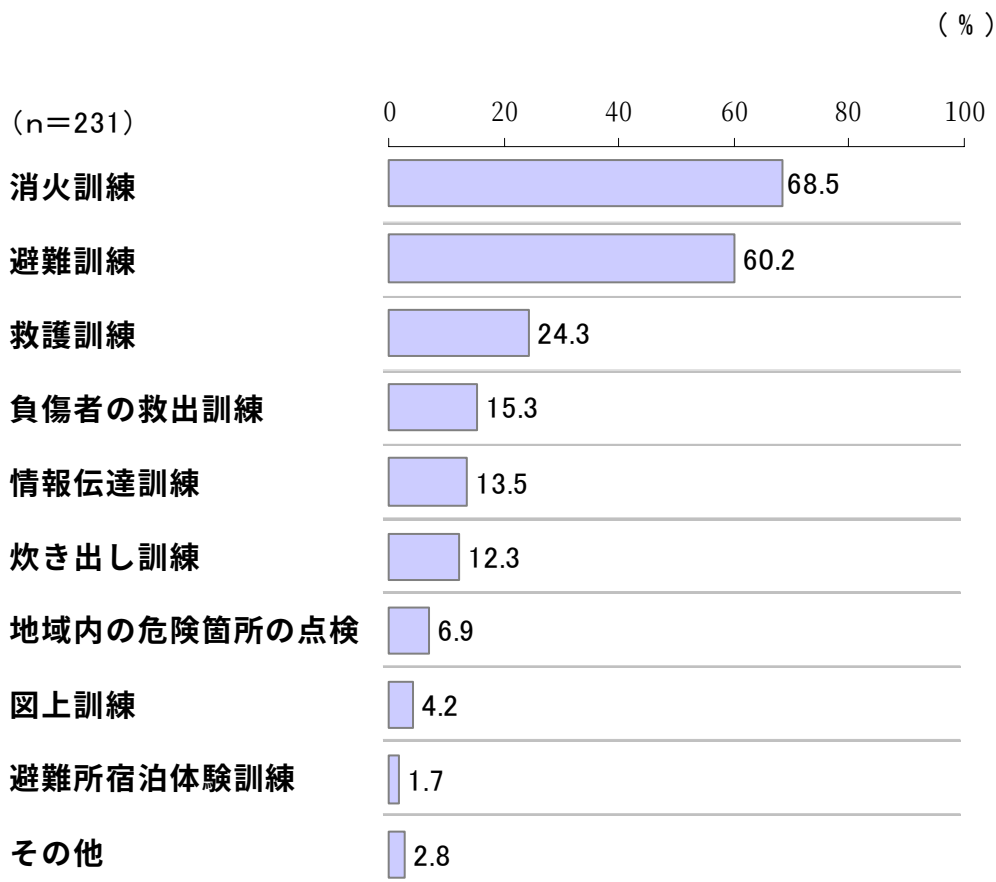
- ☒ いつも参加している
- ☐ 以前、参加したことがある
- ☒ 防災訓練などは行われているが、参加したことはない
- ☐ 防災訓練などは行われていない
- ☐ 防災訓練などが行われているのか知らない



	n	いつも参加している	以前、参加したことがある	防災訓練などとは行わないが、参加したことがある	防災訓練などとは行わない	防災訓練などが行われているの知らない
全 体	3037	1.7	5.9	9.2	25.2	58.0
性別						
男性	1517	2.0	6.8	8.1	25.0	58.1
女性	1520	1.4	5.1	10.3	25.4	57.9
年代						
20代以下	543	1.5	4.2	9.2	21.9	63.2
30代	539	1.0	6.5	7.4	18.2	66.9
40代	479	1.5	8.0	9.2	20.2	61.1
50代	485	2.2	8.1	10.1	22.2	57.4
60代以上	992	2.0	4.6	9.7	34.7	49.1
居住地域						
中部地域	1050	0.6	5.3	8.8	22.0	63.3
西部地域	897	3.2	6.7	11.0	24.0	55.1
吾妻地域	90	2.0	5.0	6.0	37.8	49.2
利根沼田地域	134	2.4	7.2	9.9	42.7	37.8
東部地域	865	1.2	5.9	7.9	26.3	58.7

Q27-1.

あなたはどのような防災訓練などに参加したことがありますか。
(複数回答)



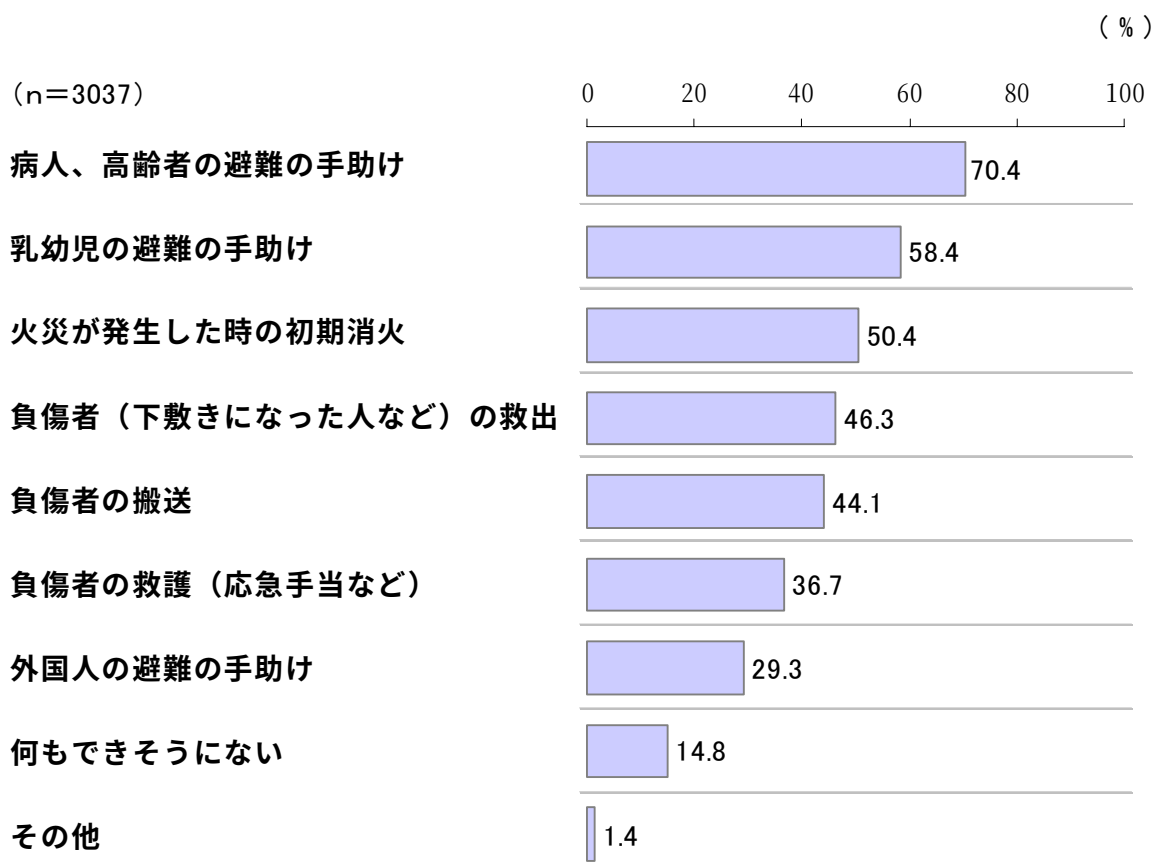
現在もしくは以前に防災訓練に参加した経験がある人に、どのような防災訓練に参加したのかをたずねたところ、「消火訓練」が最も高く68.5%で、次いで「避難訓練」が60.2%であり、この二つの訓練への参加が大多数である。以下「救護訓練」(24.3%)、「負傷者の救出訓練」(15.3%)が続く。

一定の行動に習熟する訓練でなく、「地域内の危険箇所の点検」や「図上訓練」といった、地域住民での話し合いもある訓練については、実施されることがあまりないためか、参加経験が少ない。

(4) 大地震発生時の助け合いや協力等の見通し

「病人、高齢者の避難の手助け」ができる人は7割

Q28. 大地震が起きたときには、避難や消火、救助などで隣近所の助け合いや協力が必要となることが考えられます。大地震の後、あなたがケガをしていなかった場合、次のようなことについて助け合いや協力ができそうですか。(複数回答)



大地震の後に自分にできそうな助け合いや協力についてたずねたところ、「病人、高齢者の避難の手助け」が最も高く70.4%。次いで「乳幼児の避難の手助け」が58.4%、「火災が発生した時の初期消火」が50.4%で、以上がそれぞれ半数以上の人ができると考えている項目である。負傷者の救出、搬送、救護など、体力や技術を必要とする活動は難しいと考える人の方が多い。さらに「外国人の避難の手助け」ができると考えている人は、言葉が壁になるためか、29.3%にとどまる。

性別にみると、「火災が発生した時の初期消火」、「負傷者の救出」、「負傷者の搬送」では、体力を要するためか、男性のほうが女性に比べ7～9ポイント程度高い。

年代別では明瞭な違いや傾向は見えにくい。

地域別では、吾妻地域と利根沼田地域で、他地域に比べ「火災が発生した時の初期消火」の比率が高いほか、吾妻地域では「負傷者の救護」も高い結果となっている。

<性別・年代別・地域別 結果>

(単位：%)

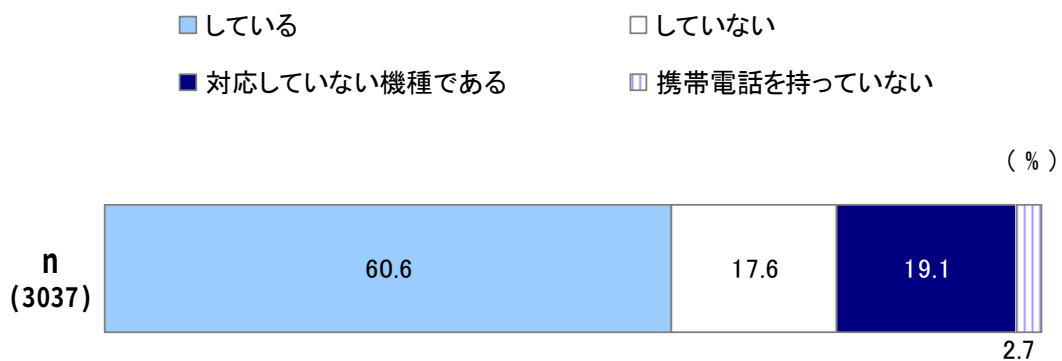
	n	手病人、 助け、 高齢者の 避難の	乳幼児の 避難の手 助け	外国人の 避難の手 助け	火災が 発生した 時の初 期消火	負傷者 (下敷き になっ た人な ど)の救 出	負傷者の 救護(応 急手 当など)	負傷者の 搬送	何も できそ うに ない	その他
全 体	3037	70.4	58.4	29.3	50.4	46.3	36.7	44.1	14.8	1.4
性別										
男性	1517	71.1	58.4	30.1	54.3	51.0	36.0	47.4	14.0	1.2
女性	1520	69.7	58.4	28.5	46.5	41.6	37.4	40.8	15.6	1.6
年代										
20代以下	543	71.0	62.1	30.4	49.7	47.0	33.4	46.7	11.7	1.4
30代	539	66.6	61.0	29.3	48.2	44.2	33.4	38.8	15.6	1.6
40代	479	71.2	58.6	32.0	50.4	46.2	37.0	43.1	14.3	1.9
50代	485	72.7	54.5	28.9	49.2	44.2	39.7	39.9	12.7	1.2
60代以上	992	70.5	56.9	27.7	52.5	48.1	38.8	48.0	17.4	1.1
居住地域										
中部地域	1050	69.4	55.0	26.7	49.0	44.4	36.3	41.3	13.4	1.6
西部地域	897	69.3	59.3	34.0	45.9	44.3	37.0	40.5	17.7	1.2
吾妻地域	90	74.2	59.2	27.3	64.9	54.2	48.3	51.5	8.5	1.3
利根沼田地域	134	60.4	52.8	21.1	61.2	43.7	30.4	44.8	17.8	0.0
東部地域	865	73.8	62.5	29.1	53.6	50.2	36.8	50.3	13.9	1.5

8 大地震が起きたときの行動について

(1) 緊急地震速報の受信設定

携帯電話で緊急地震速報を受信できるように「している」人が6割

Q29. あなたは、お持ちの携帯電話で、緊急地震速報を受信できるようにしていますか。



所持している携帯電話で、緊急地震速報を受信できるようにしているかをたずねたところ、受信できるように「している」人は60.6%で6割を占める。「対応していない機種である」が19.1%存在することから、受信機能がある携帯電話を持つ人に限れば、年代に関係なく4人のうち3人は受信設定をしており、緊急地震速報についての認知度や利用意向はある程度高まっていると言える。

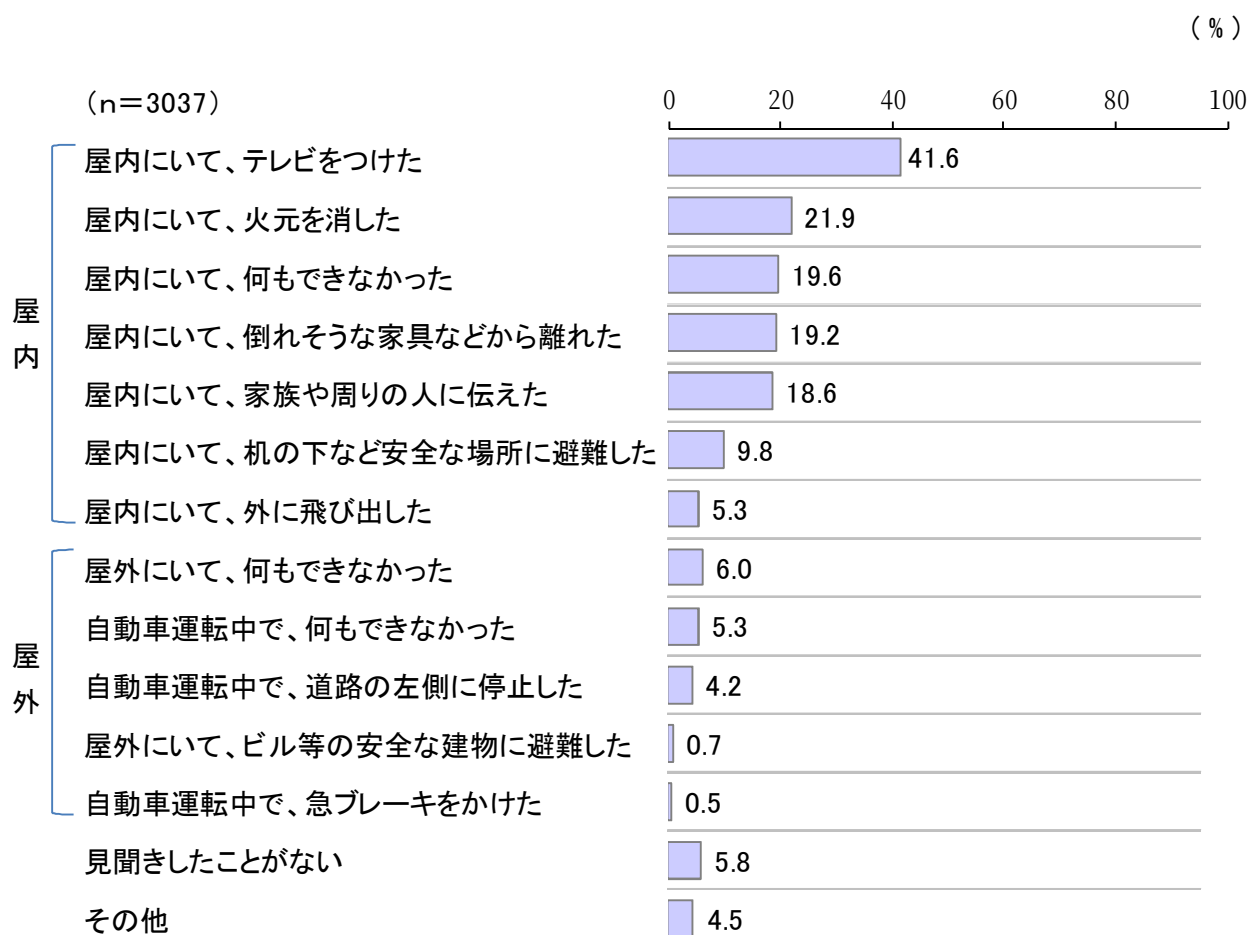
<性別・年代別・地域別 結果> (単位：%)

	n	している	していない	対応していない機種である	携帯電話を持っていない
全 体	3037	60.6	17.6	19.1	2.7
性別					
男性	1517	56.8	19.3	20.9	3.0
女性	1520	64.3	15.9	17.4	2.3
年代					
20代以下	543	60.8	16.4	20.0	2.8
30代	539	60.9	17.8	19.7	1.6
40代	479	60.7	17.8	18.3	3.2
50代	485	59.9	17.0	20.9	2.2
60代以上	992	60.6	18.2	17.9	3.2
居住地域					
中部地域	1050	57.6	18.4	21.1	2.9
西部地域	897	62.5	16.6	17.8	3.1
吾妻地域	90	79.4	11.4	7.2	2.0
利根沼田地域	134	69.8	9.0	19.5	1.7
東部地域	865	58.8	19.6	19.3	2.2

(2) 緊急地震速報を見聞きした際の行動

屋内では「テレビをつけた」、屋外では「何もできなかった」

Q30. あなたは、最近、テレビや携帯電話等で緊急地震速報を見聞きした際に、どのような行動をとりましたか。(複数回答)



最近、緊急地震速報を見聞きした際にどのような行動をとったかをたずねたところ、「屋内にいて、テレビをつけた」が41.6%、「屋内にいて、火元を消した」が21.9%にのぼる。しかし「屋内にいて、何もできなかった」も19.6%である。

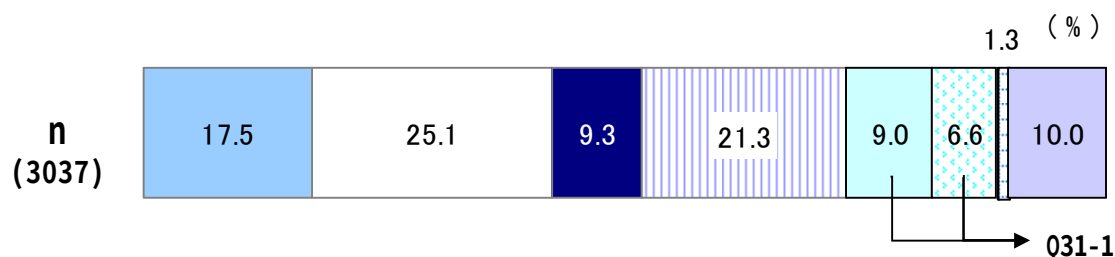
一方、「屋外にいて、何もできなかった」は6.0%、「自動車運転中で、何もできなかった」は5.3%で、屋外にいる場合は、緊急地震速報を見聞きしても、屋内にいた場合に比べると必ずしも退避行動に結び付いていないことがうかがえる。

(3) 大地震発生直後の避難の基準

避難する基準は人により意見が分かれる

Q31. 大地震が発生した直後、どのような状況になったら避難しますか。

- ☒ 大地震が発生したら、とにかく避難する
- ☐ 市町村から避難勧告・指示があったら避難する
- ☒ 自宅に被害が無くても、電気、ガス、水道等が使えなくなったら避難する
- ☐ 自宅に被害が無くても、近所で火災が発生し、自宅まで延焼する可能性があったら避難する
- ☐ 自宅が半壊したら避難する
- ☐ 自宅が全壊したら避難する
- ☐ その他
- ☐ わからない



大地震が発生した直後、どのような状況になったら避難するかをたずねたところ、「市町村から避難勧告・指示があったら避難する」が25.1%、「自宅に被害が無くても、近所で火災が発生し、自宅まで延焼する可能性があったら避難する」が21.3%、「大地震が発生したら、とにかく避難する」が17.5%で、人により避難開始の判断が分かれた。

性別にみても結果に大きな違いはない。

年代別では、20代以下、30代、40代では「市町村から避難勧告・指示があったら避難する」の比率が、50代および60代以上に比べてやや高い。

地域別にみると、吾妻地域では「市町村から避難勧告・指示があったら避難する」が3割を超えて最も多く、また他地域と比較しても多い割合となっている。一方、利根沼田地域では「近所で火災が発生し、自宅まで延焼する可能性があったら避難する」が約3割と多い結果になっている。

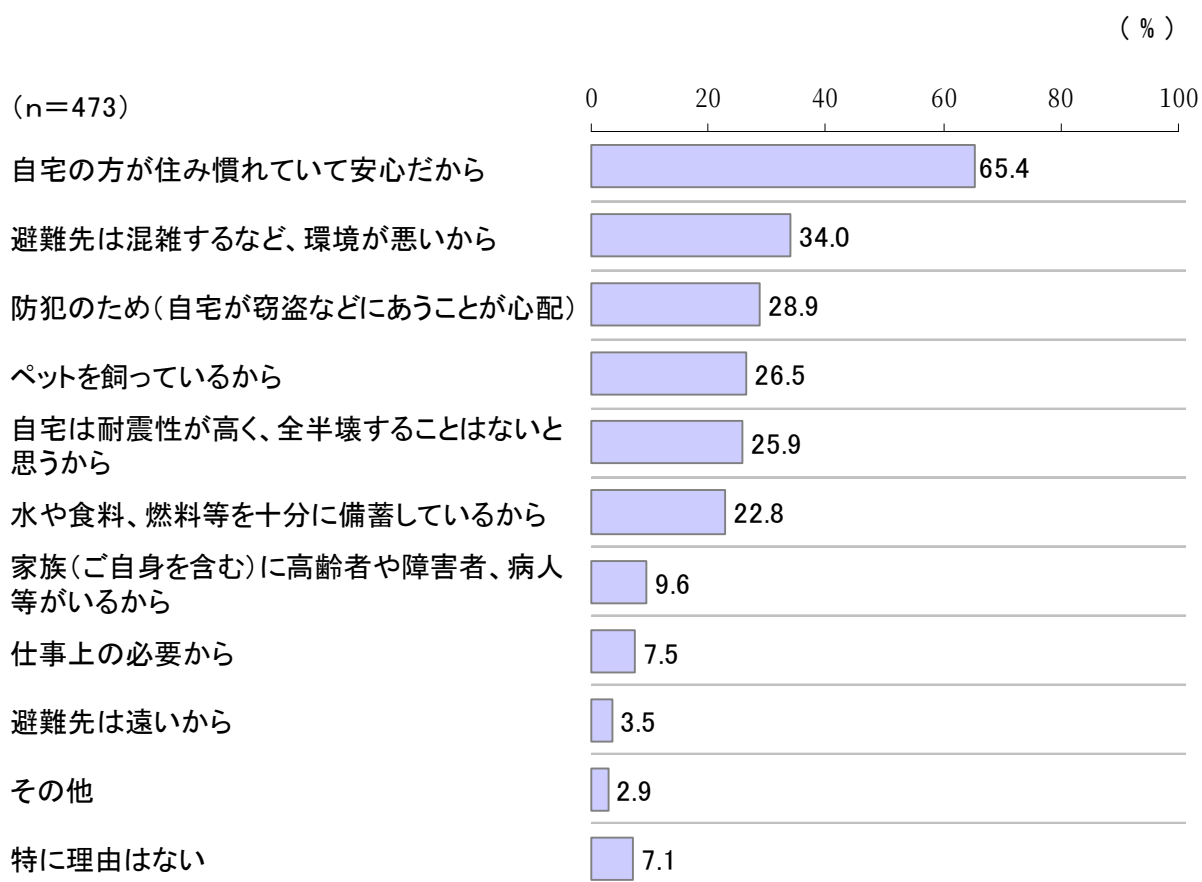
<性別・年代別・地域別 結果>

(単位：％)

	n	大地震が発生したら、とにかく避難する	市町村から避難勧告・指示があったら避難する	電気、ガス等がなくても、なったら避難する	自宅に被害が無くても、あつたら避難する可能性が	近所で火災が発生し、自宅まで延焼する可能性が	自宅が半壊したら避難する	自宅が全壊したら避難する	その他	わからない
全 体	3037	17.5	25.1	9.3	21.3	9.0	6.6	1.3	10.0	
性別										
男性	1517	18.6	26.8	8.3	21.7	8.1	6.7	1.3	8.5	
女性	1520	16.3	23.4	10.4	20.8	9.9	6.5	1.4	11.4	
年代										
20代以下	543	18.1	27.0	10.5	22.1	5.0	6.6	0.6	10.1	
30代	539	18.8	28.7	8.5	17.8	9.1	5.1	0.7	11.3	
40代	479	17.4	27.5	9.5	22.4	7.6	5.3	1.0	9.4	
50代	485	14.0	22.9	10.9	25.4	10.2	6.9	1.0	8.8	
60代以上	992	18.1	22.1	8.2	20.2	11.1	7.9	2.4	10.0	
居住地域										
中部地域	1050	16.8	24.0	9.1	25.0	9.2	6.7	0.7	8.5	
西部地域	897	18.9	27.6	7.6	19.6	7.6	5.6	3.0	10.1	
吾妻地域	90	13.4	33.6	12.1	6.6	14.6	4.5	0.6	14.6	
利根沼田地域	134	9.8	22.4	15.7	29.9	7.5	8.7	0.0	6.0	
東部地域	865	18.4	23.4	10.2	18.6	9.6	7.5	0.6	11.6	

Q31－1.

自宅が全壊又は半壊するまで避難しない理由を教えてください。(複数回答)

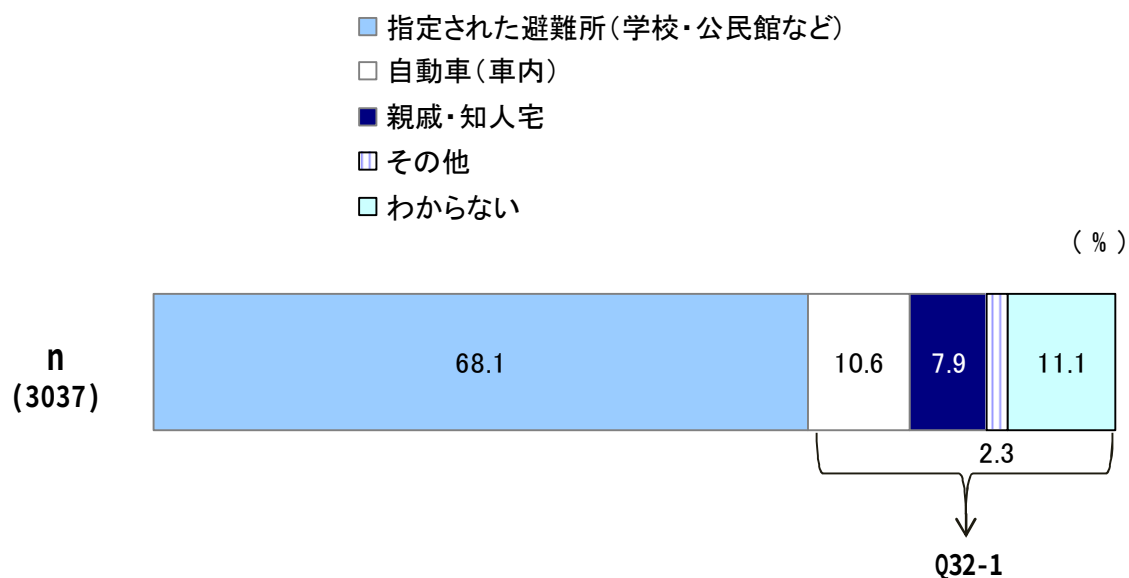


自宅が半壊するもしくは全壊したら避難をすると回答した人に、その状況まで避難をしない理由をたずねたところ、「自宅の方が住み慣れていて安心だから」が65.4%で最も高い。次いで「避難先は混雑するなど、環境が悪いから」が34.0%で、災害時であっても生活環境の維持を重視している人が多いことがわかる。また、「防犯のため(自宅が窃盗などにあうことが心配)」が28.9%で、地域の治安維持について懸念する人も少なくない。

(4) 大地震発生直後の避難場所

「指定された避難所（学校・公民館など）」が7割弱

Q32. 仮に、大地震が発生した直後に避難する場合、どこに避難しようと思いますか。



大地震が発生した直後に避難する場合、どこに避難しようと思うかをたずねたところ、「指定された避難所（学校・公民館など）」が68.1%で7割弱を占める。次いで「自動車（車内）」が10.6%、「親戚・知人宅」が7.9%。「わからない」と回答する人も11.1%を占める。

性別、年代別で大差はないが、地域別では利根沼田地域で「自動車（車内）」が多い。

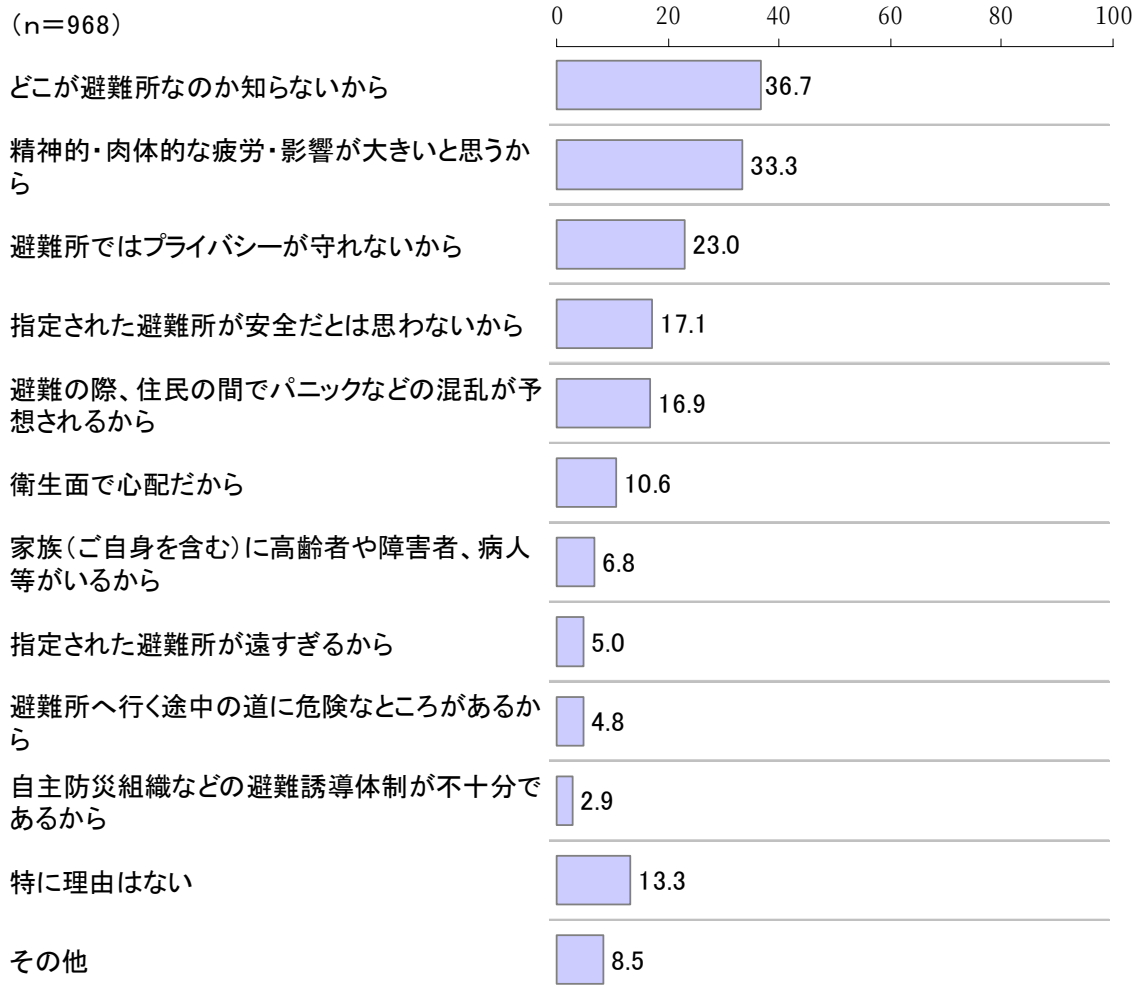
<性別・年代別・地域別 結果> (単位：%)

	n	指定された 避難所（学校・ 公民館など）	自動車（車内）	親戚・知人宅	その他	わからない
全 体	3037	68.1	10.6	7.9	2.3	11.1
性別						
男性	1517	68.3	11.0	8.0	2.3	10.5
女性	1520	68.0	10.1	7.8	2.3	11.8
年代						
20代以下	543	68.7	9.8	5.5	2.6	13.4
30代	539	65.4	10.8	9.9	1.3	12.7
40代	479	66.3	11.9	8.7	2.1	11.1
50代	485	68.8	12.3	6.6	2.8	9.5
60代以上	992	69.8	9.4	8.4	2.5	9.9
居住地域						
中部地域	1050	70.1	9.8	6.6	2.1	11.4
西部地域	897	68.1	10.3	9.2	1.6	10.8
吾妻地域	90	59.6	14.2	5.1	6.0	15.2
利根沼田地域	134	63.5	20.0	4.0	5.0	7.5
東部地域	865	67.3	9.9	9.1	2.4	11.3

Q32-1.

指定された避難所に避難しない理由を教えてください。(3つまで選択)

(%)



指定された避難所(学校・公民館など)以外の場所に避難をすると回答した人に理由をたずねたところ、「どこが避難所なのか知らないから」が36.7%で最も高い。次いで「精神的・肉体的な疲労・影響が大きいと思うから」が33.3%、「避難所ではプライバシーが守れないから」が23.0%である。

避難所の場所を知らないか、あるいは、生活環境が悪いことを忌避して、避難所に避難しない人が多いことがうかがえる。

性別、年代別にみても、避難所に避難しない理由に際立った違いは認められない。

地域別では、とくに利根沼田地域や吾妻地域では、「どこが避難所なのか知らないから」の割合が高い。

<性別・年代別・地域別 結果>

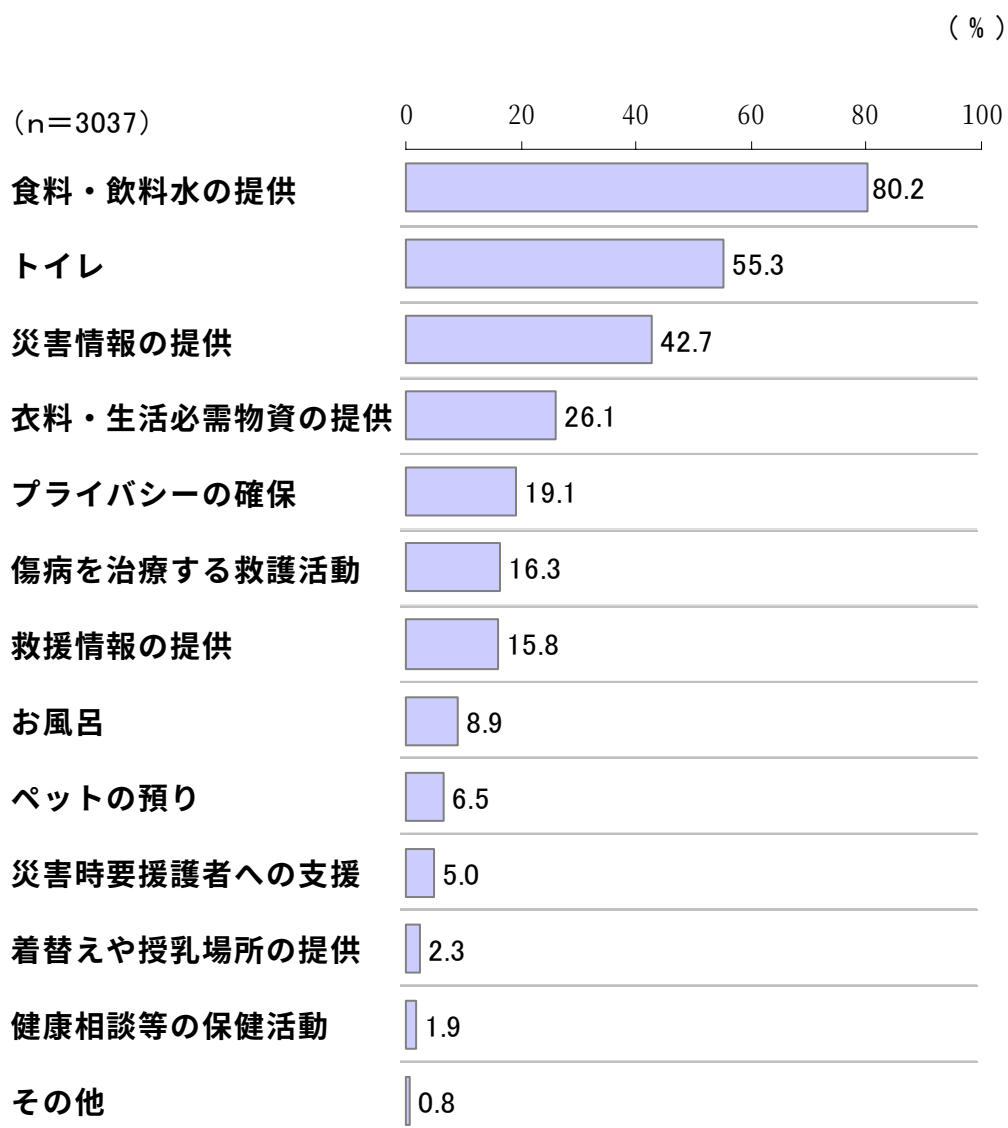
(単位：％)

	n	指定された避難所から遠	かに危険なところがある	避難所へ行く途中の道	予想されるなどの混乱が	避難の際、住民の間で	避難の場所が安	指定された避難所から	知らない避難所なのか	どこが避難所なのか	あ	難	自	人	に	家	シ	避	衛	う	精	特	そ
全 体	968	5.0	4.8	16.9	17.1	36.7	2.9	6.8	23.0	10.6	33.3	13.3	8.5										
性別																							
男性	481	5.6	5.4	15.5	16.0	35.4	2.8	7.4	25.1	12.3	35.4	12.2	7.9										
女性	487	4.3	4.1	18.4	18.1	37.9	3.0	6.3	21.0	8.9	31.2	14.5	9.1										
年代																							
20代以下	170	7.1	1.8	15.2	18.2	34.2	3.2	6.1	22.5	8.9	39.1	12.5	6.1										
30代	187	2.7	4.0	17.0	14.5	35.6	1.9	7.5	25.3	11.0	34.4	14.9	11.4										
40代	161	5.3	3.2	18.9	15.3	34.0	4.2	7.4	22.1	10.2	27.0	14.0	13.4										
50代	151	6.1	6.5	21.1	18.0	37.3	2.0	12.0	22.4	7.3	35.2	13.5	6.3										
60代以上	299	4.3	6.8	14.7	18.5	39.9	3.1	3.9	22.7	13.1	31.8	12.4	6.6										
居住地域																							
中部地域	314	4.0	2.4	14.3	18.5	31.0	1.7	6.1	24.3	12.5	32.9	14.7	10.6										
西部地域	286	4.1	7.0	20.1	19.7	36.0	3.3	5.2	25.4	12.7	36.8	9.0	8.6										
吾妻地域	37	12.1	11.8	8.2	12.1	44.1	3.8	4.1	30.7	3.3	42.2	18.1	5.5										
利根沼田地域	49	7.8	6.7	17.0	9.8	48.7	1.0	11.5	15.1	7.8	39.3	0.0	8.2										
東部地域	283	5.5	3.8	17.7	14.7	40.6	4.0	8.8	19.5	7.7	28.1	17.9	6.6										

(5) 避難所で充実してほしいこと

「食料・飲料水の提供」が8割

Q33. 避難所において、最も充実してほしいことを教えてください。
(3つまで選択)

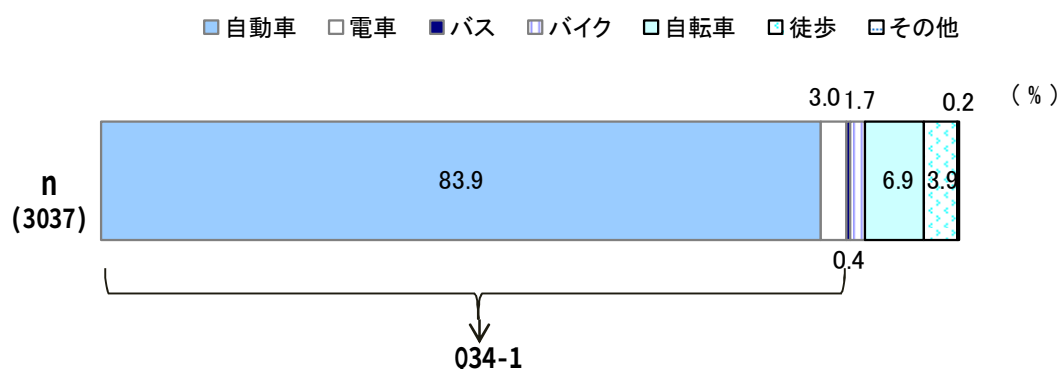


避難所において充実してほしい事をたずねたところ、「食料・飲料水の提供」が80.2%で最も高い。次いで「トイレ」が55.3%、「災害情報の提供」が42.7%、「衣料・生活必需物資の提供」が26.1%でつづく。衣食に加え情報の提供が望まれている。

(6) 通勤・通学・買物等の交通手段

外出先から、何とかして帰ろうとする人が4割

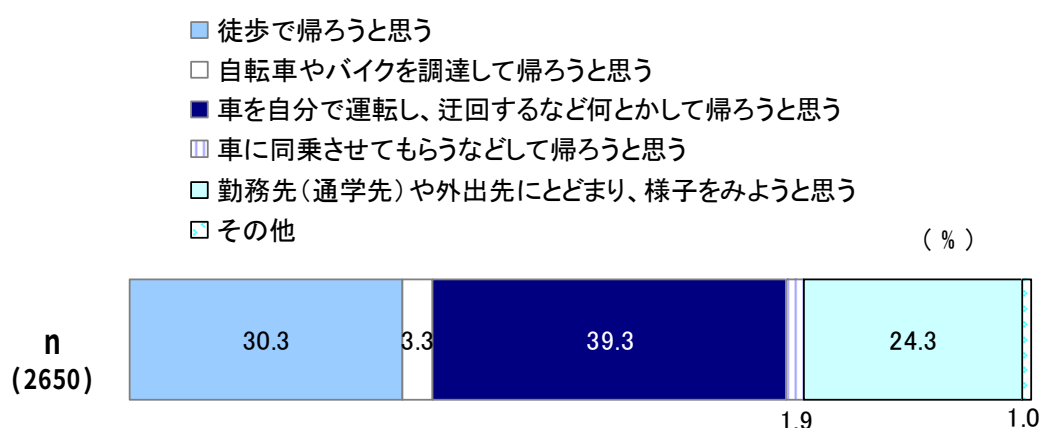
Q34. 勤務・通学先、または(勤務・通学していない方は)買物等で最もよく行く場所までの交通手段を教えてください。なお、手段が複数の場合は、その利用距離が一番長いものを選んでください。



最もよく行く場所までの交通手段をたずねたところ、「自動車」が83.9%で最も高い。その他の手段はいずれもそれぞれ1割以下で、次点の「自転車」は6.9%にとどまる。人口当たりの自動車保有台数が多いという群馬県の特徴が表われている。

Q34-1.

大地震が起こった場合には、鉄道・バス等の交通機関の運行停止や、主要道路での被害発生による通行不能が予想されます。勤務先(通学先)や外出先で大地震にあった場合、自宅へ帰ろうと思いますか。



最もよく行く場所までの交通手段で自動車、電車、バスを利用している人に勤務先(通学先)や外出先で大地震にあった場合、自宅へ帰ろうと思うかをたずねたところ、「車を自分で運転し、迂回するなどして何とかして帰ろうと思う」が39.3%、「徒歩で帰ろうと思う」が30.3%、「勤務先(通学先)や外出先にとどまり、様子をみようと思う」が24.3%で、意見が大きく3分された。公共交通機関への依存度が低いことから徒歩による帰宅意向が強い大都市圏の帰宅困難者問題とは、様相を異にしている。

年代別では、「車を自分で運転し、迂回するなどして何とかして帰ろうと思う」が、年代が高くなるほど多くなるような傾向が若干みられる。

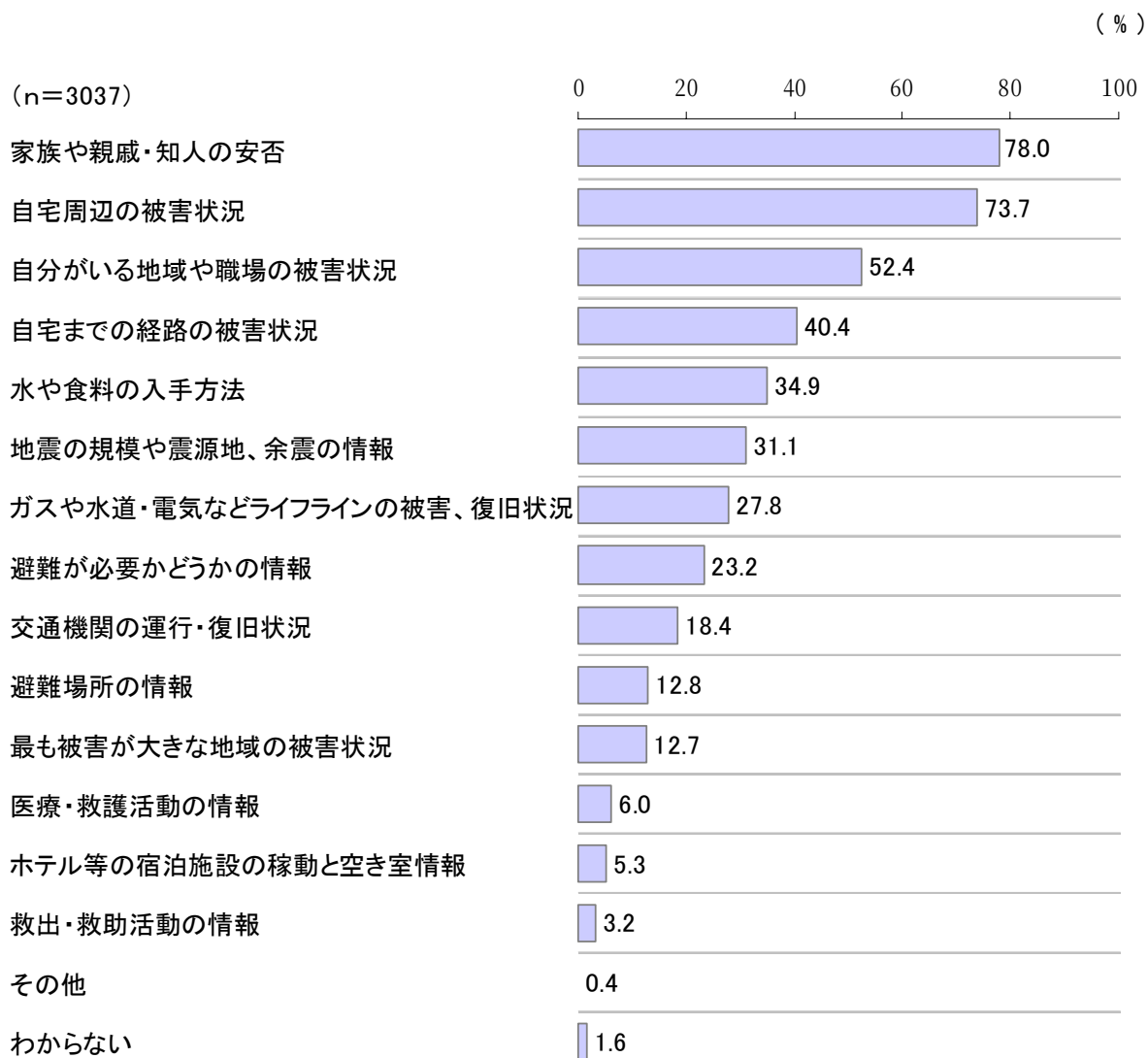
地域別でみると、吾妻地域だけで「勤務先（通学先）や外出先にとどまり、様子をみようと思う」が最多となっている。

＜性別・年代別・地域別 結果＞ (単位：%)							
	n	徒歩で帰ろうと思う	自転車やバイクを調達して帰ろうと思う	車を自分で運転し、迂回するなどして帰ろうと思う	車に同乗させてもらおうと思う	出勤先（通学先）や外出先にとどまり、様子をみようと思う	その他
全 体	2650	30.3	3.3	39.3	1.9	24.3	1.0
性別							
男性	1294	29.1	4.1	40.6	1.6	23.9	0.8
女性	1356	31.4	2.6	38.0	2.2	24.6	1.1
年代							
20代以下	451	29.1	5.0	35.9	2.2	27.6	0.2
30代	465	35.3	4.1	38.0	1.2	20.3	1.2
40代	420	33.4	2.6	38.2	1.3	23.3	1.2
50代	419	33.3	1.5	39.1	1.9	23.6	0.7
60代以上	895	25.3	3.3	42.3	2.4	25.5	1.2
居住地域							
中部地域	895	30.7	2.5	43.8	1.7	21.3	0.1
西部地域	762	29.7	3.5	38.6	1.7	24.5	2.0
吾妻地域	83	30.3	0.0	29.3	0.6	36.7	3.0
利根沼田地域	126	29.4	2.6	40.8	1.6	25.0	0.6
東部地域	784	30.5	4.6	35.6	2.5	26.1	0.7

(7) 帰宅困難時に欲しい情報

「家族や親戚・知人の安否」、「自宅周辺の被害」が7割超

Q35. 勤務先(通学先)や外出先で大地震に遭い、徒歩での帰宅もできなくなったとしたら、あなたは、まずどのような情報を知りたいと思いますか。(5つまで選択)



勤務先(通学先)や外出先で大地震に遭い、徒歩での帰宅もできなくなったとしたら、どのような情報を知りたいかをたずねたところ、「家族や親戚・知人の安否」が78.0%で最も高い。次いで「自宅周辺の被害状況」が73.7%、「自分がいる地域や職場の被害状況」が52.4%でつづき、自分の日頃の生活に関わる周辺情報を気にかけていることがうかがえる。

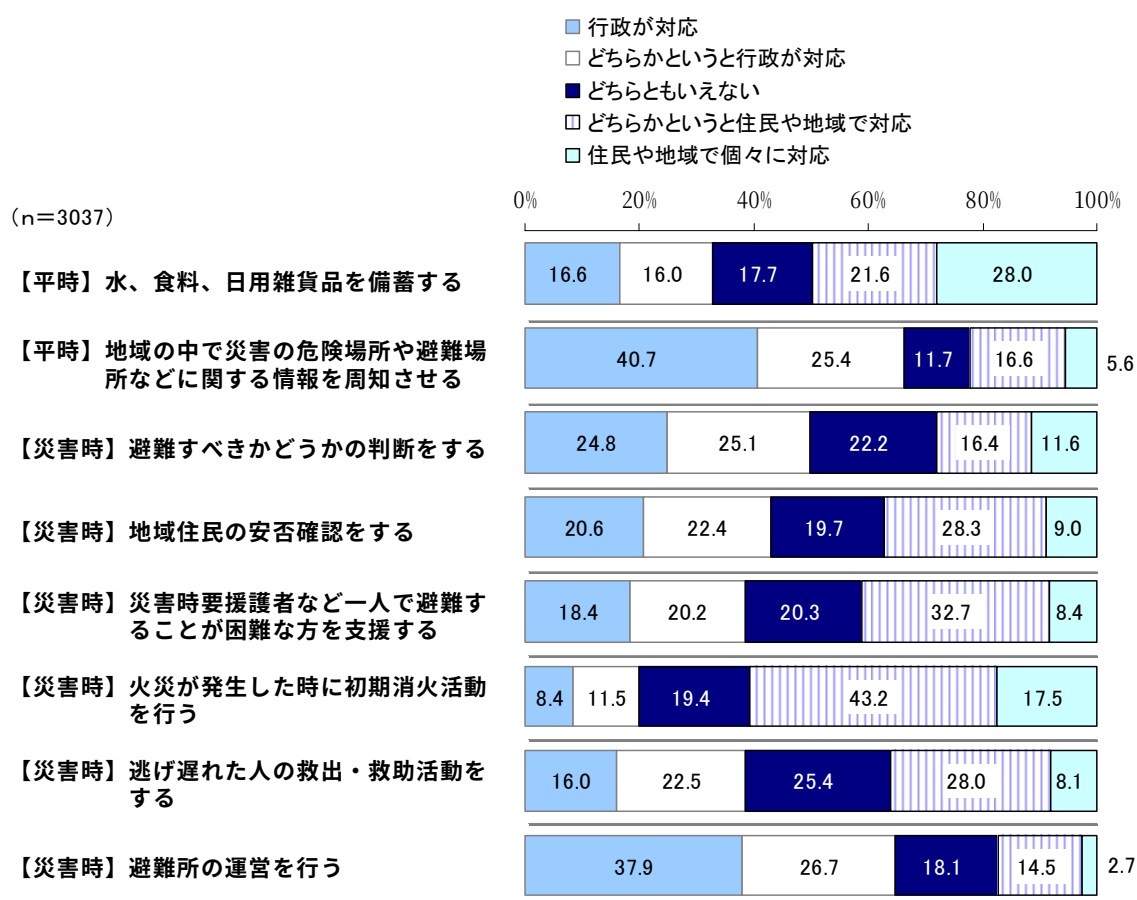
9 これからの地震対策の取り組みについて

(1) 地震対策の実施主体

「避難すべきかどうかの判断をする」を行政対応とした人は5割

住民や地域の対応が主となるのは「初期消火」「備蓄」

Q36. 各地震対策は、だれが行うことが現実的かつ効果的だと思いますか。



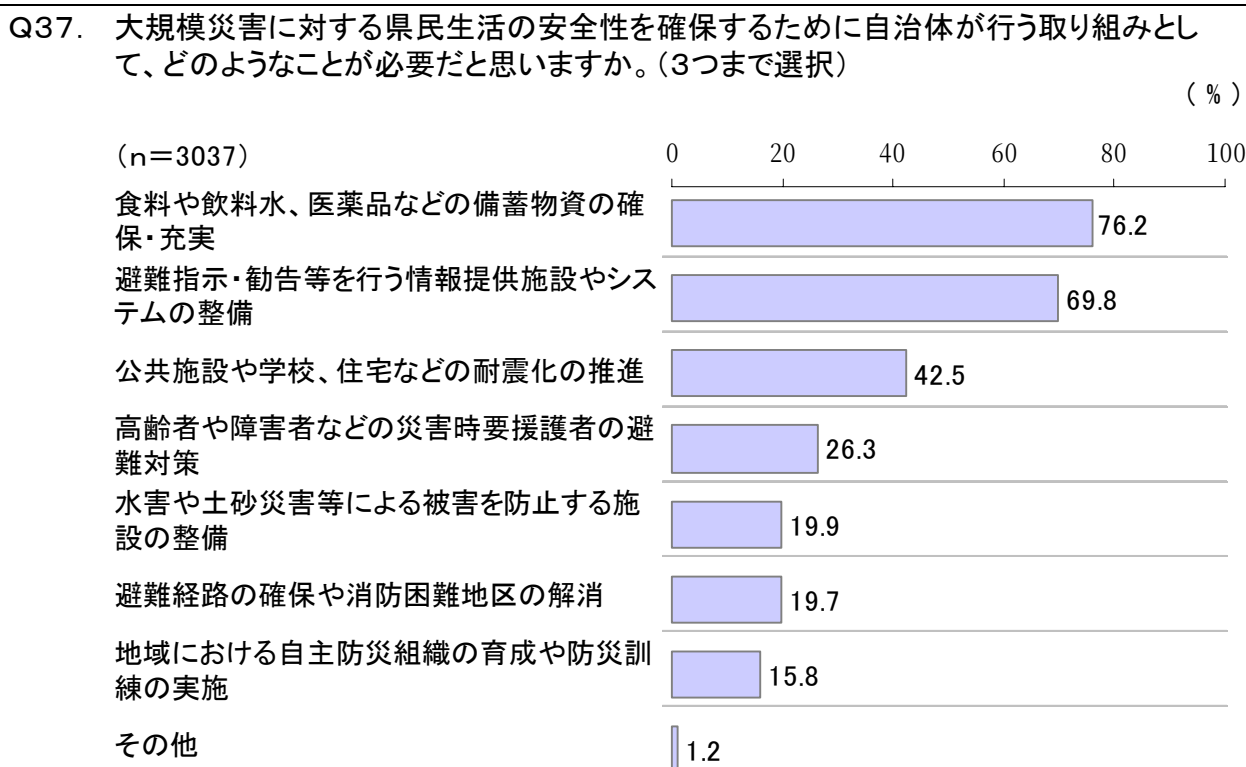
各地震対策は、だれが行うことが現実的かつ効果的かをたずねたところ、半数以上が行政の対応を望んでいる（「行政が対応」＋「どちらかという行政が対応」）項目は「【平時】地域の中で災害の危険場所や避難場所などに関する情報を周知させる」（66.1%）と「【災害時】避難所の運営を行う」（64.6%）である。

これに対して、半数以上が、住民や地域で個々に対応の方がよいと考えている（「どちらかという住民や地域で対応」＋「住民や地域で個々に対応」）項目は、「【災害時】火災が発生した時に初期消火活動を行う」（60.7%）である。また、「【平時】水、食料、日用雑貨品を備蓄する」（49.6%）も、ほぼ半数が住民や地域で個々に対応の方がよいと考えられている。

本来は住民の「自助」が重要な避難の判断や、地域における「共助」が期待される避難所運営についても、行政に頼る傾向が強い結果となっている。

(2) 自治体の取り組みに必要なこと

「食料や飲料水、医薬品などの備蓄物資の確保・充実」が8割弱



自治体が行う取り組みとして、どのようなことが必要だと思うかをたずねたところ、「食料や飲料水、医薬品などの備蓄物資の確保・充実」が76.2%で最も高い。次いで「避難指示・勧告等を行う情報提供施設やシステムの整備」が69.8%で続く。

東日本大震災の発生以前に実施された『総合計画策定に係る県民アンケート調査』（以下参照）における同様の設問の回答結果と比べると、「食料や飲料水、医薬品などの備蓄物資の確保・充実」や「避難指示・勧告等を行う情報提供施設やシステムの整備」の希望が大幅に上昇しており、東日本大震災で問題となった津波警報等の情報伝達や物流事情の影響がうかがえる。

【総合計画策定に係る県民アンケート調査の実施概要】

- ①調査の目的：重点的に推進すべき施策に関する県民のニーズ等を把握するため実施
- ②調査対象者：県内に在住する満18歳以上の男女3,200人
- ③抽出方法：市町村住民基本台帳に基づく市町村人口で案分し、当該標本数を市町村住民基本台帳から無作為抽出
- ④調査実施方法：郵送配布、郵送回収
- ⑤調査期間：平成21年12月1日～22年1月4日
- ⑥回収結果 回収数：1,582（補正後1,236）
回収率：49.4%
- ⑦調査項目：群馬県の魅力、住みやすさ、愛着、今後取り組むべき施策、将来の群馬県に期待する姿など

(調査結果 注：回答数は本調査と同じく3つまで)

大規模災害への備え (n=1236)	
食料や飲料水、医薬品などの備蓄物資の確保・充実	57.9%
避難指示・勧告等を行う情報提供施設やシステムの整備	47.0%
高齢者や障害者など災害弱者の避難対策の充実	45.1%
公共施設や学校、住宅などの耐震化の推進	34.6%
避難経路の確保や消防困難地区の解消	30.5%
水害や土砂災害等による被害を防止する施設の整備	30.2%
地域における自主防災組織の育成や防災訓練の実施	17.4%
その他	1.3%
無回答	1.9%

(3) 行政が実施する地震対策に関する意見（自由記述）

Q38. 最後に、行政（県、市町村）が実施する地震対策に関する意見等ございましたら、ご記入ください。

記載されたコメントから抜粋して以下に掲載。

- 災害時には誰もが自分のことで精一杯になるはず。行政も想定通りの動きが出来るとは限らない。何でも行政の対応を待つ、期待する、というのは現実的でないことは、3.11で分かった。（行政があてにならない、という意味ではなく、誰もが必死であるという意味で）基本的には「住民や地域で個々に対応」出来るようにしておくべき。自分の身は自分で守り、出来れば家族・知人を助け、更に可能であれば災害時要援護者を支援する。そのために、行政で「災害時にすべきこと・出来るようにしておくべきこと・出来ると望ましいこと」等をまとめた具体的かつ分かりやすいマニュアルを作成し、徹底周知（配布）することが必要だと思う。情報を得た上でどうするかは、個人の責任で構わない。命に関わることなので、高い優先度で、是非、集められたアンケート結果を参考に災害時対応のマニュアル作成をお願いしたい。また、町単位もしくはそれを更に細かくした単位でも構わないので、各種訓練の実施を計画してほしい。一度でもやっているのとやっていないのでは、全く違うと思う。（男性／20代）
- 実際に災害が起きた時、行政が素早くて確かな指示を出す、というのは難しいと思います。いつ起きるかも分からないし、その時各担当者がどこに居るかも分からない訳ですので。やはり地域毎に災害時の避難方法や防災訓練等を行っておくのが良いのではないのでしょうか。県にはその活動を後押しするための支援や各地域への働き掛けをしていただきたいと思います。（女性／20代）
- 一時的にその地域に住んでいる賃貸アパートなどの住民などにも、避難場所や経路がわかる取り組みをしていただけるとありがたいです。自分から役場に聞きに行かなくても、道路に掲示があるとか、住み始めたときにそのような情報が書いてある紙や冊子をもらえるなど・・・住民票や水道の利用などで初めてその役場に訪れたときに必要な情報を自動的にもらえるシステムにしてほしい。（女性／30代）
- 群馬県に住んでいると、大地震が起きてみても津波は来ないし、大地震自体がまず起こらないという意識がどうしてもある。去年の大震災も1000年に一度と言われれば例外中の例外に運悪く当たっただけで、生きている内に再度大地震があるとは思えないという意識しか持てない。大地震の危険性を言うのであれば、まずは群馬での大地震の危険性の説明からすべきかと思われる。（男性／30代）
- 3.11のような大地震が起きた場合に、冷静に行政や住民が動けるはずもないことが、わかった。できるだけ、いろいろな場面を想定して、訓練や対策をとっておいた方がいと常々思う。我が家でもできる限り備蓄や避難方法など、家族と話し合っておくので、行政としてもいろいろな対策をとっておいて欲しいと思います。（女性／30代）
- 防災や救助の知識を得られるような機会が身近にたくさんあるといいです。県民の個々の防災意識が高まるイベントなどの開催。（水や食料をどれだけ準備したらいいかわからない等も教えてほしい）地震のときに、各市町村、地域での自主防災組織や防災訓練が行われるよう普段から行政が積極的に取り組んでほしいです。（女性／30代）
- ライフラインの確保は行政が行うべき。また避難所への物資搬入を速やかに行うシステムを構築しておく必要がある。一方、大震災レベルの災害では行政からのバックアップを受けつつ、地域レベルの協力が必要だと思う。日頃より地域毎に協力して防災活動を行うよう訓練が必要だと思う。（男性／30代）
- 災害後の混乱が最小限かつ速やかに治まるような備蓄やマニュアルの整備、「想定外」が無いようなあらゆる可能性の検討。災害時要援護者と括らずに、見えない、聞こえない、理解できない、自力移動ができないといった具体的な対象者を想定した弱者支援の構築など。（女性／30代）
- とにかく災害が起きた時は皆が混乱している状況になると思うので、災害の正しい情報提供や食料、飲料などの備蓄は出来る限りお願いしたいです。自分たちで出来る防災訓練や備蓄などもさらに必要なのだと、今回のアンケートに答えながら思いました。（女性／30代）
- 地震が起きた際に避難場所までの交通手段を確保できない場合、そのための対策などを常に発信して欲しい。また商店等の協力を事前に求め、町ぐるみで助け合えるようその町ごとの商店等の防災対策、訓練や連携等が必要だと思う。（女性／30代）
- 3.11の大震災では、人畜の動物達の保護やケアや家族と一緒に避難したり、餌を確保したりなどは、すべてNPOや善意の民間人が奔走しました。牛などの経済動物については飼主それぞれの考えがあると思いますが、ペットについては誰にとっても家族です。行政は、ペットの事も人間と同等に考えて下さい。決して被災地に置き去りにさせるような事のないように。（女性／30代）
- 何でも行政に任せてしまえばいいという考えの人が多い世の中だが、公務員の人員削減や予算の削減等の影響で行政におんぶに抱っこという発想ではまわっていかないと。限界集落のような所では無理かもしれないが、地域によってはまだまだ動ける退職後の人材が多くなりつつあるので、そういう方々を中心に町内会組織を最大限活用するような方向での責任の分散、また理解を深めるための教育を・・・現在は家庭婦人のための防火クラブがあるが、消防団ではないレベルの男性たちの防災組織も必要ではないかと思う。（男性／40代）
- 2年前、静岡県中部から引っ越してきました。東海地震に備えての地域自主防災組織、避難場所としての公園の整備、建物の耐震性、頻繁にある避難訓練等、防災意識の高い所で育った者としては、群馬の防災状況は甘すぎて非常に不安です・・・各個人の防災意識をもっと高めるよう、地域での取り組みが必要に感じます。（女性／40代）

- 群馬は地盤が固いから地震が来ないという誤った認識を持つてる人が非常に多く感じます。まずは群馬県にも大地震が来る可能性があることや活断層があることを周知し、東日本大震災で地震に対する意識が高い今こそ、まずは県民に地震に対する危機感を持ってもらう必要があると思います(女性／40代)
- 予算をどれくらいかければ良いのか、実際に起こるかかわからないことに対しての判断は難しいけれど、未来の子供たちが普段生活している学校などには、予算をかけ耐震化を実現してほしい。また大川小などの悲劇がないよう、徹底した避難ルートの周知などを行って欲しい。(女性／40代)
- 混乱を避けるため正確な情報の発信。最終的には地域で対応するしかないと思いますので地域組織の強化が必要だと思います。行政においても個人であり家族もいると思いますので行政だけに頼るのではなく地域ごとに組織化することが重要と考えます。(男性／40代)
- どれほど強固な施設を作ったとしても、自然の力の前には「絶対安全」な物などありえない。だから、被災した際の避難場所やルートの確保、地域へ分散する形での緊急物資の備蓄など、被災した後に住民の命を守るための方策に重点を置いてほしい。(女性／40代)
- パンフレットやコピーしたものを束ねたようなものでいいので、避難場所や避難の手順、連絡先や問い合わせ先などを記入したものと、ある程度自分がとらなければならない行動などが予測できるので、いざという時に慌てずにすむと思う。(女性／40代)
- これまでの災害や、東日本大震災等を見ても、避難所の形態が“健常者”に限った前提での設営で、身体機能の限定的となった高齢者や障害者に対応、配慮した形態になっていない。例・体育館の床にマットなどを敷いて直に座ったり、横になったり等。トイレなども、和式のみだと、使用できない。非常時に“糞溺”を言っていると思われるが、出来ないものは平時だろうと非常時だろうと、残念ながら“出来ない”。避難所の設営の形態に、そう言った面での視点・対応もぜひ取り入れて貰いたい。(女性／50代)
- 計画停電時もそうでしたが、宣伝カーでお知らせしてくれるのはいいが、家の中にいると窓を開けないと聞こえない。また、告知カーが走るのは幹線道路のみなので、できるだけ幅広く伝える方法を考えないと情報が伝わらない人々が大勢いると思います。私自身は普段からネットやTV等の迅速な対応に慣れています、多くの高齢者はアナログ的な行動をとられると思うので、一方向で考えずに、あらゆる手段での伝達方法をとれるよう今から準備が必要ではないかと思います。(女性／50代)
- 高齢者や乳幼児の保護を優先的に、怪我人の救護は軽症であれば若人などが積極的に協力し、手当ての必要な患者には医師が十分に当たれるよう、災害がなくても分担や訓練を積み重ね災害時に順応できるようにしていただけたらパニックも小さくなるでしょう。自分の住んでいる各地域に責任者が居て年に3回とかでいいです。都内だけでなく、各地域の模擬訓練の実施をしたらと思います。(女性／50代)
- 山村地で高齢者も多く、日中は若い人はほとんど村外に仕事に行っており避難場所に行くのも困難な人も多いと思います。そのため情報の伝達、収集手段の確保と地域住民の相互救助、また避難道路の整備、いざという時の迂回道路の整備も考えて欲しいと思います。(女性／50代)
- 個人情報守秘義務のおかげで、独居である高齢者、空き家などがわかりにくくなっています。いざというときに困るので、対応、解決方法の検討を早くお願いします。民生委員さんも高齢、ほかに協力委員などを明確にしてほしいです。(女性／50代)
- 平時には忘れがちで対応や対策も後回しになりやすいと思う。それだけに平日頃から強い意識を保っていないといけないと思うので、行政は、周知・啓発を怠らず、さらには対策に対する恒常的な予算を計上し続けて対応や対策の充実をはかって欲しい。(男性／50代)
- 群馬県は大地震が発生する事は無いと多くの人が思っていますし、自治体・議会も深刻な問題意識を持っていないと思います。しかし、地球規模の時間で群馬県を見れば、多くの断層が有るし、いつ大規模な地殻の変動が起きても不思議では無いと思います。赤城山や榛名山が再噴火する事も有るでしょう。有史以前の地球の歴史事実を目を向けるような感覚で今後の対応を検討していただきたい。(男性／60代)
- “予告なしに発生する災害”地球規模で発生しうる災害時にはパニックになり、誰もが人の事ならず普段考えている事が不可能になるので、先ず各々が身の安全の確保と、“災害時に被害を免れる可能性の高い”地域に公の建造物を設け被災時は自主的にそこへ集合しうる申し合わせを徹底する事を望む。”災害者は別として、己の安全は己で守るような努力が必要”(男性／60代)
- 近隣のけが人など地震直後の直接的な対応は地域が協力することが必要。行政は、そのための事前対策や不特定の人々のために水などの備蓄をするなど、大局的に措置を講じるのがよいだろう。昨年の地震で、西毛では瓦屋根の被害が多かったの、これを減らすことも考えてほしい。おそらく、地震では群馬はそれほど大きな災害はないだろうと思っはいるが。(男性／60代)
- 3/1の地震はもう、人ごとではないと思う。自分たちにも起こる事である。最近の地震の多さはその前触れの様な気がする。無駄に騒がず日々私達も災害に対しての食料の備蓄、緊急時の持ち出しもの用意しておきたいと思っている。行政もきちんと色々な事を想定して対処して欲しい。(女性／60代)
- 狭い国なので、土地の確保は大変でしょうが、火災の時の延焼を防ぐためにも、一軒ごとの間を空ける、区画ごとの間を空ける。水道や都市ガスも区画ごとに、細かくバルブを付け修理や復旧が早く進むような配管をする等、これからの住まいの環境作りが急務だと思います。(男性／60代)

参考資料1 調査画面

群馬県における地震災害に関する意識調査

【調査の趣旨】

現在、群馬県では県内に大きな影響を及ぼす可能性の高い地震に対し、その地震が発生した際に、県内各地における被害状況を予測するための地震被害想定調査を実施しています。

この被害想定調査の一環として、県民の方に対して、大地震発生時または事前における防災行動状況等についてアンケート調査を実施させていただきます。

このアンケート調査結果につきましては、今後の県の地震防災のあり方や県民の方々による防災対策に役立てるための基礎的な資料とさせていただきますので、ご協力をお願いいたします。

平成24年2月 群馬県

1 あなたご自身のことについて

SC1 あなたの性別・年代を教えてください。

[必須]

- ☐ 男性 20代以下
- ☐ 女性 20代以下
- ☐ 男性 30代
- ☐ 女性 30代
- ☐ 男性 40代
- ☐ 女性 40代
- ☐ 男性 50代
- ☐ 女性 50代
- ☐ 男性 60代以上
- ☐ 女性 60代以上

Q1 あなたが現在お住まいの都道府県を教えてください。

[必須]

- ☐ 1. 群馬県
- ☐ 2. 群馬県以外

Q1-1 あなたのお住まいの市町村を教えてください。

[必須]

- | 《中部地域》 | 《西部地域》 | 《吾妻地域》 | 《利根沼田地域》 | 《東部地域》 |
|-------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|
| ☐ 1. 前橋市 | ☐ 7. 高崎市 | ☐ 16. 中之条町 | ☐ 22. 沼田市 | ☐ 27. 桐生市 |
| ☐ 2. 伊勢崎市 | ☐ 8. 藤岡市 | ☐ 17. 長野原町 | ☐ 23. 片品村 | ☐ 28. 太田市 |
| ☐ 3. 渋川市 | ☐ 9. 富岡市 | ☐ 18. 嬬恋村 | ☐ 24. 川場村 | ☐ 29. 館林市 |
| ☐ 4. 榛東村 | ☐ 10. 安中市 | ☐ 19. 草津町 | ☐ 25. 昭和村 | ☐ 30. みどり市 |
| ☐ 5. 吉岡町 | ☐ 11. 上野村 | ☐ 20. 高山村 | ☐ 26. みなかみ町 | ☐ 31. 板倉町 |
| ☐ 6. 玉村町 | ☐ 12. 神流町 | ☐ 21. 東吾妻町 | | ☐ 32. 明和町 |
| | ☐ 13. 下仁田町 | | | ☐ 33. 千代田町 |
| | ☐ 14. 南牧村 | | | ☐ 34. 大泉町 |
| | ☐ 15. 甘楽町 | | | ☐ 35. 邑楽町 |

Q2 あなたの職業は、次のどれにあたりますか。

[必須]

- ☐ 1. 勤め(全日)
- ☐ 2. 勤め(パートタイム)
- ☐ 3. 学生
- ☐ 4. 自営業主
- ☐ 5. 家族従業(家事手伝い)
- ☐ 6. 専業主婦(主夫)
- ☐ 7. 無職

Q2-1 あなたの勤務先または通学先の所在地を教えてください。

[必須]

県内

《中部地域》 《西部地域》 《吾妻地域》 《利根沼田地域》 《東部地域》

- | | | | | | |
|-----------|------------|------------|-------------|------------|------------|
| ● 1. 前橋市 | ● 7. 高崎市 | ● 16. 中之条町 | ● 22. 沼田市 | ● 27. 桐生市 | ● 36. 埼玉県 |
| ● 2. 伊勢崎市 | ● 8. 藤岡市 | ● 17. 長野原町 | ● 23. 片品村 | ● 28. 太田市 | ● 37. 東京都 |
| ● 3. 渋川市 | ● 9. 富岡市 | ● 18. 嬬恋村 | ● 24. 川場村 | ● 29. 館林市 | ● 38. 千葉県 |
| ● 4. 榛東村 | ● 10. 安中市 | ● 19. 草津町 | ● 25. 昭和村 | ● 30. みどり市 | ● 39. 神奈川県 |
| ● 5. 吉岡町 | ● 11. 上野村 | ● 20. 高山村 | ● 26. みなかみ町 | ● 31. 板倉町 | ● 40. 栃木県 |
| ● 6. 玉村町 | ● 12. 神流町 | ● 21. 東吾妻町 | | ● 32. 明和町 | ● 41. 茨城県 |
| | ● 13. 下仁田町 | | | ● 33. 千代田町 | ● 42. 新潟県 |
| | ● 14. 南牧村 | | | ● 34. 大泉町 | ● 43. 長野県 |
| | ● 15. 甘楽町 | | | ● 35. 邑楽町 | ● 44. 福島県 |

● 45. その他(具体的に:)

Q3 あなたの家族構成について教えてください。現在、一緒に暮らしているご家族は、あなたを含め何人いますか。

[必須]

- 1人(ひとり暮らし)
- 2人
- 3人
- 4人
- 5人
- 6人
- 7人
- 8人
- 9人
- 10人以上

Q4 ご自身を含めて、あなたのご家族の中に、次に該当する方はいますか。(あてはまるものすべて選択)

[必須]

- ☐ 1. 乳幼児(小学校就学までの方)
- ☐ 2. 高齢者(満65歳以上の方)
- ☐ 3. 病気・怪我・身体障害等で介護等を必要とされている方
- ☐ 4. 該当者はいない

2 東日本大震災について

Q5 平成23年3月11日に東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)が発生した直後から約1ヶ月の間で、何か困ったことはありましたか。(あてはまるものすべて選択)

[必須]

- ☐ 1. 自宅等の被災に伴う後片付けや手続き・対応(り災証明、地震保険・共済など)
- ☐ 2. 各種情報の入手
- ☐ 3. 被災地域への連絡(電話の不通等)
- ☐ 4. ガソリンの不足
- ☐ 5. バス・鉄道の運行停止
- ☐ 6. 食料品・水の調達
- ☐ 7. 日用品の調達
- ☐ 8. 余震による不安
- ☐ 9. 放射線による不安
- ☐ 10. 「計画停電」による停電
- ☐ 11. その他(具体的に:)
- ☐ 12. 特に困ったことはなかった

Q6 東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)の発生直後から約1ヶ月の間で、最もほしかった情報は何か。(3つまで選択) [必須]

- ☐ 1. 県内の被害情報
- ☐ 2. 安否情報(家族・知人など)
- ☐ 3. 交通情報(道路・鉄道)
- ☐ 4. 給油情報(ガソリン)
- ☐ 5. 給水情報
- ☐ 6. 電気・水道・ガスの情報
- ☐ 7. 医療機関の情報
- ☐ 8. 各種支援制度の情報
- ☐ 9. 原子力発電所や放射線の情報
- ☐ 10. とくに必要なかった
- ☐ 11. その他(具体的に:)

以下の質問中での「大地震」とは、「立っていることが困難な地震(震度6弱)」や「立っていることができず、はわないと動くことができないほどの地震(震度6強、震度7)」を念頭に、回答してください。

3 大地震への不安について

Q7 あなたは、お住まいの地域で大地震にあうかもしれないという不安を感じることがありますか。 [必須]

- ☐ 1. 非常に不安を感じる
- ☐ 2. 少し不安を感じる
- ☐ 3. あまり不安を感じない
- ☐ 4. 全く不安を感じない
- ☐ 5. わからない

Q8. あなたの住んでいる地域で大地震が発生した場合、どのようなことが心配ですか。
被害そのものについて、発生後の行動や生活について、それぞれお答えください。

Q8-1 発生することが心配な被害は何ですか。(あてはまるものすべて選択) [必須]

- | | |
|--|---|
| ☐ 1. 自分が命を落としたり負傷すること | ☐ 10. ダム・ため池の決壊 |
| ☐ 2. 家族や知人等が命を落としたり負傷すること | ☐ 11. 道路被害や土砂くずれ等による集落の孤立化 |
| ☐ 3. タンス・冷蔵庫などの家具類の転倒 | ☐ 12. 火山活動の活発化 |
| ☐ 4. 建物からの壁、窓ガラス、瓦の落下 | ☐ 13. 道路や鉄道施設の被害 |
| ☐ 5. 建物や塀の倒壊 | ☐ 14. 電話などの通信施設の被害 |
| ☐ 6. 火災の発生 | ☐ 15. 電気・水道・ガス施設の被害 |
| ☐ 7. ガスなどの危険物の爆発 | ☐ 16. その他(具体的に: <input type="text"/>) |
| ☐ 8. 地盤の液状化現象 | ☐ 17. 心配なことはない |
| ☐ 9. 土砂くずれ・がけくずれ | ☐ 18. わからない |

Q8-2 大地震発生後の行動や生活における心配事は何ですか。(あてはまるものすべて選択)

[必須]

- ☐ 1. 自分の安全の確保
- ☐ 2. 家族の安否確認
- ☐ 3. 近くに避難場所がない
- ☐ 4. 避難場所がわからない
- ☐ 5. 避難行動に自信がない
- ☐ 6. けがや病気の場合の医療体制
- ☐ 7. 火災などが同時多発したときの消防等の不足
- ☐ 8. 自主防災組織^{※1}の能力
- ☐ 9. 災害時要援護者^{※2}への支援体制
- ☐ 10. 道路の通行不能や鉄道機関の停止・混乱
- ☐ 11. 電話などの通信機能の混乱
- ☐ 12. 電気、水道、ガスの供給停止
- ☐ 13. 日用品の不足
- ☐ 14. 食料や飲料水の不足
- ☐ 15. ガソリンや灯油などの不足
- ☐ 16. トイレの不足
- ☐ 17. ペットのケア
- ☐ 18. その他(具体的に:)
- ☐ 19. 心配なことはない
- ☐ 20. わからない

※1:自主防災組織とは、主に町内会・自治会が母体となって地域住民が自主的に連帯して防災活動を行う任意団体のことをいいます。

※2:災害時要援護者として、一般的に高齢者、障害者、外国人、乳幼児、妊婦等があげられます。
災害時に、必要な情報を迅速かつ的確に把握し、災害から自らを守るために安全な場所に避難するなどの一連の行動をとるのに支援を要する人々のことをいいます。

4 日ごろの防災対策について

Q9 お宅では、地震や地震による火災が起こったときのために、日ごろから、どのような備えをしていますか。(あてはまるものすべて選択)

[必須]

- ☐ 1. 家族との連絡方法の確認
- ☐ 2. 避難場所の確認
- ☐ 3. 水や食料
- ☐ 4. 非常用の救急医療品
- ☐ 5. 携帯用ラジオ
- ☐ 6. 懐中電灯
- ☐ 7. 貴重品(預金通帳、現金など)の持ち出し準備
- ☐ 8. 耐火金庫に貴重品などを保管
- ☐ 9. 住宅用火災警報器の設置
- ☐ 10. 消火器や消火用バケツ
- ☐ 11. 風呂の水のため置き
- ☐ 12. 住宅の耐震度チェック(耐震診断)や補強工事
- ☐ 13. 家具などの転倒防止
- ☐ 14. 窓ガラスの飛散防止フィルムの貼り付け
- ☐ 15. ブロック塀の点検や倒壊防止
- ☐ 16. 避難経路の確認
- ☐ 17. その他(具体的に:)
- ☐ 18. 具体的な備えはしていない

Q10 災害時における、家族・親類や知人等との連絡方法として、何を使おうと考えていますか。(あてはまるものすべて選択)

[必須]

- ☐ 1. 災害用伝言ダイヤル「171」
- ☐ 2. 災害用ブロードバンド伝言板「web171」
- ☐ 3. 携帯電話の災害用伝言板サービス
- ☐ 4. 携帯電話の一般通話
- ☐ 5. 携帯電話のメール
- ☐ 6. 携帯電話以外の電子メール
- ☐ 7. 固定電話(家庭、会社等)
- ☐ 8. 公衆電話
- ☐ 9. ツイッター、フェイスブック等のソーシャルネットワーキングサービス
- ☐ 10. その他(具体的に:)
- ☐ 11. とくに考えていない
- ☐ 12. わからない

Q11 あなたのお宅では、非常持ち出し用として(家族を含め)何日分の食料を用意していますか。

[必須]

- 1日分
- 2日分
- 3日分
- 4日分
- 5日分
- 6日分
- 7日(1週間)分以上
- 用意していない

Q12 あなたのお宅では、何日分の飲料水を備蓄していますか。ご家族ひとり1日あたり3リットルで計算してください。

[必須]

- 1日分
- 2日分
- 3日分
- 4日分
- 5日分
- 6日分
- 7日(1週間)分以上
- 用意していない

Q13 あなたのお宅では、地震による建物の被害を補償する保険又は共済に加入していますか。

※一般の火災保険(共済)では、地震による建物の火災・倒壊は補償されません。地震による建物の被害を補償する保険・共済制度として、損害保険会社が政府の支援の下で運営する地震保険や、建物更正共済などがあります。

[必須]

- 1. 加入している
- 2. 加入を検討している
- 3. 加入していないし、検討もしていない
- 4. わからない(賃貸住宅含む)

Q14 次の1～13の項目について、「はい」又は「いいえ」をお選びください。

【必須】

		はい	いいえ
1. 地震防災に関するパンフレットを読んだことがある	→	☐	☐
2. 地震防災のビデオやDVD等を見たことがある	→	☐	☐
3. 地震防災に関する講演会等に参加したことがある	→	☐	☐
4. いざ火災が発生した場合、消火器を使うことができる	→	☐	☐
5. AED(自動体外式除細動器)を使ったことがある	→	☐	☐
6. 地域内の消火のための水利(いざというときに利用する水源・消火栓等)を知っている	→	☐	☐
7. 高齢者など災害時に援護が必要な人が近所にいるかを知っている	→	☐	☐
8. 高さ5m以上の急ながけが近所にあるかないかを知っている	→	☐	☐
9. 住んでいる地域での過去の災害や今後災害が起こる可能性を調べたことがある	→	☐	☐
10. 災害用伝言ダイヤル「171」を知っている	→	☐	☐
11. 災害用伝言ダイヤル「171」を使ったことがある	→	☐	☐
12. 地域の防災倉庫がある場所を知っている	→	☐	☐
13. 疎開※先として、比較的遠方に頼れる親戚や知人がいる	→	☐	☐
		はい	いいえ

※疎開: 災害によって被害が発生したときに、一時的に被害を受けていない(又は被害の小さかった)地域に移り住むこと。

5 住宅の地震対策について

Q15 お住まいの住居は、いつ頃建てられましたか。

※増築(補修・補強を含む)を行っている場合は、当初建築された年代を選択してください。

※改築(建替)を行った場合は、改築(建替)後の年代を選択してください。

【必須】

- ☐ 1. 1981年(昭和56年)以前 [築30年以上]
- ☐ 2. 1982年(昭和57年)以降 [築30年未満]
- ☐ 3. わからない

Q16 あなたのお住まいの構造は、次のどれにあたりますか。

【必須】

- ☐ 1. 木造住宅
- ☐ 2. 鉄骨造住宅
- ☐ 3. 鉄筋コンクリート造住宅
- ☐ 4. その他(具体的に:)
- ☐ 5. わからない

Q17 あなたのお住まいの形態をお答えください。

[必須]

- ☐ 1. 自己又は親族の持ち家(一戸建)
- ☐ 2. 自己又は親族の持ち家(一戸建以外)
- ☐ 3. 賃貸住宅(一戸建)
- ☐ 4. 賃貸住宅(一戸建以外)
- ☐ 5. その他(具体的に:)

Q18 あなたのお宅は、耐震診断^{*}を受けましたか。

[必須]

- ☐ 1. 受けた
- ☐ 2. 今後受ける予定である
- ☐ 3. 受けていないし、予定もない
- ☐ 4. わからない

※耐震診断…旧耐震建築物(昭和56年以前の建築物)について、地震に対する安全性を評価すること。

Q18-1 耐震診断を受けたとき、市町村による補助制度を使いましたか。

[必須]

- ☐ 1. 使った
- ☐ 2. 使っていない
- ☐ 3. わからない

Q18-2 耐震診断に対する補助制度を使っていない主な理由を教えてください。

[必須]

- ☐ 1. 補助制度がなかったから
- ☐ 2. 補助制度を知らなかったから
- ☐ 3. 手続きが面倒そうだったから
- ☐ 4. どこに相談していいのかわからなかったから
- ☐ 5. その他(具体的に:)

Q18-3 耐震診断を受けない主な理由を教えてください。

[必須]

- ☐ 1. 住んでいる家は安全につくってあり必要だと思わないから
- ☐ 2. 経過年数や構造から見て、強度が不足していることがはっきりしているから
- ☐ 3. 診断方法がわからないから
- ☐ 4. 手間がかかるから
- ☐ 5. 費用がかかるから
- ☐ 6. 信用できる業者が分からないから(どこに頼めば良いかわからない)
- ☐ 7. 診断しても大地震の被害は避けられないと思うから
- ☐ 8. 大地震が起こるとは思わないから
- ☐ 9. 耐震改修済みだから
- ☐ 10. わからない
- ☐ 11. その他(具体的に:)

Q18-4 耐震診断を無料(ただし、耐震診断士に支払う交通費が1,000～2,000円程度必要となります)で受けることができるとしたら、あなたは耐震診断を受けようと思いますか。

[必須]

-
- ☐ 1. 受けようと思う
 - ☐ 2. 受けようとは思わない
 - ☐ 3. わからない

Q19 あなたのお住まいの建物は、耐震補強を行いましたか。

[必須]

-
- ☐ 1. 耐震補強を行った
 - ☐ 2. 耐震補強は行っていない
 - ☐ 3. わからない

Q19-1 耐震補強を実施したとき、市町村による補助制度を使用しましたか。

[必須]

-
- ☐ 1. 使った
 - ☐ 2. 使っていない
 - ☐ 3. わからない

Q19-2 耐震補強に対する補助制度を使っていない主な理由を教えてください。

[必須]

-
- ☐ 1. 補助制度がなかったから
 - ☐ 2. 補助制度を知らなかったから
 - ☐ 3. 手続きが面倒そうだったから
 - ☐ 4. どこに相談していいのか分からなかったから
 - ☐ 5. その他(具体的に:)

Q19-3 耐震補強を実施しないのはなぜですか。(あてはまるものすべて選択)

[必須]

-
- ☐ 1. 手間がかかるから
 - ☐ 2. 費用がかかるから
 - ☐ 3. 工事をどこに頼んだら良いのかわからないから
 - ☐ 4. 補強しても大地震の被害は避けられないと思うから
 - ☐ 5. 耐震診断の結果、耐震補強は必要ないことがわかったから
 - ☐ 6. その他(具体的に:)

Q20 今後5年以内に、耐震補強を実施する予定がありますか。

[必須]

-
- ☐ 1. 実施する予定がある
 - ☐ 2. 実施する予定はない
 - ☐ 3. わからない

Q21 耐震補強の費用(自己負担額)について、どの程度の金額であれば耐震補強を実施しますか。

[必須]

- ☐ 1. 50万円未満
- ☐ 2. 50万～100万円未満
- ☐ 3. 100万～150万円未満
- ☐ 4. 150万～200万円未満
- ☐ 5. 200万円以上
- ☐ 6. わからない
- ☐ 7. お金をかけるつもりはない

Q22 あなたのお住まいの建物は、過去10年間でリフォームをしましたか。

[必須]

- ☐ 1. 実施した
- ☐ 2. 実施していない
- ☐ 3. わからない

Q22-1 リフォームと同時に耐震補強を実施しましたか。

[必須]

- ☐ 1. 同時に実施した
- ☐ 2. 別々に実施した
- ☐ 3. 耐震補強は実施していない

Q22-2 リフォームの工事費を教えてください。

[必須]

- ☐ 1. 50万円未満
- ☐ 2. 50万～100万円未満
- ☐ 3. 100万～150万円未満
- ☐ 4. 150万～200万円未満
- ☐ 5. 200万円以上
- ☐ 6. わからない

6 家具類の固定について

Q23 あなたのお宅では、地震に備えてタンス、本棚、食器棚などの収納家具や、冷蔵庫、テレビなどの家電品、その他の重量物の固定をしていますか。

[必須]

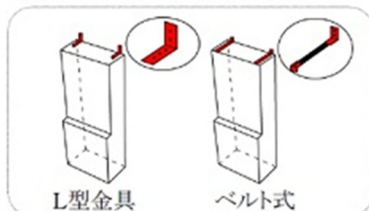
- ☐ 1. 大部分固定している
- ☐ 2. 一部固定している
- ☐ 3. 固定していない

Q23-1 1～18の家具・家電等について、それぞれの固定状況を教えてください。

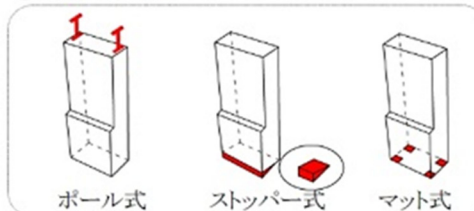
ただし、造り付けの家具は除きます。固定の方法を図①～④に例示していますが、これ以外の方法も含め、どのような方法でも構いません。 [必須]

《家具の固定方法の例》

①しっかりした固定



②簡易な固定



《家電品の固定方法の例》

③しっかりした固定



④簡易な固定



		しっかりした 固定	簡易な 固定	固定して いない	対象の家具・ 家電等がない
1. 居間のダンス	→	○	○	○	○
2. 居間の本棚	→	○	○	○	○
3. 寝室のダンス	→	○	○	○	○
4. 寝室の本棚	→	○	○	○	○
5. 食器棚	→	○	○	○	○
6. その他収納家具	→	○	○	○	○
7. ピアノ類	→	○	○	○	○
8. オーディオ類	→	○	○	○	○
9. 電話・FAX	→	○	○	○	○
		しっかりした 固定	簡易な 固定	固定して いない	対象の家具・ 家電等がない
10. テレビ	→	○	○	○	○
11. エアコン	→	○	○	○	○
12. エアコンの室外機	→	○	○	○	○
13. 冷蔵庫	→	○	○	○	○
14. 電子レンジ・オープン	→	○	○	○	○
15. パソコン・プリンター	→	○	○	○	○
16. 水槽・飼育ケースなど	→	○	○	○	○
17. 絵画・つば・花瓶など	→	○	○	○	○
18. その他※	→	○	○	○	○
		しっかりした 固定	簡易な 固定	固定して いない	対象の家具・ 家電等がない

Q23-1-1 上記 18.その他* で「しっかりした固定」「簡易な固定」のいずれかを選択した方は、その家具を具体的に記載してください。

18.その他*

Q23-2 家具の固定を行わない理由を教えてください。(あてはまるものすべて選択)

[必須]

- ☐ 1. 固定のしかたがわからないから
- ☐ 2. 固定方法がわかって、自分にはできないと思うから
- ☐ 3. 部屋の見た目が悪くなるから
- ☐ 4. 家具等や壁に傷をつけるから
- ☐ 5. 面倒くさいから
- ☐ 6. お金がかかるから
- ☐ 7. 大きい家具・家電等や、背の高い家具・家電等はないから
- ☐ 8. 地震が起きても転倒しないと思うから
- ☐ 9. 転倒しても危険ではないと思うから
- ☐ 10. 固定しても大地震の時には効果がないと思うから
- ☐ 11. 賃貸住宅だから
- ☐ 12. その他(具体的に:)
- ☐ 13. 特に理由はない、考えたことがない
- ☐ 14. わからない

7 ブロック塀等の対策について

Q24 あなたのお宅には、道路に面している塀等(高さ1m以上)はありますか。

[必須]

- ☐ 1. ある
- ☐ 2. ない

Q24-1 その塀の種類を教えてください。

[必須]

- ☐ 1. ブロック塀
- ☐ 2. 石塀
- ☐ 3. コンクリート塀
- ☐ 4. 万年塀
- ☐ 5. フェンス(柵)
- ☐ 6. 生け垣
- ☐ 7. その他(具体的に:)

1. ブロック塀	2. 石塀	3. コンクリート塀	4. 万年塀	5. フェンス(柵)
コンクリートやレンガなどの人工的なブロックを積み重ねて構成される塀	自然石を積み重ねて構成される塀	コンクリートを用いて一体的な壁を構成している塀(タイル、塗装等で表面を化粧したものを含む)	コンクリート板と支柱による組み立て式の塀	支柱と鉄製網または横木等で構成される仕切り
				

Q24-2 お宅では、今後ブロック塀や石塀などを補強したり生け垣などに変える予定はありますか。

[必須]

-
- 1. すでに補強した・変えた
 - 2. 補強する予定又は変える予定がある
 - 3. 補強する予定も変える予定もない
 - 4. 検討中
 - 5. わからない

8 地域との関わり合いや地域協力について

Q25 あなたと近隣の人とのお付き合いとして、最も近いものは次のどれですか。

[必須]

-
- 1. 家族のように親しく付き合っている
 - 2. 一緒に出かけたり食事をしたりする
 - 3. 立ち話などをする程度
 - 4. 出会ったときに挨拶する程度
 - 5. お互いほとんど会話はしない

Q26 あなたのお住まいの地域に自主防災組織*はありますか。

[必須]

-
- 1. ある
 - 2. ない
 - 3. 知らない

※自主防災組織とは、主に町内会・自治会が母体となって地域住民が自主的に連帯して防災活動を行う任意団体のことをいいます。

Q27 町内会や自治会、自主防災組織などにおいて住民の自主的な防災訓練などが行われていることがあります。あなたは、このような活動に参加したことがありますか。

[必須]

-
- 1. いつも参加している
 - 2. 以前、参加したことがある
 - 3. 防災訓練などは行われているが、参加したことはない
 - 4. 防災訓練などは行われていない
 - 5. 防災訓練などが行われているのか知らない

Q27-1 あなたはどのような防災訓練などに参加したことがありますか。(あてはまるものすべて選択)

[必須]

-
- ☐ 1. 消火訓練
 - ☐ 2. 避難訓練
 - ☐ 3. 情報伝達訓練
 - ☐ 4. 負傷者の救出訓練
 - ☐ 5. 救護訓練
 - ☐ 6. 避難所宿泊体験訓練
 - ☐ 7. 炊き出し訓練
 - ☐ 8. 図上訓練
 - ☐ 9. 地域内の危険箇所の点検
 - ☐ 10. その他(具体的に:)

Q28 大地震が起きたときには、避難や消火、救助などで隣近所の助け合いや協力が必要となることが考えられます。大地震の後、あなたがケガをしていなかった場合、次のようなことについて助け合いや協力ができそうですか。
(あてはまるものすべて選択)

[必須]

- ☐ 1. 病人、高齢者の避難の手助け
- ☐ 2. 乳幼児の避難の手助け
- ☐ 3. 外国人の避難の手助け
- ☐ 4. 火災が発生した時の初期消火
- ☐ 5. 負傷者(下敷きになった人など)の救出
- ☐ 6. 負傷者の救護(応急手当など)
- ☐ 7. 負傷者の搬送
- ☐ 8. 何もできそうにない
- ☐ 9. その他(具体的に:)

9 大地震が起きたときの行動について

Q29 あなたは、お持ちの携帯電話で、緊急地震速報*を受信できるようにしていますか。

[必須]

- ☐ 1. している
- ☐ 2. していない
- ☐ 3. 対応していない機種である
- ☐ 4. 携帯電話を持っていない

※緊急地震速報は、地震で大きな揺れが来る前に、テレビやラジオ、携帯電話などで地震の到達時刻や震度を知らせる予報・警報です。ただし、地震予知ではなく地震が起きた後の情報であるので、強い揺れの到達に間に合わないことがあります。

Q30 あなたは、最近、テレビや携帯電話等で緊急地震速報を見聞きした際に、どのような行動をとりましたか。
(あてはまるものすべて選択)

[必須]

- ☐ 1. 屋内にいて、机の下など安全な場所に避難した
- ☐ 2. 屋内にいて、倒れそうな家具などから離れた
- ☐ 3. 屋内にいて、火元を消した
- ☐ 4. 屋内にいて、外に飛び出した
- ☐ 5. 屋内にいて、家族や周りの人に伝えた
- ☐ 6. 屋内にいて、テレビをつけた
- ☐ 7. 屋内にいて、何もできなかった
- ☐ 8. 屋外にいて、ビル等の安全な建物に避難した
- ☐ 9. 屋外にいて、何もできなかった
- ☐ 10. 自動車運転中で、急ブレーキをかけた
- ☐ 11. 自動車運転中で、道路の左側に停止した
- ☐ 12. 自動車運転中で、何もできなかった
- ☐ 13. 見聞きしたことがない
- ☐ 14. その他(具体的に:)

Q31 大地震が発生した直後、どのような状況になったら避難しますか。

[必須]

- ☐ 1. 大地震が発生したら、とにかく避難する
- ☐ 2. 市町村から避難勧告・指示があったら避難する
- ☐ 3. 自宅に被害が無くても、電気、ガス、水道等が使えなくなったら避難する
- ☐ 4. 自宅に被害が無くても、近所で火災が発生し、自宅まで延焼する可能性があったら避難する
- ☐ 5. 自宅が半壊*1したら避難する
- ☐ 6. 自宅が全壊*2したら避難する
- ☐ 7. その他(具体的に:)
- ☐ 8. わからない

※1:半壊とは、この調査では、「住宅に被害はあったが、無事な部屋が残っている場合」と考えてください。
住家の損壊が甚だしいが、補修すれば元通りに再使用できる程度のもので、具体的には、損壊部分とその住家の延床面積の20%以上70%未満のものなどを指します。

※2:全壊とは、この調査では、「住宅にほとんど住めないような被害があった場合」と考えてください。
住家全部が倒壊、流出、埋没、焼失したもの、または住家の損壊が甚だしく、補修により元通りに再使用することが困難なもので、具体的には、住家の損壊、焼失若しくは流出した部分の床面積がその住家の延床面積の70%以上に達した程度のものなどを指します。

Q31-1 自宅が全壊又は半壊するまで避難しない理由を教えてください。(あてはまるものすべて選択)

[必須]

- ☐ 1. 自宅の方が住み慣れていて安心だから
- ☐ 2. 水や食料、燃料等を十分に備蓄しているから
- ☐ 3. 自宅は耐震性が高く、全半壊することはないと思うから
- ☐ 4. 避難先は遠いから
- ☐ 5. 避難先は混雑するなど、環境が悪いから
- ☐ 6. 家族(ご自身を含む)に高齢者や障害者、病人等がいるから
- ☐ 7. ペットを飼っているから
- ☐ 8. 防犯のため(自宅が窃盗などにあうことが心配)
- ☐ 9. 仕事上の必要から
- ☐ 10. その他(具体的に:)
- ☐ 11. 特に理由はない

Q32 仮に、大地震が発生した直後に避難する場合、どこに避難しようと思いますか。

[必須]

- ☐ 1. 指定された避難所(学校・公民館など)
- ☐ 2. 自動車(車内)
- ☐ 3. 親戚・知人宅
- ☐ 4. その他(具体的に:)
- ☐ 5. わからない

Q32-1 指定された避難所に避難しない理由を教えてください。(3つまで選択)

[必須]

- ☐ 1. 指定された避難所が遠すぎるから
- ☐ 2. 避難所へ行く途中の道に危険なところがあるから
- ☐ 3. 避難の際、住民の間でパニックなどの混乱が予想されるから
- ☐ 4. 指定された避難所が安全だとは思わないから
- ☐ 5. どこが避難所なのか知らないから
- ☐ 6. 自主防災組織*などの避難誘導体制が不十分であるから
- ☐ 7. 家族(ご自身を含む)に高齢者や障害者、病人等がいるから
- ☐ 8. 避難所ではプライバシーが守れないから
- ☐ 9. 衛生面で心配だから
- ☐ 10. 精神的・肉体的な疲労・影響が大きと思うから
- ☐ 11. 特に理由はない
- ☐ 12. その他(具体的に:)

※自主防災組織とは、主に町内会・自治会が母体となって地域住民が自主的に連帯して防災活動を行う任意団体のことをいいます。

Q33 避難所において、最も充実してほしいことを教えてください。(3つまで選択)

[必須]

- ☐ 1. 災害情報の提供
- ☐ 2. 救援情報の提供
- ☐ 3. 食料・飲料水の提供
- ☐ 4. 衣料・生活必需物資の提供
- ☐ 5. 災害時要援護者*への支援
- ☐ 6. プライバシーの確保
- ☐ 7. 傷病を治療する救護活動
- ☐ 8. 健康相談等の保健活動
- ☐ 9. 着替えや授乳場所の提供
- ☐ 10. トイレ
- ☐ 11. お風呂
- ☐ 12. ペットの預り
- ☐ 13. その他(具体的に:)

※災害時要援護者として、一般的に高齢者、障害者、外国人、乳幼児、妊婦等があげられます。

災害時に、必要な情報を迅速かつ的確に把握し、災害から自らを守るために安全な場所に避難するなどの一連の行動をとるのに支援を要する人々のことをいいます。

Q34 勤務・通学先、または(勤務・通学していない方は)買物等で最もよく行く場所までの交通手段を教えてください。なお、手段が複数の場合は、その利用距離が一番長いものを選んでください。

[必須]

- ☐ 1. 自動車
- ☐ 2. バイク
- ☐ 3. 自転車
- ☐ 4. 徒歩
- ☐ 5. 電車
- ☐ 6. バス
- ☐ 7. その他(具体的に:)

Q34-1 大地震が起こった場合には、鉄道・バス等の交通機関の運行停止や、主要道路での被害発生による通行不能が予想されます。勤務先(通学先)や外出先で大地震にあった場合、自宅へ帰ろうと思いますか。

[必須]

- ☐ 1. 徒歩で帰ろうと思う
- ☐ 2. 自転車やバイクを調達して帰ろうと思う
- ☐ 3. 車を自分で運転し、迂回するなど何とかして帰ろうと思う
- ☐ 4. 車に同乗させてもらうなどして帰ろうと思う
- ☐ 5. 勤務先(通学先)や外出先にとどまり、様子をみようと思う
- ☐ 6. その他(具体的に:)

Q35 勤務先(通学先)や外出先で大地震に遭い、徒歩での帰宅もできなくなったとしたら、あなたは、まずどのような情報を知りたいと思いますか。(5つまで選択)

[必須]

- ☐ 1. 自分がいる地域や職場の被害状況
- ☐ 2. 自宅周辺の被害状況
- ☐ 3. 自宅までの経路の被害状況
- ☐ 4. 最も被害が大きな地域の被害状況
- ☐ 5. 地震の規模や震源地、余震の情報
- ☐ 6. 家族や親戚・知人の安否
- ☐ 7. 交通機関の運行・復旧状況
- ☐ 8. ガスや水道・電気などライフラインの被害、復旧状況
- ☐ 9. 避難が必要かどうかの情報
- ☐ 10. 避難場所の情報
- ☐ 11. 水や食料の入手方法
- ☐ 12. 救出・救助活動の情報
- ☐ 13. 医療・救護活動の情報
- ☐ 14. ホテル等の宿泊施設の稼働と空き室情報
- ☐ 15. その他(具体的に:)
- ☐ 16. わからない

Q36 次の1.～8.の各防災対策は、だれが行うことが現実的かつ効果的だと思いますか。

1. および2.の【平時】は、ふだんの対策や活動であることを意味します。

【必須】

3.～8.の【災害時】は、地震による被害が発生した時の対策や活動であることを意味します。

		行政が対応	どちらかという と行政が 対応	どちらとも いえない	どちらか という住民や 地域で対応	住民や地域 で個々に対応
1.【平時】 水、食料、日用雑貨品を備蓄する	→	☐	☐	☐	☐	☐
2.【平時】 地域の中で災害の危険場所や避難 場所などに関する情報を周知させる	→	☐	☐	☐	☐	☐
3.【災害時】 避難すべきかどうかの判断をする	→	☐	☐	☐	☐	☐
4.【災害時】 地域住民の安否確認をする	→	☐	☐	☐	☐	☐
5.【災害時】 災害時要援護者※など一人で避難す ることが困難な方を支援する	→	☐	☐	☐	☐	☐
6.【災害時】 火災が発生した時に初期消火活動 を行う	→	☐	☐	☐	☐	☐
7.【災害時】 逃げ遅れた人の救出・救助活動をする	→	☐	☐	☐	☐	☐
8.【災害時】 避難所の運営を行う	→	☐	☐	☐	☐	☐
		行政が対応	どちらか という行政が 対応	どちらとも いえない	どちらか という住民や 地域で対応	住民や地域 で個々に対応

※ 災害時要援護者として、一般的に高齢者、障害者、外国人、乳幼児、妊婦等があげられます。

災害時に、必要な情報を迅速かつ的確に把握し、災害から自らを守るために安全な場所に避難するなどの一連の行動をとるのに支援を要する人々のことをいいます。

Q37 大規模災害に対する県民生活の安全性を確保するために自治体が行う取り組みとして、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで選択)

[必須]

- ☐ 1. 避難指示・勧告等を行う情報提供施設やシステムの整備
- ☐ 2. 食料や飲料水、医薬品などの備蓄物資の確保・充実
- ☐ 3. 公共施設や学校、住宅などの耐震化の推進
- ☐ 4. 水害や土砂災害等による被害を防止する施設の整備
- ☐ 5. 避難経路の確保や消防困難地区の解消
- ☐ 6. 地域における自主防災組織^{※1}の育成や防災訓練の実施
- ☐ 7. 高齢者や障害者などの災害時要援護者^{※2}の避難対策
- ☐ 8. その他(具体的に:)

※1:自主防災組織とは、主に町内会・自治会が母体となって地域住民が自主的に連帯して防災活動を行う任意団体のことをいいます。

※2:災害時要援護者として、一般的に高齢者、障害者、外国人、乳幼児、妊婦等があげられます。
災害時に、必要な情報を迅速かつ的確に把握し、災害から自らを守るために安全な場所に避難するなどの一連の行動をとるのに支援を要する人々のことをいいます。

Q38 最後に、行政(県、市町村)が実施する地震対策に関するご意見等ございましたら、ご記入ください。

参考資料２ アンケート調査の活用に関する留意点

１．ウェブアンケートの母集団代表性

昨今、住民基本台帳の利用制限、回収率の低下、プライバシー意識の高まり等の事情で、郵送や電話、訪問といった従来の手法でのアンケート調査実施環境が悪化しており、母集団代表性（ある集団〔母集団〕から、ある方法で抽出された一部の対象者に調査を行った場合、その調査結果が、母集団全体を調査した場合と同等の結果となっているかどうかの程度）が低下しつつあると言われている。

一方、インターネットによるアンケート調査（以下、「ウェブアンケート」と言う。）は対象者の確保や回収率の一定の保証ができ、比較的短い調査期間で回収が可能というメリットを持っており、多く利用されるようになってきている。現状インターネットの普及率も80%弱程度で、登録モニター数も全国的に多くなっており、比較的広範囲から集められた人たちに対して調査を実施できる環境が整っている。

しかしながら、ウェブアンケートの場合、回答者がパソコンを利用している人に限定され、さらに、アンケートに回答意向があるとして登録している人が対象となるため、調査対象者に偏りが生じると考えられ、母集団代表性に疑問が生じる。このような問題に対し、本多(2006)¹⁾は、「モニター型インターネット調査の回答者には学歴・職業など属性の偏りがあるほか、ランダムサンプルの回答者と比べて日本的雇用慣行に否定的、競争主義志向、能力・業績主義志向が強いといった価値観や意識面での違いもみられる」としたうえで、「ランダムサンプルにおいても回収率の問題があって代表性は万全なものではない以上、モニターだけが大きく偏っているとは断言できない」と指摘している。

２．回答者属性に関する既存調査との比較

一例として、本調査と既存調査（新総合計画〔＝第14次群馬県総合計画「はばたけ群馬プラン」〕策定時の調査）における回答者の属性を比較すると、次のとおりである。

■アンケート調査による回答者属性の比較

回答者の属性		本調査		群馬県新総合計画策定時の調査	
		ウエイトバック前	ウエイトバック後	県民選好度調査 ²⁾	県民アンケート調査 ³⁾
男女別	男性	43.3%	50.0%		50.4%
	女性	56.7%	50.0%		46.7%
	無回答・不明	—	—		2.9%
年齢別	20代以下	10.6%	17.9%	8.6%	10.7%
	30代	28.3%	17.7%	15.3%	13.5%
	40代	28.3%	15.8%	16.6%	15.2%
	50代	22.8%	16.0%	18.6%	17.8%
	60代以上	10.0%	32.7%	39.3%	42.5%
	無回答・不明	—	—	1.8%	0.3%

上表における「ウエイトバック後」の数値が、実際の県人口の男女別および年齢別の構成比に近いことを考えると、とくに年齢別で、本調査の「ウエイトバック前」は高齢者層の回答者が少なく、既存調査では高齢者の回答者がかなり多いことがわかる。したがって、必ずしも本調査に限った問題ではなく、程度の差こそあれ、アンケート調査における母集団代表性にある程度の問題が存在することを理解しておく必要がある。

今回は、ウエイトバック集計により男女別および年齢別では県民全体の傾向に近づける工夫を行ったものの、そもそもウェブアンケートでは登録モニターによる偏りがあることから、集計結果について、県民の「総意」とは若干異なる数字になっている可能性に留意しながら活用していくことが求められる。

- 注1) 本多則恵(2006)：インターネット調査・モニター調査の特質——モニター型インターネット調査を活用するための課題，日本労働研究雑誌 No. 551，2006 年 6 月.
- 注2) 調査対象者：18 歳以上の県民 3,200 人→有効回収数 1,582 (49.4%)
抽出方法：住民基本台帳からの等間隔無作為抽出
実施時期：平成21年12月～平成22年1月
- 注3) 調査対象者：20 歳以上の県民 2,000 人→有効回収数 1,075 (53.8%)
抽出方法：市町村住民基本台帳に基づく市町村人口で案分し、当該標本数を市町村住民基本台帳から無作為抽出
実施時期：平成21年1月